

86

12/x

官省
法學士
水野鍊太郎先生著

著作權法要義

全

東京
有斐閣書房
明法堂

內務省
參事官
法學士
水野鍊太郎先生著

著作權法要義

全

東京
明有斐閣書房

86
10/x

凡例

一 本著ハ新法ノ條文ヲ説明シ其ノ意義ヲ明ニスルヲ以テ目的トセリ故ニ立法論ニ涉リ學理上ノ論究ヲ試ミ又ハ外國法ト比較シ其ノ可否ヲ論定スルカ如キハ成ルヘク之ヲ避ケタリ、

一 然レトモ現行版權法、脚本樂譜條例、寫真版權條例ト之ヲ對照シ又ハ同盟條約トノ關係ヲ明ニスルハ最モ必要ナルヲ以テ新法ノ條項ノ下ニ關係條文ヲ括弧シテ之ヲ示セリ

〔版〕ハ版權法、〔脚〕ハ脚本樂譜條例、〔寫〕ハ寫真版權條例、〔條約〕ハ千八百八十六年ノベルヌ條約、〔追加〕ハ千八百九十六年巴里會議ニ於テ決定シタル追加規程、〔解〕ハ同時ニ決定シタル解釋の宣言書ノ畧ナリ

凡例

一

著作權法要義目次

緒言	一
第一章 著作者ノ權利	四
第二章 僞作	一一四
第三章 罰則	一四〇
第四章 附則	一五二

著作權法要義目次畢

著作權法要義目次

86
12/2



要義

法學士 水野鍊太郎著

著作權トハ著作者が其ノ著作物ノ上ニ有スル權利ニシテ從來我國ニ於テ版權ト稱シ來リシモノナリ、版權ト云ヘハ單ニ出版スルノ權利ナルカ如ク解釋セラレ、彫刻模型寫真等ノ著作物ヲ包含シ及脚本樂譜ノ興行權ヲ保護スル新法ニ於テハ、版權ト稱スルハ其ノ意義狹隘ニ失スルノ感ナキ能ハサルヲ以テ新法ニ於テハ、著作權ナル名稱ニ改メテ、新法ハ現行版權法脚本樂譜條例及寫真版權條例ヲ合シテ之ヲ單一ノ法律ト爲シ、且保護スヘキ著作物ノ範圍ヲ擴張シ從來版權法等ニテ保護シ來リタル、文書、圖書、寫真ノ外ニ彫刻、模型等ノ美術上ノ著作物ヲモ著作權ノ目的物トセリ

十八世紀以前ニ於テハ歐米諸國ニ於テモ著作ノ權利ヲ認メス、或ル特種ノ著作物ニ限リ僅ニ之ヲ保護シタルニ過キス、殊ニ外國著作ノ權利ニ至テハ彼ノ排外主義ト相待テ之ヲ保護スルコトハ夢想タモセサリシナリ、然ルニ今世紀ノ後半ニ至リ漸シ學者藝術家ノ智能ノ果實タル著作物ヲ保護スルノ必要ヲ認メ、且學術ノ進歩ト國際關係ノ親密トニ伴ヒ排外主義其ノ跡ヲ絶チ今日ニ於テハ著作權ヲ以テ世界的權利ナリトスルノ主義ヲ承認スルニ至レリ、

我國ニ於テモ從來版權條例、版權法等ニ依リ或ル種類ノ著作物ニ保護ヲ與ヘ來リシモ其ノ著作物ノ種類ハ僅ニ文書、圖書、寫真等ニ過キス、且外國著作者コハ凡テ此ノ權利ヲ認メサルノ主義ヲ採レリ、然ルニ近時歐米諸國ト交訂シタル改正條約ニ於テハ歐米列國ト對等ノ地位ニ立タンコトヲ努メ外國領事裁判制ノ回撤ヲ謀リ同時ニ著作權保護ニ關スル列國同盟ニ加入スルコトヲ約定セリ、而シテ我國カ此ノ同盟ニ加入スルニ當リテハ著作權保護ニ關シ内外國人不平等主義ヲ改メテ平等主義ヲ採ラサル可カラス而シテ新法ハ此ノ主義ヲ認メタルカ如シ、故ニ我國コ

於ル著作權制度ハ國內の主義ヨリ世界的主義ニ移リタルモノト云フヘシ、

著作權法ハ學者藝術家ノ精神の勞力ニ依リテ得タル製作物ヲ保護シ其ノ勞力ニ酬ユルヲ以テ其ノ主眼ト爲ス、著作權ノ完全ナル保護ハ其著作物ヲ獎勵スルノ途ナリ、學藝美術ヲ發達セシムルノ方法タリ、文運ノ進歩如何ハ實ニ此ノ保護ノ厚薄如何ニ在テ存ス、故ニ學藝美術ノ淵藪ト稱セル佛蘭西、獨逸、白耳義等ノ諸國ニ於テハ著作權保護ノ完全ナランコトヲ欲シ或ハ條約ニ依リ或ハ立法ニ於テ此ノ目的ヲ貫徹センコトヲ期セリ、新法カ保護スヘキ著作物ノ範圍ヲ擴張シ其ノ保護ヲ強固ニシタルモ全ク此ノ主旨ニ外ナラサルナラン、

智能權ノ一種タル著作權ノ法理上ノ性質ニ至テハ歐米ノ學者中特ニ之ヲ攻究スルモノ少カラスト、雖果タ其ノ根本的原理ヲ確定シタルモノアルヲ見ス、此ノ問題ハ極メテ重要ニシテ且最モ興味アル事項ナリト雖之ヲ論定スルハ本著ノ目的ニアラサルヲ以テ更ニ他日ヲ期シテ卑見ヲ公ニスルコトアラソ、本著ハ單ニ新法ノ意義ヲ明ニシ著作出版ノ業ニ從事スル者ノ參考ニ資セントスルニアルニミ、世人

若シ本著ニ依リテ新法ノ主旨ヲ解シ著作權ノ性質ノ一斑ヲ知得スルヲ得ハ本著ノ目的ヲ達シタルニ庶幾カラシカ、

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖畫彫刻模型寫真其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

(版第一條第十九條、同第二條、第四條、寫第一條、條約第四條)

本條ハ著作者ノ權利ノ内容ヲ規定ス

版權法ニ於テハ其ノ第一條ニ版權ノ定義ヲ掲ケ凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其ハ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ云々ト規定セシモ著作權法ニ於テハ民

法ノ例ニ倣ヒ法律ニ著作權ノ定義ヲ掲ケス蓋シ著作權ノ何タルヤハ法律全體ヲ通讀シ其ノ性質ヲ研究スルトキハ自ラ明ナルヲ以テ特ニ定義ヲ掲ケルノ必要ナシ法律ニ定義ヲ掲ケルハ舊主義ノ立法ニ於テ往々見ル所ノモノナレトモ是レ管ニ無益ノ業タルノミナラス却テ誤解ヲ來スノ基ヲレハ定義ヲ案出スルハ學者ノ研究ニ委テ法律ニ於テハ只其ノ實質ヲ規定スルヲ以テ足レリトス著作權法ハ此ノ主義ニ基キテ立法シタルモノニシテ法律中定義ヲ掲ケタル條文ナシ

著作權トハ著作權法ニ依テ著作者ノ有スル權利ナリ故ニ著作者ノ權利ノ性質ヲ明ニスルトキハ著作權ノ性質ハ自ラ分明ナルニ至ルヘシ而シテ著作者ノ權利ハ本條ニ於テ文書演述圖畫彫刻模型寫真其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ複製スル專權ナリト明言セリ故ニ本條ノ意義ヲ解説スルトキハ著作權ノ如何ナルモノタルヤヲ知リ得ヘシ恰カモ民法ニ於テ所有權ノ定義ナキモ所有者ノ權利ノ性質ヲ研究スルトキハ所有權ノ何モノヲ

ルヤチ釋解シ得ルカ如シ、

本條ハ版權法ノ第一條ニ該當スルモノニシテ著作ノ權利ノ内容ニ關スル規定ナリ、而シテ其ノ保護スル著作物ノ種類ニ付テハ版權法ト著作權法ト其ノ範圍ヲ異ニス、版權法ニ於テハ單ニ文書圖畫ノミチ保護スルモ著作權法ニ於テハ文書圖畫ニ加フルニ彫刻損型等ノ如キ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲモ保護ス、是レ著作權保護ニ關スル同盟條約ノ規定ト權衡ヲ得セシムルカ爲メニ生シタル結果ニシテ、同盟條約ニ於テハ文藝學術ノ著作物ト同様ニ美術ノ著作物ヲモ保護スヘキ著作物中ニ列擧ス(同盟條約第一條第四條)我國ニ於テハ從來文書圖畫ニハ版權ノ保護ヲ與ヘシモ彫刻模型等ノ如キ所謂美術上ノ著作物ニハ何等ノ保護ヲ與ヘザリシナリ、從テ美術家ノ苦心シテ製作シタル彫刻模型ヲ模擬シテ之ヲ發賣スルモノアルモ著作家ハ之ニ對シテ何等救濟ヲ求ムルノ途ナカリシナリ、蓋シ我國ニ於テハ美術上ノ製作物ヲ模製シ他人ノ利益ヲ害スルカ如キ事實ハ從來多ク其ノ例ヲ見ザリシヲ以テ或ハ美術

上ノ著作物ヲ保護スルノ必要ナカリシナランモ、條約實施セラレ外國人トノ交通頻繁ニ爲リ、且民法商法等モ施行セラル、ニ至ラハ國民ノ權利思想發達シ法令ニ規定ナキヲ利用シ他人ノ權利々益ヲ侵害スルニ至ルヘキヲ以テ、成ルヘシ廣シ著作家ノ權利ヲ保護スルノ規定ヲ設クルハ實ニ緊要ノコトナリトス、加之我國ノ美術ハ外國ニ於テモ之ヲ賞揚シ之ヲ模擬スルノ傾向アルヲ以テ我美術ノ發達ヲ謀リ其ノ著作物ヲ獎勵スルニハ學藝ノ著作物ヲ保護スルト同様ニ美術上ノ著作物ヲモ保護セサル可カラス、蓋シ彫刻繪畫模型ノ如キ美術上ノ著作物ヲ製作スルハ學藝上ノ著作ヲ爲スト同一ニ精神上ノ努力ト思考力トヲ要スルモノニシテ決シテ二者ノ間ニ差違ノ存スルモノニアラス、既ニ學藝上ノ著作物ヲ保護スルコトノ必要ナル以上ハ美術上ノ著作物ヲ保護スルノ必要モ亦之ヲ認メサル可ラス、同シク精神上ノ著作物ニシテ一チ保護シ他チ保護セサルノ理アラシヤ、況ンヤ同盟條約ニ於テモ之ヲ保護スルノ規定アルニ於テチヤ、是レ著作權法ニ於テ美術上ノ著作物ヲモ保護スヘキ

著作物中ニ加ヘタル所以ナリ、

版權法ニ於テハ保護スヘキ著作物ノ種類ヲ限定シ單ニ文書圖書ノミトセリ即チ吾人ノ思想ヲ筆ニシタルモノ、ミナ保護セルモノ、如シ版權法第一條ニハ凡ソ文書圖書ヲ出版シテ「トアリ、故ニ文書圖書ニアラサルモノ即チ筆ニセナル著作物ハ版權ノ保護ヲ受クル限リニアラサルカ如ク解セラル、只同法第七條ニ版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其ノ相續人ニ屬スルモノトス講義若ハ演説ヲ筆記シタルモノ、版權亦同シ後略「トアルニヨリ講義演説モ亦版權ノ目的物タルカ如ク見ユルモ此ノ版權ヲ侵害スルハ之ヲ筆記スルニ於テ始メテ生スルカ如シ蓋シ版權法ニ於テ版權ナル語ハ著作者ノ文書圖書ヲ出版スル權利ヲ指スモノナルヲ以テ之ヲ出版セザレハ版權侵害ト爲ラサルカ如シ故ニ他人ノ文書ヲ講演シ若ハ他人ノ講義演説ヲ其ノ儘ニ講述スルハ版權侵害ニアラス、然レトモ講述ト雖モ他人ノ著作シタルモノヲ摸擬スル以上ハ其ノ著作者ノ權利ヲ侵害スルモノナレハ之ヲ出版スルト否ト

ヲ問ハス之ヲ禁制セザル可カラズ、是レ著作者ヲ保護スルニ於テ缺ク可カラサルコトアリ、抑モ講演ト云ヒ文書ト云ヒ等シク著作者ノ腦裡ヨリ出テタル著作物ナレハ荷モ之ヲ剽竊スルモノアルトキハ其ノ形ノ出版ナルト口述ナルトニ係ラス之ニ制裁ヲ加ヘサル可ラス、是レ著作權法ニ於テハ特ニ演述ヲ保護スヘキ著作物中ニ列舉シ之ヲ複製スルノ權利ヲ著作者ニ專有セシメタル所以ナリ、

次ニ著作物ノ意義ヲ説明スヘシ著作物トハ英語ノ Work 佛語ノ Oeuvre 獨語ノ Werkニ該當スル語ニシテ有形ト無形トナ問ハス吾人ノ精神の勞力ニヨリテ得タル一切ノ製作物ヲ云フ、即チ文書圖書彫刻模型等ハ勿論演説モ講義モ寫眞モ建築物モ凡テ著作物ナリ、版權法ニ於テハ是等著作物ノ中單ニ文書圖書ノミナ保護セリ、著作權法ニ於テハ其ノ範圍ヲ擴張シ荷モ文藝學術並ニ美術ノ範圍ニ屬スルモノハ凡テ之ヲ保護スルコト、セリ（建築物ハ之ヲ除外セリ、第五十二條、故ニ文書圖書彫刻模型寫眞等ハ勿論其ノ他文藝學術並ニ美術ノ著

作物ト看做ナルヘキモノハ凡テ本法ノ保護スヘキ著作物ニ屬ス、本條ニ文書
 演述圖書彫刻寫真云々ト列舉セシハ單ニ例示シタルニ止リ、此ノ列舉以外ノ
 モノト雖モ尙モ學藝美術ノ範圍ニ屬スルモノハ本法ノ保護ヲ受クルコトヲ
 得ルナリ、文藝學術ノ著作物トハ同盟條約ニ所謂文學的著作物(Oeuvre littéraire)ト
 同一ノ意義ニシテ言語文字ヲ以テ吾人ノ思想ヲ言顯ハス一切ノ製作物ヲ云
 フ、美術ノ著作物(Oeuvre artistique)トハ美術ノ觀念ヲ顯ハス所ノ製作物ニシテ繪
 畫彫刻模型ノ如キ其ノ主要ナルモノナリ、而シテ美術ノ著作物ノ範圍ハ何レ
 ナリテ限界トスルヤハ事實問題ナリ、此ノ問題ヲ決定スルニハ一ノ著作物カ
 美術ト稱スヘキ部分ニ屬スルヤ否ヤニ因リテ定マル、而シテ何カ美術ナリヤ
 ノ問題ハ美術論ニ屬シ著作權法ノ關スル所ニアラス、一ノ著作物カ美術ノ範
 圍ニ屬スルモノナリトノ前提ガ定マリテ始メテ著作權ノ目的物タルナリ、
 寫真ハ美術的著作物ナリヤ否ヤノ問題ハ歐米諸國ニ於テモ從來爭ノ存スル
 所ナリシカ近來ニ至リテハ各國ニ於テ之ヲ美術的著作物ト爲スコ傾キタリ

故ニ本法ニ於テモ之ヲ美術ノ範圍ニ屬スル著作物トシテ本條ニ於テ之ヲ
 明示セリ其ノ詳細ハ第二十三條ノ說明ニ讓ル、
 複製トハ一ノ著作物ヲ複製スルノ謂ニシテ英語ニテハ之ヲ reproduce 佛語ニ
 テハ reproduire 獨語ニテハ Uervielfältigen ト云フ、版權法ニ於テハ翻刻ナル語ヲ用
 ヒシモ翻刻トハ文書圖書ヲ其ノ儘ニ模寫印刷スルノ謂ニシテ彫刻模型寫真
 等ノ複製ニ相當セス、從テ文書圖書ノ外ニ美術的著作物ヲ加ヘタル著作權法
 ニ於テハ翻刻ナル文字ハ狭キニ失スルヲ以テ凡テノ著作物ノ複製ニ適用サ
 ルヘキ複製ナル語ヲ用ヒタリ、又翻刻トハ普通ニ原著作物ヲ同一ノ形ヲ以テ
 模寫印行スルコトヲ云フモノニシテ異リタル形體ヲ以テ複製スル場合ヲ包
 含セス、然ルニ複製ト云ヘハ凡テ廣ク一ノ著作物ヲ複製スルモノナレハ同一
 ノ形體ヲ以テスルト別種ノ形體ヲ以テスルト將々又其ノ方法ノ如何ナルト
 ナ問ハサルナリ、故ニ繪畫ヲ寫真ニ攝ルモ複製ナルヘシ、彫刻ヲ模型ニ作ルモ
 複製ナルヘシ、又他人ノ演說講義等ヲ筆記シ又ハ之ヲ演スルモ亦複製ナリ、是

等ハ其ノ形體ト方法コソ異ナレ等々他人ノ著作物ヲ複製スルモノコシテ他人ノ思想ヲ剽竊スルモノナレハ其ノ著作物ノ利益ヲ保護セシムルハ凡テ此ノ行爲ヲ爲スコトヲ禁制セサル可カラズ、換言スレハ一ノ著作物ヲ複製スルノ權利ハ其ノ著作物ノ專有ニ歸セシメサル可カラズ、是レ著作權法ニ於テ翻刻ナル語ヲ改メテ更ニ廣汎ノ意義ヲ有スル複製ナル語ヲ用ヒタル所以ナリ、同盟條約ニ於テモ reproduce ナル語ヲ用ヒ其ノ形體ノ如何ヲ問ハス凡テ一ノ著作物ヲ複製スルコトヲ汎ク包含スル旨ヲ明言セリ條約第十條、

以上ノ説明ニテ本條ニ使用シタル文字ノ意義ハ分明ニ爲リタルナラン、而シテ本條ニ於テハ文藝學術若クハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ複製スル權利ハ著作物ニ專屬スト規定セリ、故ニ如何ナル形體ヲ以テスルヲ問ハス、又如何ナル方法ヲ以テスルヲ論セス、凡テ自己ノ著作物ヲ複製スルハ其ノ著作物ノミ之ヲ爲シ得ヘク他人ハ其ノ著作物ヲ許諾ヲ得ルニ非サレハ何人モ之ヲ爲スコトヲ得ス、若シ著作物ノ許諾ナリシテ之ヲ爲シタルトキハ著作權ノ侵害ト爲

リ損害賠償ノ責ニ任セサル可カラズ、例ハ他人ノ著書ヲ其ノ儘ニ翻刻シタルトキハ勿論之ヲ修正増補スルモノ之ヲ翻案スルモノ、又他人ノ畫ヲ彫刻ニ作り若ハ其ノ彫刻ヲ寫眞ニ撮ルカ如キ凡テ複製ノ行爲ナレハ其ノ著作物ノ許諾ナクシテ之ヲ爲シタルトキハ僞作ト爲ルナリシ、然レトモ是等ノ行爲ニテモ或ル場合ニ限り特ニ之ヲ僞作ト看做サ、ルコトアリ、第三十條ノ場合は是レナリ其ノ理由ハ同條ノ説明ニ於テ之ヲ述フヘシ、

此ノ如ク著作物ノ權利ハ自己ノ著作物ヲ複製スルノ專權ニシテ之ヲ裏面ヨリ云ヘハ他人ヨリ其ノ著作物ヲ僞作サレサルノ權利ナリ、著作物ノ此ノ權利ヲ稱シテ著作權ト云フ、著作權ハ近世ニ至リ始メテ法律ニ認メラレタル權利ニシテ實ニ十九世紀ノ後半ニ於テ發生シタルモノナリ、著作權ノ沿革ハ他日別ニ世ニ公ニスヘシ、抑モ此ノ權利ヲ認メ之ヲ保護スルハ學藝美術ノ發達ヲ謀リ良著作ノ世ニ現出スルコトヲ獎勵スルノ目的ニ出テタルナリ、蓋シ此ノ權利ノ基礎ハ著作物ノ勞力ニ酬ユルニ依リテ著作物ヲシテ其ノ著作物ヨリ

生スル利益ヲ専有セシメントスルニアリ、若シ著作者ニシテ此ノ權利ヲ有セザラザカ世間一般ノ人ハ自由ニ其ノ著作物ヲ剽竊シ之ヲ翻刻シ之ヲ發賣頒布スヘク從テ著作者ハ空シク其ノ利益ヲ奪去ラレ、自己ノ勞力ニ對シ何等ノ報酬ヲ得ルコトナクシテ止ムニ至ラン、而シテ他人ハ自ラ勞セスヲ利益ヲ享有スルコトヲ得ルニ至ル此ノ如ク著作者カ苦心シテ製作シタル結果ヲ他人ニ奪去ラル、トキハ著作ニ勞力ヲ費スノ愚ヲ爲スモノナカルヘク、從テ良著明作ノ世ニ出ツルコトナシ、此クテハ學藝美術ノ發達ヲ謀ルニ由ナク、文明ノ進歩ヲ沮害スルコト之ヨリ甚シキハナシ是ヲ以テ近世文明諸國ニ於テハ著作者ノ權利ヲ十分ニ保護シ、著作者ヲシテ著作物ヨリ生スル利益ヲ完全ニ享有セシメ、以テ名著大作ノ現出ヲ獎勵ス、是レ實ニ學藝美術ヲ發達セシムルニ於テ止ム可カラサルコトナリ、著作權法ノ主旨トスル所全ク之ニ外ナラス、本條ニハ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ有スト云ヒ之ヲ發行スルノ權利ヲ有スト云ハス、然ラハ發行スルノ權利ハ著作權ノ中ニ包含セラレサ

ルカ、曰ク否ナ、複製スル權利ヲ有スト云フ以上ハ之ヲ發行スルノ權利ハ當然其ノ中ニ包含セラル、ナリ、何トナレハ發行ニハ必ラス複製ヲ要シ、複製ナクシテ發行スルコトアルヘキ管ナケレハナリ、例ヘハ書物ヲ出版スルハ發行ニシテ必ス複製ヲ要ス、寫眞ヲ發賣スルコハ之ヲ複製セサル可カラズ、故ニ複製ノ權利ヲ有スト云ヘハ當然發行ノ權利ヲ包含スルナリ、版權法ニ版權ヲ定義シテ文書圖書ヲ出版シテ利益ヲ専有スル權利ト云ヒタルト其ノ内容ハ少シモ異ナラス、既ニ複製スルノ權利ヲ有スル以上ハ出版スルノ權利ヲ有シ複製ノ權利ヲ専有スル以上ハ複製ニ因リテ生スル利益ヲ専有スルヤ固ヨリナリ、何トナレハ他人ハ著作者ノ許諾ナクシテ其ノ著作物ヲ複製スルコトヲ得ナルヲ以テ複製シテ利益ヲ専有スルノ權利ハ當然著作者ニノミ屬スレハナリ、歐米諸國ノ著作權法例ヘハ米國著作權法、匈牙利著作權法ニ於テ著作者ハ著作物ヲ複製シ及發行スルノ權利ヲ有スト規定セルモノアルモ是レ重複ノ規定ナリ、複製スルノ權利ト云ヘハ發行スルノ權利ヲ明記スルヲ要セサルナリ、

本條ハ獨逸白耳義等ノ新主義ノ著作權法ニ倣ヒ單ニ複製ノ權利ノミヲ明言セリ

本條第二項ニ於テハ翻譯並ニ興行權ノコトヲ規定ス、翻譯權トハ原著物ヲ他ノ國語ヲ以テ言顯ハスノ權ヲ云フ、抑モ翻譯ナルモノハ同一ノ思想ヲ他ノ國語ニテ言顯ハスモノナレハ嚴格ニ之ヲ云フトキハ複製ノ一方法ニ外ナラス、從テ翻譯權ハ當然複製權即チ著作權ノ中ニ包含セラル、モノナリ、故ニ第二項ノ如キ規定ナキモ第一項ノ解釋上翻譯權ハ著作權ノ中ニ包含セラルトノ說ヲ立ツルコトヲ得ヘシ、然レトモ從來翻譯權ヲ以テ版權ノ一部ト看做サザリシヲ以テ特ニ明文ヲ以テ之ヲ明ニスルニ非サレハ疑義ノ生スルコトアルヲ免レス、殊ニ其ノ期間ニ關シテハ一般著作權ノ期間ト翻譯權ノ期間ト其ノ時期ヲ異ニスルヲ以テ此ノ二ツノ權利ハ全ク別種ノ權利ナリトノ說ヲ爲スモノナキコトヲ保スル能ハサルヲ以テ、明文ヲ以テ此ノ疑義ヲ決定スルノ必要アリ、是レ特ニ本項ノ規定アル所以ナリ、

興行權トハ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權利ナリ(脚本樂譜條例第一條參照)抑モ演劇脚本及樂譜ノ如キハ之ヲ演スルヲ以テ其ノ主タル目的ト爲スモノニシテ是等ノ著作物ハ出版ニ依リテ利益ヲ得ルヨリハ寧ロ興行ニ依リテ利益ヲ得ルコト多シトス、故ニ脚本樂譜條例ニ於テモ演劇脚本及樂譜ノ版權ヲ有スル者ハ興行權ヲ併有スルコトヲ得ト規定シ、又歐米ノ著作權法ニ於テモ戲曲の並ニ音樂的著作物(Oeuvre dramatique et musicale)ハ凡テ興行權ヲ包含スト爲ス又同盟條約ニ於テモ其ノ第九條ニ於テ條約第二條ノ規定複製ノ權利ヲ同盟國ノ臣民又ハ人民ニ與フルコト)ハ演劇脚本又ハ樂譜ノ興行ニ之ヲ適用スルコトヲ明言セリ、即チ是等ノ規定ハ脚本樂譜ノ興行權ヲ著作權中ニ包含セシムルノ謂ニシテ本項ノ主旨モ亦之ニ外ナラス、故ニ脚本樂譜ノ著作ハ之ヲ複製スルノ權利ヲ專有スルト同時ニ興行ノ權利ヲモ專有スルナリ、興行ナル語ハ從來我國ニ於テモ使用シ來リシ語ニシテ脚本樂譜條例ニ於テハ之ヲ註釋シテ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ公ニ演スルノ權利ト云ヘリ、例ヘハ忠

臣藏ノ脚本ヲ歌舞伎座ニテ演シ、或ハ音樂ノ樂譜ヲ寄席ニテ奏スルカ如キハ、脚本樂譜ノ興行ナリ、故コ興行ト云ヘハ利益ノ爲メニスルコト、公衆ノ前ニ爲スコトノ二ノ要素ヲ要ス、從テ自己ノ娛樂ノ爲メニ演奏スルカ如キハ興行ノ中ニ包含セラレサルナリ、

此ノ如ク翻譯權並ニ興行權ハ著作權中ニ包含セラル、權利ナルヲ以テ著作ノ許諾ナクシテ文藝學術ノ著作物ヲ翻譯シ又ハ脚本樂譜ヲ興行シタルキハ著作權ノ侵害ト爲リ之ニ依ツテ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルノ責任ヲ生スルモノトス、

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得

(版、第七條第一項、第八條、脚、第三條、寫、第二條、第七條)

本條ハ著作權ハ著作權ニ專屬スル權利ニアラスシテ讓渡スコトヲ得ヘキ權利ナルコトヲ規定シタルナリ、著作權モ一ノ財産權ナレハ民法ノ原則ニ從ヒ讓渡スコトヲ得ヘキモノタルハ明ナレトモ、此ノ權利ハ所謂人格權ニシテ特

ニ著作權ニ專屬スル權利ナリトノ説ヲ爲スモノアルヲ以テ或ハ性質上讓渡スコトヲ得サル權利ナリト誤解スルモノアルヲ恐レテ本條ニ於テ特ニ明文ヲ設ケテ其ノ然ラサルコトヲ明ニシタルナリ、苟モ專屬的權利ニアラスシテ他人ニ移轉シ得ヘキ權利ナル以上ハ之ヲ相續シ擔保ニ供シ、共有ト爲シ得ヘキコトハ當然ノ結果ナリ、特許法、商標法、意匠法等ニ於テハ特許、商標、意匠等ニ關スル權利ノ質入シ又ハ共有ト爲スコトヲ得ル旨ノ規定アレトモ是レ無用ノ規定ナリ、既ニ讓渡スコトヲ得ル權利ナリト明言スル以上ハ別ニ質入シ又ハ共有ト爲シ得ルコトヲ規定スルヲ要セス、版權法ニ於テハ其ノ第七條ニ於テ版權ハ著作權者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルコトヲ規定シ、第八條ニ於テ質渡シ又ハ讓渡スコトヲ得ル旨ヲ規定セルモ是レ亦蛇足タルヲ免レズ、又同法ニ於テハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ讓渡スコトヲ得云々トアルモ制限ヲ附シ若ハ附セスサルコトハ特ニ明言スルノ必要ナシ、苟モ讓渡スコトヲ得ル以上ハ其ノ全部タルト一部タルト、將タ又條件ヲ附スルト否トハ法ノ明文ナクシ

テ隨意ニ爲シ得ラル、コトニシテ恰モ民法上ノ凡テノ權利ノ讓渡ニ此ルコトヲ明言セサルト同一ナリ故ニ明文ナキモ著作權ハ其ノ一部タル翻譯權又興行權ノミヲ讓渡シ又ハ年限ヲ附シテ之ヲ讓渡スコトヲ得ルヤ勿論ナリ、

第三條、發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作人ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

(版第十條第一項、第二項、條約第二條第二項後段)

本條ハ著作權ノ繼續期間ヲ定メタルナリ、凡ソ權利ハ特別ノ規定ナキ限りハ永久無限ニ繼續スルヲ原則トス例ヘハ所有權ハ其ノ物件自身ノ滅失スルカ若ハ所有者ノ相続人ナキ場合ノ外ハ永久無限ニ繼續スルカ如シ、著作權モ本條ノ如キ規定ナキ以上ハ永久ニ繼續スヘキモノナリ、從テ未發行ノ著作物ノ著作權ハ本條ノ規定以外ニ屬スルカ故ニ永久ニ存スルモノトス、

發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ニ關シ本條ノ如キ規定ヲ設ケタルハ全ク公益上ノ理由ニ出テタルナリ、抑著作權ナルモノハ著作人カ其ノ著作物ヲ複製スルノ專權ナレハ著作人又ハ其ノ承繼人以外ノ者ハ何人モ其ノ著作物ヲ公ニスルコトヲ得ス、故ニ如何ニ其ノ著作物カ社會ニ有益ナルモノナルモ著作人又ハ其ノ承繼人ニシテ其ノ發行ヲ肯シセサルニ於テハ他人ハ決シテ之ヲ公ニスルコトヲ得ス、又其ノ發行ノ權ヲ一人ニ專屬セシムルトキハ其ノ利益ヲ壟斷シ從テ其ノ著作物ノ價格ハ高騰シ世間一般ノ人ハ廣ク其ノ著作物ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至ル、是レ決シテ學術ノ普及及發達ヲ謀ルノ途ニアラス、法律ハ著作人ノ權利ヲ保護スルト同時ニ社會一般ノ利益ヲ顧ミサル可カラズ、是レ今日何國ノ法律ニ於テモ發行後或ル一定ノ年限ヲ經過スルトキハ其ノ著作權ヲ消滅セシメ世間一般ノ人ヲシテ自由ニ之ヲ複製スルコトヲ得セシムル所以ナリ、然レトモ著作權ノ期間ニシテ短キコト失スルトキハ著作人ノ受クル利益僅少ナルヲ以テ十分ニ著作人ノ勞力ニ酬ユルコトヲ得ス、

著作カ多年ノ研鑽ヲ積ミ製作シタル著作物カ僅ニ數年ニシテ公有ニ歸シ
 何人モ自由ニ之ヲ複製スコトヲ得ルトキハ誰カ能ク著作ニ力ヲ盡スモノア
 ランヤ故ニ著作者ヲ保護スル側ヨリ見レハ成ルヘシ著作權ノ期間ヲ永クス
 ルヲ必要トス然レトモ單ニ著作者ノミヲ保護シ著作權ノ期間ヲ無限ニ永ク
 スルトキハ世間一般ノ人ハ廣ク其ノ著作物ヲ利用スルコトヲ得サルニ至ル
 左レハ著作權法ニ於テハ著作者ノ權利ト社會ノ利益トヲ調和シ著作權ノ期
 間ヲ定ムルニハ一方ニ於テ著作者ヲ保護シ一方ニ於テ公益ヲ害セサルヲ標準
 トシ短キニ失セズ長キニ偏セズ宜シク其ノ衷ヲ探ルコトヲ要ス版權法ニ於
 テハ版權保護ノ期間ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノ又ハ版權登錄ノ
 月ヨリ三十五年トセシモ是レ短キニ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ著作權法ニ
 於テハ歐洲諸國ノ法律ヲ參照シ著作權ノ期間ハ著作者ノ終身及死後三十年
 繼續ストセリ歐洲ニ於テ著作權ノ期間ハ最モ長キハ西班牙ニシテ著作者ノ
 終身及死後八十年ナリ佛國及白耳義ハ死後五十年獨逸奧太利匈牙利ハ死後

三十年ナリ最モ短キハ英國ニシテ著作者ノ終身及死後七年又ハ著作物第一
 發行ノ日ヨリ四十二年ナリ、

合著作物ノ著作權ニ關シテハ本條第二項ニ於テ合著作者中最終ニ死亡シタ
 ルモノ、死後三十年間繼續スト規定セリ例ヘハ甲乙丙三人ノ合著作物ノ著作
 權ノ期間ハ三人ノ中最後ニ死亡シタル者ヨリ起算シテ其ノ死後三十年間繼續
 スルモノトス合著作物ノコトニ關シテハ第十三條ノ說明ニ於テ詳論スヘシ、
 本條ハ發行又ハ興行シタル著作物ニ關スル規定ニシテ未ダ發行セス又ハ興
 行セサル著作物ノ期間ニ關シテハ本條ニ何等ノ規定ナキヲ以テ所謂權利ハ
 永久無限ニ繼續ストノ原則ニ依リ其ノ著作權ハ永久ニ存續スルモノトス蓋
 シ未發行又ハ未興行ノ著作物ハ著作者ニ於テ未ダ之ヲ完成セス從テ之ヲ公
 ニスルノ意思ナキモノト推定セサル可カラス故ニ其ノ著作權ニ期限ヲ附シ
 其ノ期限ヲ經過シタル後世間一般ノ人ヲシテ之ヲ公ニスルヲ許スハ著作者
 ノ權利ヲ害スルコト甚シキヲ以テ未發行又ハ未興行ノ著作物ニ關スル權利

ハ永久ニ繼續スルモノトセリ、
著作權ノ期間ニ關シ茲ニ少シク本條ト同盟條約トノ關係ヲ述ヘン
條約第二條第二項後段ニ曰ク

「他國ニ於ル著作權ノ享有ハ其ノ本國ニ於テ附與スル保護ノ期間ヲ超過ス
ルコトヲ得ス」

本國ト云フハ既刊ノ著作物ニ關シテハ始メテ著作物ヲ發行シタル國ヲ云ヒ
未刊ノ著作物ニ關シテハ其ノ著作權ノ屬スル國ヲ云フ條約第二條第三項第
四項故ニ例ヘハ佛國及白耳義ノ著作權法ニ於テハ著作權ハ死後五十年間繼
續スルモ我著作權法ニ於テハ死後三十年ニシテ消滅スルヲ以テ我國ニ於テ發
行シタル著作物ハ佛國及白耳義ニ於テモ亦死後三十年ニシテ消滅ス。同國著作
權法ニ從ヒ死後五十年間繼續スト主張スルコトヲ得ス之ニ反シ英國著作權
法ニ於テハ死後七年ニシテ消滅スルヲ以テ英國ニ於テ始メテ發行シタル著
作物ニ關シテハ我國ニ於テモ亦七年ニシテ消滅シ我國法ニ從ヒ死後三十年

間保護ヲ享有スルコトヲ得サルカ如シ要スルニ著作權ノ期間ニ關スル國際
的關係ハ兩國ノ著作權法ニ規定セル期間ノ中短キ規定ヲ以テ保護年限ノ低
觸ヲ決定スル標準ト爲セシナリ、

第四條 著作權ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ 發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

(版第十條第三項)

本條ハ著作權ノ死亡後ニ公コスル著作物ノ著作權ノ期間ヲ規定シタルナリ、
即チ著作權ノ相續人又ハ原稿ノ讓受人カ先人ノ遺稿ヲ發行又ハ興行スル場
合ニシテ實際ニ於テモ往々見ル所ノモノナリ、此ノ場合ニ於ル著作權ノ期間
ノ計算方法ハ著作權ノ生存間ヲ標準トスルコトヲ得サルヲ以テ其ノ著作物
ヲ發行シ又ハ興行シタルトキヨリ起算シ三十年間繼續ストセリ、獨逸ノ著作
權法ニ於テハ此ノ場合ニ於ル著作權ノ期間ヲ計算スルハ普通ノ場合ト同シ
ク著作權ノ死後三十年トセルモ(同國著作權法第十二條是レ不當ノ規定ニシ

テ學者中ニ之ヲ非難スルモノ少カラス、何トナレハ若シ著作ノ死亡後二十年若クハ二十五年ヲ經テ發行スル場合ニハ其ノ著作權ハ僅カニ十年若クハ五年ニシテ消滅スルコト、爲ルノミナラス場合ニ依リテハ發行前ニ消滅スルノ結果ヲ生スルヲ以テナリ、我著作權法ニ於テハ此ノ不都合ヲ避クル爲メニ獨逸法ノ主義ヲ採ラスシテ本條ノ如キ特別ノ規定ヲ設ケタリ、

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

本條ハ無名又ハ變名著作物ノ著作權ノ期間ヲ規定シタルナリ、無名著作物トハ其ノ著作物ニ著作者ノ氏名ヲ掲ケスシテ發行スルモノヲ云ヒ變名著作物トハ著作者ノ真正ノ名ヲ顯ハサス假名ヲ付シテ發行スルモノヲ云フ、例ヘハ東海散史著又ハ夢の家主人著トシテ發行セル著作物ノ如キ變名著作物ナリ、是等ノ著作物ハ其ノ著作者ノ何人タルヤヲ知ルコトヲ得ス、從テ著作權期間

ノ標準ヲ著作者ノ生存間ニ置クコトヲ得サルヲ以テ前條ト同一ノ理由ニ依リ發行又ハ興行ノトキヨリ期間ヲ起算スルコト、セリ、從來我國ニ於テハ無名又ハ變名著作物ノ例少ク偶々表題ニハ著作者ノ假名ヲ掲クルモノアルモ其ノ書籍ノ後尾ニハ著作者ノ實名ヲ顯ハスヲ常トセルヲ以テ是等ハ真正ノ變名著作物ニアラス假令其ノ表題ニ假名ヲ用ユルモ著作物中何レノ部分ニテモ實名ヲ顯ハセルトキハ最早變名著作物ニアラサルナリ、要スルニ無名又ハ變名著作物ハ其ノ著作物ニ依リ著作者ノ何人タルヤヲ知ルコト能ハサルモノヲ云フナリ、
凡ソ自己ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルト否トハ著作者ノ自由ナリ、其ノ氏名ヲ顯ハスコトヲ欲セザレハ之ヲ無名ト爲シ又ハ變名ト爲スコトヲ得ヘシ、又一旦無名又ハ變名ニテ公ニシタル後ニ於テモ著作者ハ何時ニテモ其ノ實名ヲ顯ハスコトヲ得ルナリ、然レトモ其ノ實名ヲ顯ハスノ方法タルヤ單ニ之ヲ他人ニ語り又ハ新聞紙ニ廣告セシノミニテハ不可ナリ、之ヲ官廳ノ記録ニ登

載セサル可ラス即チ登録是レナリ、是レ蓋シ新聞紙ノ廣告又ハ他人ヘノ談話ニテハ未ダ十分ニ實名ヲ顯ハシタルヤ否ヤヲ證明スルコトヲ得ス、公ノ手續ヲ盡シ始メテ之ニ信用ヲ置クヲ得ヘケレハナリ、而シテ一旦實名ノ登録ヲ受ケタル以上ハ著作權ノ氏名ヲ顯ハシタルモノニシテ最早無名又ハ變名著作物ニアラス、從テ著作權ノ何人タルヤヲ知り得ヘキヲ以テ著作權ノ期間ヲ計算スルニ發行又ハ興行ノトキヨリ起算スル必要ナシ故ニ第三條ノ原則ニ戻リ著作權ノ終身及死後三十年繼續スルコト、爲ルナリ、是レ本條但書ヲ設ケタル所以ナリ、

第六條 官公衛學校社寺協會々社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

(版第十條第三項)

官公衛學校社寺協會々社等ハ無形人ナルヲ以テ自ラ著作スルコトヲ得サル

ハ固ヨリナリ、然レトモ官廳學校ノ著作トシテ著作物ヲ發行スルコトハ實際ニ於テ往々見ル所ナリ、例ヘハ大學一覽ヲ帝國大學ノ著作トシテ發行シ、內務省ノ統計年鑑ヲ內務省ノ著作トシテ發行スルカ如シ、殊ニ學校會社等カ法人タル場合ニハ法人トシテ著作權ヲ有スルコトハ法律上アリ得ヘキコトナリ、而シテ官廳學校會社等ハ無形人ナルヲ以テ生死ノアルヘキ筈ナシ、從テ著作權ノ期間ヲ生存死亡等ニヨリテ定ムルコトヲ得ス、故ニ第四條第五條ト同一ノ理由ニ依リ本條ニ於テモ其ノ著作權ノ期間ハ其ノ著作物ヲ發行又ハ興行シタルトキヨリ起算スルコト、セリ、

第七條 著作權者原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

(版第十九條第一項、條約第五條第一項追加第一條第三)

本條ハ翻譯權ノ期間ヲ定メタルナリ、第一條ニ依レハ文藝學術ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含ストアルニ依リ翻譯權ハ著作權ノ一部タルコトハ明ナリ、從テ特別ノ規定ナキ以上ハ翻譯權モ亦著作權ノ終身及死後三十年間繼續スト云ハナル可ラス、然レトモ翻譯權ハ此ク長期ニ繼續セシムル必要ナキノミナラス翻譯權ノ期間ヲ永カラシムルトキハ學問ノ普及發達ニ害アルヲ以テ本條ニ於テ此ノ例外ヲ設ケ著作權中ノ翻譯權ハ特ニ其ノ期間ヲ短縮シ原著物發行ノトキヨリ十年ニシテ消滅スルコト、セリ、然レトモ翻譯權ノ消滅スルハ著作權者カ原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セザルトキニ限ル、故ニ若シ著作權者カ自ラ其ノ著作物ヲ翻譯シテ之ヲ發行シタルトキハ其ノ翻譯權ハ著作權者ノ終身及死後三十年間繼續シ其ノ期間内ハ何人モ之ヲ翻譯ズルコトヲ得ス、蓋シ著作權者カ十年内ニ其ノ著作物ヲ翻譯シテ之ヲ發行スルトキハ翻譯權留保ノ意志ヲ表示シタルニ等シケレハ其ノ翻譯權ノ期間ハ延長シテ普通著作權ノ期間ト同一ニ爲ル

ナリ、
 著作權者自ラ翻譯ヲ爲サス他人ヲシテ之ヲ翻譯セシメタルトキハ如何此ノ場合モ亦本條ニ包含セラル、モノナリ、蓋シ他人ヲシテ之ヲ爲サシムルハ自ラ之ヲ爲スト同シク等シク翻譯權ヲ行使スルモノナリ、故ニ他人ヲシテ其ノ翻譯物ヲ發行セシメタル場合ニ於テモ翻譯權ハ消滅セズシテ恰カモ自ラ爲シタルト同一ノ結果ヲ生ス、同盟條約第五條ニハ翻譯物ヲ發行シ、又ハ發行セシメ、云々トアルモ發行セシメ、云々ハ當然發行シ、中ニ包含スルヲ以テ本條ハ特ニ發行セシメ、云々ノ文字ヲ用ヒサリシナリ、
 第二ノ問題ハ翻譯權ヲ讓渡シタルハ如何トノ問題ナリ、此ノ場合ニハ原著作者ハ最早翻譯權ヲ有セザルヲ以テ原著作者ノ翻譯權中ニハ著作權ヲ包含セス、從テ原著作者ニ對シテハ本條ノ適用ナシ、然ラハ其ノ翻譯權ヲ讓受ケタル者ハ如何、蓋シ此ノ場合ニ翻譯權ヲ讓受ケタル者ハ翻譯權ニ關シテハ著作權者ノ地位ニ立ツヲ以テ其ノ讓受人カ原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ

翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權消滅ス若シ十年内ニ之ヲ發行シタルトキハ其讓受人ハ原著作物ノ著作權ト同一期間内翻譯權ヲ有シ世間一般ノ人ハ其ノ期間内ハ原著作物ニ就キ翻譯ヲ爲スコトヲ得ス、

本條第一項ニ依レハ著作權者カ原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ著作物ノ翻譯書ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅スルヲ以テ十年ノ期間ヲ經過スルトキハ何人カ之ヲ翻譯シテ發行スルモ自由ナリ所謂翻譯權カ公有ニ歸スルナリ然レトモ元來翻譯ナルモノハ他ノ國語ヲ以テ同一ノ思想ヲ言顯ハスモノナレハ原著作物以外ノ國語ヲ以テ原著作物ヲ複製スルハ凡テ翻譯ナリ例ヘハ日本語コテ著作シタルモノヲ佛語ニ改ムルモ英語ニ背直スモ將タ又獨逸語伊太利語等ニ改ムルモ凡テ翻譯ナリ故ニ廣ク翻譯ト云ヘハ佛譯モアルヘク英譯モアルヘク將タ又獨逸譯伊太利譯モアルヘシ從テ翻譯權ト云ヘハ廣ク凡テ各國語ニ翻譯スルコトノ權利ヲ意味スルヤ明ナリ此ノ意義ニ從ヒ本條第一項ヲ解スルトキハ著作權者カ原著作物發行ノトキヨリ十

年内ニ何等ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ凡テノ國語ノ翻譯權消滅スルコトトナル之ヲ裏面ヨリ解スルトキハ著作權者カ十年内ニ一ノ國語ノ翻譯物ヲ發行スルトキハ凡テノ國語ノ翻譯權消滅セサルノ結果ヲ生ス例ヘハ著作權者カ十年内ニ英語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ英語ノ翻譯權ハ勿論佛獨伊語等ノ翻譯權モ亦消滅セサルカ如シ即チ著作權者カ單一ヶ國ノ語ニ翻譯ヲ爲シタルカ爲メニ凡テノ國語ノ翻譯權ヲモ保有スルノ結果ヲ來スナリ是レ著作權者ヲ保護スルニハ十分ナリト雖社會一般ノ利益ヨリ考フレハ妥當ナラサルカ如シ故ニ本條第二項ヲ以テ其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ單一其ノ國語ノ翻譯權ノミ消滅セサルコトヲ規定セリ例ヘハ著作權者カ英語ノ翻譯物ヲ十年内ニ發行シタルトキハ英語ノ翻譯權ハ消滅セスシテ普通著作權ト同一ノ期間内繼續スルモ其ノ他ノ國語即チ佛語獨逸語伊太利語等ノ翻譯權ハ前項ノ規定ニ從ヒ十年ニシテ凡テ消滅スルモノトス

本條第二項ハ不必要ノ規定ナリト論スルモノアリ、其理由トスル所ハ第二項ハ當然第一項ノ規定中ニ包含セラルト云フニアリ、夫レ或ハ然ラン、然レトモ第一項ハ翻譯權ノ期間ハ普通著作權ノ期間ヨリ短キコトヲ定メ原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ翻譯權(凡テハ國語)ハ凡テ消滅スル旨ヲ規定セリ、故ニ之ヲ裏面ヨリ解釋スルトキハ一ノ國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ凡テ他ノ國語ノ翻譯權モ尙存續スルヤノ疑アリ、故ニ第二項ノ規定ナキニ於テハ解釋上疑義百出シ紛争ノ種子タルヤ明ナリ、此ノ疑義ヲ明瞭ナラシメザルニハ法文ヲ以テ之ヲ明ニ規定スルヲ要ス、故ニ第二項ノ規定ハ少クモ疑義ヲ明解スルノ利益アリ、是レ立法者カ特ニ本條第二項ヲ設ケタル所以ナランガ、

本條ハ同盟條約第五條ニ該當ス、千八百八十六年同盟條約第五條ニ曰ク同盟國ノ一ニ屬スル著作及其ノ承繼人ハ同盟國ノ一ニ於テ原著物ヲ發行シタルトキヨリ十年内ニ其ノ著作物ヲ翻譯シ又ハ其ノ翻譯ヲ許與ス

ルノ特權ヲ有ス

此ノ規定ニ依レハ翻譯權ハ原著物發行ノトキヨリ十年ヲ經過スルトキハ全然消滅スルモノニシテ著作又ハ其ノ承繼人カ十年内ニ翻譯物ヲ發行シタル場合ニ於テモ尙ホ然リトス、換言スレハ翻譯權ハ單ニ十年間繼續スト云フニアリ、此ノ如ク千八百八十六年ノ同盟條約ニ於テハ絶對且無制限ニ凡テ翻譯權ハ十年ニシテ消滅ストノ原則ヲ採用セシモ是レ著作ノ權利ヲ保護スルコト薄弱ナルノミナラス元來翻譯權ハ著作權ノ一部ナレハ著作權ニシテ著作ノ終身及死後三十年繼續スルモノナレハ翻譯權モ亦同一ノ期間繼續セサル可カラス、翻譯權ニ限リ十年ニシテ消滅スルノ理由ナシ、此ノ理論ト實際ノ必要ニ基キ千八百九十六年ノ巴里會議ニ於テハ佛國委員ヨリ翻譯權ノ期間ヲ普通著作權ノ期間ト同一ニ爲スコトノ原案ヲ提出セリ、而シテ此ノ原案ハ討論ノ末遂ニ否決セラレタリト雖モ翻譯權ハ著作權ノ一部ナリトノ原則ハ之ヲ認メ、只原著物發行ノトキヨリ十年内ニ翻譯物ヲ發行セサルト

キニ限リ其ノ翻譯權ハ十年ニシテ消滅ストノ制限ヲ設ケタリ千八百九十六年ノ追加規程第一條第三ニ曰ク

同盟國ノ一ニ屬スル著作家又ハ其ノ承繼人ハ他國ニ於テ原著物ニ關スル權利ノ繼續期間中其ノ著作物ヲ自ラ翻譯シ又ハ其ノ翻譯ヲ許可スルノ特權ヲ有ス然レトモ原著物第一發行ノ日ヨリ十年内ニ同盟國ノ一ニ於テ其ノ保護ヲ請求セントスル國語ノ翻譯ヲ公ニシ又ハ公ニセシメテ其ノ權利ヲ利用セサルトキハ翻譯權ハ消滅ス

之ヲ千八百八十六年ノ條約ニ比スルニ絶對且無制限ニ十年ト限リタル翻譯權ノ期間ヲ著作家カ十年内ニ翻譯物ヲ發行セサルトキニ限リ十年ニシテ消滅ストノ制限的期間ト改メタルノ差アルノミ我著作權法ハ全ク此ノ追加規程ノ主義ヲ採用シタルナリ元來翻譯權ハ著作權ノ一部ニシテ翻譯ノ特權ハ著作家ニ專屬スト云ヘル原理ハ爭フ可カラサル正當ノ理論ニシテ既ニ版權法ニ於テモ此ノ主義ヲ認メタリ(版權法第十九條)然レトモ我國現今文化ノ狀

態ニ鑑ミルニ成ル可ク翻譯ヲ容易ニスルノ方法ヲ設ケルコト必要ナリ殊ニ英佛獨伊等ノ著作物ハ之ヲ我國語ニ翻譯シ國民一般ニテ容易ニ之ヲ閱讀セシムルノ便益ヲ與フルコトハ最モ肝要ノコトナリトス然ルニ翻譯權ノ期間ヲ永クシ普通著作權ノ期間ト同一ニ爲ストキハ我國文化ノ進歩ニ少カサル影響ヲ及ホスコトナラン而シテ英佛獨伊等ノ著作物ヲ我國語ニ翻譯スルモ實際原著家ノ利益ヲ害スルコトナシ蓋シ歐洲諸國ノ如キ比隣相接近シ且同一語源ノ國ニ於テ英書ヲ佛語ニ佛書ヲ獨言ニ翻譯スルカ如キハ實際原著家ノ利益ヲ害スルナラン例ハ英國ニ於テ發行シタル英人ノ著作物ヲ佛國ニテ佛語ニ翻譯シ之ヲ發行スルトキハ英人ノ著作物ハ其ノ販路ヲ妨ケラレ其ノ著作家ノ利益ニ影響ヲ及ホスコト決シテ甚少ナラサルヘシ然レトモ我國ノ如キ歐米ト國語ノ性質ヲ全ク異ニスル國ニ於テ之ヲ翻譯スルモ原著家ノ利益ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ否ナ翻譯書ノ發行アリタルカ爲メニ却テ其ノ原書ノ發賣高ヲ増シ原著家ノ利益ヲ與フルコトアララン從

テ我著作權法ニ於テ翻譯權ノ期間ヲ短縮スルモ同盟諸國ノ著作權ノ權利ヲ害スルコト萬々之ナシト信ス況ンヤ之ヲ短縮スルコトハ我國ノ文化ヲ進ムルニ於テ大ニ利益アルコト於テチヤ是レ本法ニ於テ翻譯權ニ關シテハ條約ノ許與スル範圍内ニ於テ最短期間ヲ採リタル所以ナリ

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條

ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス
一部分ツ、ヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

(版)第十一條條約第五條第一項第二項

本條ハ雜誌其他一部分ツ、漸次ニ發行スル著作物ノ著作權ノ期間計算方

定メタルナリ、一卷一冊限リニテ完成スル著作物ノ著作權ノ期間ノ計算ハ其ノ著作物發行ノトキヨリ起算スルハ明ナレトモ雜誌類ノ如キ冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スルモノニ付テハ稍疑ノ存スルアルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケタルナリ、

本條第一項ハ冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ハ每冊每號ヲ以テ一ノ完全ナル著作物ト看做シ其ノ著作權ハ每冊每號發行ノトキヨリ起算スル旨ヲ規定セリ、例ヘハ雜誌若ハ報告書ノ類又ハ日本政記、日本外史ノ如キハ一號一卷ニテ一ノ著作物ヲ爲スヲ以テ其著作權ノ期間ハ一號又ハ一卷ノ發行毎ニ之ヲ計算スルナリ、

第二項ハ字典、字書、講義録ノ如キモノニシテ一部分ツ、漸次ニ發行シ全部合シテ初メテ一卷ノ書ヲ成ス場合ナリ、例ヘハ法律學校ニテ發行スル講義録ノ如キハ只一號丈ニテハ完成セス、全部終結シ始メテ一卷ノ書物ヲ爲スモノナリ、又字典若ハ「エンサン」シロベディヤノ如キ漸次ニ發行シ全部完結シテ始メテ

一卷ノ書ヲ爲スモノナリ、是等ノモノハ第二項ニ依ルヘキモノニシテ各部分毎ニ著作權ノ期間ヲ計算セス全部完結シタル後、即チ最終ニ發行シタル部分ヨリ計算スルナリ、蓋シ此種類ノ著作物ハ全部完成シテ始メテ一ノ著作物ヲ成スモノナレハ各部分ニ付キ別々ノ著作權アルコトヲ得サルナリ、然レモ若シ一次以下ノ部分ヲ五年若シハ十年後ニ發行シ又ハ永久ニ發行セサルハ著作權ノ期間非常ニ延長シ、場合ニ依リテハ無限ニ繼續スルコトアルヘキヲ以テ本條但書ヲ以テ三年ヲ經過シ尙ホ繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス、ト規定シタリ、例ヘハ一ノ字典ヲ發行スルニ當リ一次二次三次ト順次ニ發行シ來リシカ三次以下ノ分ハ其ノ後三年ヲ經過スルモ尙ホ發行セサルトキハ三次ニ發行シタルモノヲ以テ其ノ字典ノ最終ノ部分ト看做シ、其ノ三次發行ノトキヨリ著作權ノ期間ヲ計算スルカ如シ、而シテ三年後ニ更ニ四次ノ發行ヲ爲シタルトキハ四次ノ部分ニ關シテハ新規ノ著作物ト看做シ、更ニ其ノ發行ノトキヨリ著作權ノ期間ヲ計

著

算スルナリ、故ニ此ノ場合ニハ著作權ノ期間ニ様ニナリ、一ノ著作物ニシテ或ル部分ノ著作權ハ他ノ部分ヨリ早ク消滅スルコトノ結果ヲ生ス

本條ノ規定ハ同盟條約第五條第二項第三項ニ該當ス、條約ノ規定ハ單ニ翻譯權ノ期間ニ付テノ規定ナレトモ本條ハ廣シ凡テノ著作權ノ期間ニ關スル規定ナリ、條約第五條第二項第三項ニ曰ク

一部分ツ、ハ漸次ニ發行スル著作物ニ關シテハ此ノ十年ノ期間ハ原著作物ノ最終部分ヲ發行シタル日ヨリ起算ス

數度ニ發行スル數卷ヨリ成ル著作物並ニ文學又ハ學術ノ協會若ハ一私人ヨリ發行スル報告書類又ハ類集冊子等ニ關シテハ十年ノ期間計算上各卷各冊子ヲ各自特別ノ著作物ト看做ス

用語ハ相異ナリト雖其ノ旨趣ハ本條ノ規定ト全ク相同シ、而シテ前者ハ本條第二項ニ該當シ、後者ハ第一項ニ該當ス、

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著

作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行シ又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

四二

(條約第五條第四項)

本條ハ著作權ノ期間ヲ計算スル起算點ヲ定メタルナリ、第三條ニ依レハ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作家ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ストアリ、死後云々トアルヲ以テ著作家ノ死亡シタル日ヨリ起算シテ三十年ヲ經過スレハ其ノ著作權ハ消滅スルコト、爲ルナリ然トモ著作家ノ死亡シタル日ハ世間一般ノ人ハ往々之ヲ知ラサルノミナラス、死亡シタル日ヨリ計算スルトキハ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテト計算セサル可カラスシテ其計算方法極メテ煩雜ナリ故ニ本條ニ於テハ其ノ死亡シタル年ハ全ク之ヲ除算シ其ノ翌年ヨリ起算スルコト、セリ、此クスルトキハ其ノ死亡シタル年ノ翌年ヨリ三十年目ニシテ著作權ハ消滅スルコト、爲ルヲ以テ其ノ計算甚ク簡易ナリ、又第四條乃至第八條ノ場合ニ於テモ著作物發行ノトキヨリ計

算スルトキハ其ノ發行日ノ何日タルヲヤチ取調ヘサル可カラス、而シテ其ノ發行日ヨリ三十年ヲ計算スルヲ以テ此場合ニ於テモ亦何年何月何日ヨリ何年何月何日マテト計算セサル可カラス、是レ前述シタル如ク極メテ煩雜ナルヲ以テ此ノ場合ニモ發行シタル年ヲ計算セス其ノ翌年ヨリ起算スルコト、セリ、此ノ規定ハ著作權期間計算ノ便利ヲ謀リタルモノニシテ著作權者ニ取リテモ別ニ不利益ヲ來タサス世間一般ノ人ハ大ニ便益ヲ感スルナリ、本條ノ規定ハ各國著作權法ニ於テモ亦見ル所ノモノニシテ、又同盟條約第五條第四項ニモ同一ノ規定アリ、其ノ規定ニ依レハ期間ヲ計算スルニハ著作物ヲ發行シタル年ノ十二月三十一日ヲ以テ其ノ發行ノ日ト看做ストアリ、而シテ同條第一項ニハ著作家ハ原著作物ヲ發行シタル日ヨリ十ヶ年間翻譯ノ權利ヲ有ストアルカ故ニ其ノ實際發行シタル日ノ如何ヲ問ハス凡テ其ノ年ノ十二月三十一日ヲ以テ發行ノ日ト定ムルナリ、故ニ其ノ結果發行シタル年ハ之ヲ期間ニ算入セス其ノ翌年ヨリ起算スルコト、爲ル、即チ其ノ旨趣ハ本條

ノ規定ト全ク同一ナリトス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

民法第五十九條ニ依レハ一定ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬ストアリ故ニ其ノ財産ノ動産タルト不動産タルト將タ權利タルトヲ問ハス凡テ相續人ナキ場合ニ於テハ其ノ財産ハ國庫ニ歸シ國有ト爲ルナリ而シテ著作權モ亦財産權ノ一タルヲ以テ若シ特別ノ規定ナキトキハ相續人ナキ著作權ハ民法ノ此ノ規定ニ依リ國庫ニ歸シ著作ノ死後三十年間ハ國庫カ著作權者ト爲リ世間一般ノ人ハ國庫ノ許諾ヲ受クルニ非レハ之ヲ複製スルコトヲ得サルコト、爲ル然レトモ著作權ハ他ノ財産ノ如ク之ヲ國庫ニ歸セシムルノ必要ナシ相續人ナキ場合ニハ世間一般ノ人ヲシテ自由ニ複製スルコトヲ得セシムルヲ可トス是レ即チ著作權ヲ公有ニ歸セシムルモノニシテ語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ著作權ヲ全然消滅セシムルナリ著作權ニシテ消滅スレハ何人モ自由ニ之ヲ複製スルコトヲ得ルナ

リ即チ本條ハ此ノ主旨ニ出テタルモノニシテ著作權ハ相續人ナキ場合ニ於テ普通財産ノ如ク國庫ニ歸屬セス全然消滅スト云フニアリテ民法ノ例外ヲ定メタルナリ

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

- 一 法律命令及官公文書
- 二 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事
- 三 公開セル裁判所議會並ニ政談集會ニ於テ爲シタル演述

(條約第七條第二項追加第一條第四ノ四)

本條ハ著作權ノ目的物ト爲ラサル著作物ノ種類ヲ規定シタルナリ凡ソ一ノ著作物アレハ其ノ著作權ハ著作權ヲ有スルコトハ著作權法ノ原則ナリ然レトモ或ル種類ノ著作物ニハ此ノ權利ヲ與ヘサルコト公益上必要ナルコトアリ又

物ニ登載セザルナリ、既ニ之ヲ新聞紙又ハ定期刊行物ニ登載スル以上ハ著作權ヲ拋棄シタルモノト推定スルモ決シテ不當ニアラス、況ンヤ雜報政事上ノ論說、時事ノ記事ノ如キハ其ノ新ラシキヲ尙フモノニシテ永ク之ヲ一人ニ專有セシムルノ必要ナキニ於テオヤ、雜報ト時事ノ記事ハ我國ノ新聞紙ニテハ明ニ之ヲ區別スルコト難シ、例ヘハ議會ノ開會トカ、何艦ノ到着トカ、誰某ノ死去トカハ時事ノ記事ニシテ其ノ他各種ノ記事ハ廣ク雜報ノ中ニ包含セシムルコトヲ得ヘシ我國ノ新聞紙ニテハ凡テ廣ク雜報ト云フ中ニ是等ノ記事ヲ記載スルヲ以テ特ニ此ノ二者ヲ區別スル必要ナキカ如シ、同盟條約第七條ニモ之ト同一ノ規定アリ、同條第一項ニ於テハ同盟國ノ一ニ於テ發行セル新聞紙又ハ定期刊行物ノ記事ハ著作權又ハ發行人カ明ニ之ヲ禁止スルニ非サレハ之ヲ轉載スルコトヲ得ル旨ヲ規定シ、第二項ニ於テ此ノ禁止ハ如何ナル場合ニ於テモ政事上ノ論說、雜報及時事ノ記事ニ適用スルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ、故ニ是等ノ記事ニ關シテハ同盟國ノ新聞

雜誌ヨリ隨意ニ轉載スルコトヲ得ルナリ本條ハ同盟條約ノ此ノ規定ト權衡ヲ得セシメンカ爲メニ設ケタルモノニシテ立法ノ趣旨モ亦全ク同一ナリトス

第三、公開セル裁判所、議會並ニ政談集會ニ於テ爲シタル演述、例ヘハ傍聽ヲ禁セザル裁判所ニ於テ爲シタル辯護士判事檢事ノ演述、帝國議會、府縣郡會、市町村會等ニ於ル議員ノ演說並ニ政談演說會ニ於テ爲シタル演說ノ如キモノニシテ凡テ是等ノ場所ニ於テ爲シタル演述ハ著作權ヲ發生セス、從テ其ノ演說者ノ許諾ナクシテ新聞紙ニ登載シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得、蓋シ公開セル裁判所議會又ハ公開ノ席ニ於テ爲シタル政談演說ハ新聞紙ニ於ル政事上ノ論說、時事ノ記事ト同シク一般ノ人ニ偏ク知ラシムルヲ目的ト爲スモノナレハ世間一般ノ人カ之ヲ複製スルモ少シモ著作權ノ利益ヲ害スルコトナキナリ、若シ他人ニ複製セラル、ヲ欲セサレハ公開ノ席ニ於テ演セザルニ若カス、既ニ公衆ノ前ニテ演說セル以

之ヲ與ヘサルモ著作ノ利益ヲ害セサルコトアリ、本條ノ場合即チ是レナリ、
著作權ノ目的物タルコトヲ得サルモノニ三種アリ

第一、法律命令及官公文書、法律命令ハ官報ヲ以テ之ヲ公布シ一般ニ告知
セシムルモノナリ、是等ハ著作物ニハ相違ナキモ之ヲ複製スルノ權利ヲ特
ニ或ル一人ニ專屬セシムヘキモノニアラス、廣ク之ヲ知ラシムルハ實ニ法
律命令ノ本旨ナリ、故ニ是等ノ著作物ニハ著作權ヲ發生セシメス、シテ何人
ニモ自由ニ複製スルコトヲ得セシム、

官公文書トハ官廳公署市町村ノ類ノ公務上ノ書類ニシテ是等ノ書類ハ官
吏公吏カ職務上製作スルモノナレハ著作權ヲ發生セシムヘキモノニアラ
ス、故ニ官廳公署カ差支ナシト認ムルトキハ何人ノ手ニ成ルヲ問ハス之ヲ
公ニスルコトヲ得ルナリ、只官廳公署ノ文書ヲ一個人ニ之ヲ發行スルコト
ヲ許スト否トハ官廳公署ノ取締ニ在テ存スルモノニシテ著作權ノ有無ニ
關係ナ有スルモノニアラサルナリ、

官公文書トハ官廳公署ノ公務上ノ書類ノミナラフモノナレハ官廳公署カ
著作ノ名義ヲ以テ發行スル著作物ハ此ノ中ニ包含セス、例ヘハ内務省ニ於
テ翻譯シタル各省市町村制度考ノ如キ、文部省ニ於テ著ハンタル各國學校
制度ノ如キハ著作權ノ目的物タルコトヲ失ハス、從テ是等ノ著作物ヲ許諾
ナクシテ複製スルトキハ僞作ト爲ルナリ、

第二、新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記
事、是等ノ事項ハ世間ニ知ラシムルカ爲メニ著作スルモノニシテ又之ヲ
廣ク公衆ニ知ラシムルコトハ公益上必要ナリ、從テ著作權ヲ與ヘテ之ヲ保
護スルヲ要セサルノミナラス却テ世間一般ノ人ヲシテ自由ニ之ヲ複製セ
シムルヲ可トス、蓋シ新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル記事ハ多クハ世間
ニ廣ク告知スルヲ目的トスルモノナレハ他ニ之ヲ轉載スルハ却テ著作
者ノ欲スル所ナルヘシ、若シ著作權ニシテ著作權ヲ留保スルコトヲ希望シ他
人ヲシテ妄リニ之ヲ複製セシメサラント欲セハ之ヲ新聞紙又ハ定期刊行

物ニ登載セサルナリ、既ニ之ヲ新聞紙又ハ定期刊行物ニ登載スル以上ハ著作權ヲ拋棄シタルモノト推定スルモ決シテ不當ニアラス、況ンヤ雜報、政事上ノ論說、時事ノ記事ノ如キハ其ノ新ラシキヲ尙フモノニシテ永ク之ヲ一人ニ專有セシムルノ必要ナキニ於テオヤ雜報ト時事ノ記事ハ我國ノ新聞紙ニテハ明ニ之ヲ區別スルコト難シ、例ヘハ議會ノ開會トカ、何艦ノ到着トカ、誰某ノ死去トカハ時事ノ記事ニシテ其ノ他各種ノ記事ハ廣ク雜報ノ中ニ包含セシムルコトヲ得ヘシ我國ノ新聞紙ニテハ凡テ廣ク雜報ト云フ中ニ是等ノ記事ヲ記載スルヲ以テ特ニ此ノ二者ヲ區別スル必要ナキカ如シ、同盟條約第七條ニモ之ト同一ノ規定アリ、同條第一項ニ於テハ同盟國ノ一ニ於テ發行セル新聞紙又ハ定期刊行物ノ記事ハ著作者又ハ發行人カ明ニ之ヲ禁止スルニ非サレハ之ヲ轉載スルコトヲ得ル旨ヲ規定シ、第二項ニ於テ此ノ禁止ハ如何ナル場合ニ於テモ政事上ノ論說、雜報、及時事ノ記事ニ適用スルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ、故ニ是等ノ記事ニ關シテハ同盟國ノ新聞

雜誌ヨリ隨意ニ轉載スルコトヲ得ルナリ本條ハ同盟條約ノ此ノ規定ト權衡ヲ得セシメンカ爲メニ設ケタルモノニシテ立法ノ趣旨モ亦全ク同一ナリトス

第三、公開セル裁判所、議會並ニ政談集會ニ於テ爲シタル演述、例ヘハ傍聽ヲ禁セサル裁判所ニ於テ爲シタル辯護士判事檢事ノ演述、帝國議會、府縣郡會、市町村會等ニ於ル議員ノ演說並ニ政談演說會ニ於テ爲シタル演說ノ如キモノニシテ凡テ是等ノ場所ニ於テ爲シタル演述ハ著作權ヲ發生セス、從テ其ノ演說者ノ許諾ナクシテ新聞紙ニ登載シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得、蓋シ公開セル裁判所、議會又ハ公開ノ席ニ於テ爲シタル政談演說ハ新聞紙ニ於ル政事上ノ論說、時事ノ記事ト同シク一般ノ人ニ偏ク知ラシムルヲ目的ト爲スモノナレハ世間一般ノ人カ之ヲ複製スルモ少シモ著作者ノ利益ヲ害スルコトナキナリ、若シ他人ニ複製セラル、ヲ欲セサレハ公開ノ席ニ於テ演セサルニ若カス、既ニ公衆ノ前ニテ演說セル以

上ハ特ニ著作權ヲ留保セザルモノト推定スルモ不當ニアラサルナリ、
 第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權
 者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作權者其ノ實名ノ
 登録ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

(條約第十一條第二項)

本條ハ無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者カ著作權者ニ代リ其ノ權利
 ナ保全スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルナリ、抑モ無名又ハ變名著作物ハ著作權
 ノ氏名ヲ顯ハサ、ル著作權者ニ代リテ救済ヲ求ムルコトヲ得ルノ途ヲ開カ
 著作者以外ノ人ヲシテ著作權者ニ代リテ救済ヲ求ムルコトヲ得ルノ途ヲ開カ
 サル可カラス、若シ此ノ場合ニ著作權者自身カ訴訟ヲ提起セザル可カラサルニ
 於テハ勢ヒ著作權者ノ氏名ヲ顯ハサ、ル可カラスシテ折角無名又ハ變名著作
 物ヲ保護セントスルノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ル故ニ此ノ場合ニハ
 其著作權者ノ發行者又ハ興行者ヲシテ著作權者ニ代リテ著作權者ノ有スル權利ヲ

行ハシメテ以テ無名又ハ變名著作物ヲ保護スル目的ヲ全カラシム蓋シ發行者
 又ハ興行者ハ著作權者ニアラサルヲ以テ本條ノ如キ規定ナキトキハ當然著
 作者ノ權利ヲ行フコトヲ得ス從テ著作權者自ラ其ノ權利ヲ行フカ又ハ著作權
 者發行者又ハ興行者ニ讓渡スヨリ外ナキナリ、本條ハ此ノ不便ヲ避ケンカ爲
 メニ明文ヲ以テ發行者又ハ興行者ヲシテ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スル
 コトヲ得セシメタリ、
 〔著作權ニ屬スル權利ヲ保全セシム〕トハ例ヘハ登録ヲ爲ストカ僞作ノアリタ
 ル場合ニ訴訟ヲ起ストカノ如キコトニシテ民法ニ所謂保存行爲ヲ云フ、故ニ
 處分行爲例ヘハ著作權ヲ讓渡スカ如キコトハ其ノ中ニ包含セザルナリ、是レ
 本條ニ特ニ權利ヲ保全スト云ヒ權利ヲ行フト云ハサリシ所以ナリ、白耳義著
 作權法ニ於テハ此ノ場合ニ發行者ヲシテ全ク著作權者ト同一ノ地位ニ立タシ
 ムルノ規定アリ(同國著作權法第七條)然レトモ此クストキハ發行者ハ著作
 權者タルヲ以テ著作權自身ヲモ他人ニ讓渡スコトヲ得ルノ結果ヲ生シ無名

又ハ變名著作物ノ著作ヲ保護セントシ却テ其ノ不利益ヲ來スコトナキヲ保セス故ニ本法ニ於テハ特ニ本條ノ如キ規定ヲ設ケ其ノ弊ノ生スルコトヲ防キタリ、

本條ノ精神ハ無名又ハ變名著作物ヲ保護シ著作ノ氏名ヲ顯ハナスルヲ其ノ權利ヲ全フセシメントスルニアレハ、既ニ著作コシテ其ノ氏名ヲ世ニ公ニシタル以上ハ最早ヤ無名又ハ變名著作物トシテ之ヲ保護スル必要ナキヲ以テ發行者又ハ興行者ニ此ノ權利ヲ與フルコトヲ要セス故ニ本條但書ニ於テ著作其ノ實名ノ登録ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラストノ規定ヲ設ケタリ、即チ著作カ實名ノ登録ヲ受ケタルトキハ最早發行者又ハ興行者ハ著作ニ代テ其ノ權利ヲ行フコトヲ得スシテ著作自ラ之ヲ行ハサル可カラズ、

著作未タ實名ノ登録ヲ受ケサルモ自ラ其ノ權利ヲ行ハントスルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ、曰ク然リ、然レトモ此ノ場合ニハ著作ハ第三十五條ノ

推定ヲ受ケサルヲ以テ無名又ハ變名著作物ノ著作タルコトノ證明ヲ爲サザル可カラズ、從テ訴訟上不利ノ地位ニ立ツコトヲ免カレズ、

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作ノ共有ニ屬ス

各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ其ノ著作中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作

ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルコトヲ得ス
 本條ハ合著作ノ場合ニ於ケル各著作權者ノ權利關係ヲ規定シタルナリ、先ツ
 第一ニ合著作ノ何タルヤヲ説明セン合著作トハ、數人共同シテ一ノ著作ヲ爲
 スコトニシテ、即チ其ノ著作物ハ、數人ノ共同努力ノ結果タリ、而シテ數人共同
 シテ著作ヲ爲スニ其ノ著作ノ部分ヲ分ダスシテ之レヲ爲スモノアリ、或ハ其
 ノ分擔部分ヲ定メテ之レヲ爲スモノアリ例ヘハ甲乙丙ノ三人カ民法註釋ヲ
 著ハスニ當リ其ノ受持部分ヲ定メテ三人カ討論研究シタル結果ヲ筆ニスル
 カ如キ場合ハ前者ニ屬ス、之レコ反シ甲ハ總則編ヲ、書キ、乙ハ債權編、丙ハ物權
 編ト云フ如ク各其ノ分擔部分ヲ定メテ之ヲ著ハス場合ハ後者ニ屬ス、此ノ二
 者ハ其ノ方法ハ異ナリト雖モ合著作タルハ一ナリ、然レトモ若シ初メヨリ共
 同シテ著作スルノ意思ナク甲ノ書キタル債權編ノ註釋ト乙ノ著ハシタル物
 權編ノ註釋トナ後ニ合卷シテ一書ト爲スカ如キハ其ノ名ハ合著作ノ如キモ
 其ノ實合著作ニアラス、從テ此ノ場合ニハ其ノ著作權ハ各自別々ニシテ債權

編ノ著作權ハ甲ニ屬シ物權編ノ著作權ハ乙ニ屬ス
 合著作ノ場合ニハ其ノ著作物ハ法律上唯一タルヲ以テ其ノ著作權モ亦一タ
 リ只權利ノ主體數人アルノミ恰カモ民法ノ共有ニ於ル場合ト等シク權利ノ
 物體ニ一ニシテ其ノ權利カ數人ニ屬スルカ如シ而シテ著作權モ亦財產權タル
 ナリテ本法ニ別段ノ規定ナキ以上ハ民法共有ニ關スル規定ハ合著作ノ場合
 ニ準用サルヘキモノトス(民法第二百六十四條)
 本條第一項ニ於テハ合著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬スヘキコトヲ
 規定シタリ是レ固ヨリ當然ノコトニシテ特ニ明言スルヲ要セサルナリ、合著
 作トシテ世ニ公ニシタル以上ハ其ノ内部ノ契約如何ニ係ラス第三者ニ對シ
 テハ其ノ著作物ノ著作權ハ共同著作者ノ共有ニ屬スルモノト看做サルルハ
 當然ナリ、假令共同著作者間ニハ其ノ分擔部分ヲ定メ從テ其ノ持分ヲ特定シ
 タルコトアルモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス、例ヘハ甲乙合著作トシ
 テ民法論ヲ發行スルトキハ第三者ハ其ノ甲乙二人間ニ於ル分擔方法ノ如何

ナ間ハス其ノ著作権ハ甲乙二人ノ共有ニ屬スルモノト看做スコトヲ得之ニ
 反シ其ノ各編ニ於ル著作モノ氏名ヲ掲ケテ發行スルトキハ最早合著作ニア
 ラスシテ各獨立シタル單獨ノ著作物ナリ、
 合著作タルヤ否ヤヲ定ムルノ實用ハ(第一)期間ノ計算ニアリ、單獨ノ著作物ナ
 レハ其ノ著作権ノ期間ハ著作モノ終身及死後三十年ニシテ消滅スルモ合著
 作物ニ在テハ其ノ著作権ハ其ノ著作モノ最後ニ死亡シタルモノ、死後三十
 年間繼續ス(第二)義務モ亦共同ナリ、合著作ハ其ノ三者ニ對シテハ凡テ合同協
 議シテ著作セシモノト看做サル、ナリテ其ノ著作ヨリ生スル義務モ亦共同
 著作連帶シテ之レヲ負ハサルヘカラス、例ヘハ其ノ著作物ノ或ル部分ニ僞
 作ノアリタル場合ニハ損害賠償ノ責任ハ共同著作連帶シテ之ヲ負ハサル
 可カラス、甲ハ其ノ部分ハ乙ノ筆ニ成リタルモノナレハ自己ノ與リ知ル所ニ
 アラストノ辭柄ヲ以テ之ヲ免ル、コトヲ得ス、蓋シ合著作ハ共同著作互ニ
 協議研究シテ成リタルモノト看做スナリテ法律上同一人ノ手ニ成リシモノ

ト見サル可カラス故ニ假令實際甲ハ他ノ部分ノ僞作タルヤ否ヤヲ知ラスト
 雖之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルナリ、(第三)權利ノ行使モ共同シテ
 之ヲ爲サ、ル可カラス、共有權ハ法ニ特例ナキ以上ハ共有權者共同一致シテ
 之ヲ行使スルヲ原則トス、本法ニ於テハ訴訟ノ提起ニ關スル外ハ(第三十四條)
 特例ヲ設ケサルヲ以テ其ノ他ノ權利ノ行使ハ凡テ共同著作モノ合意ニ依ル
 ナ要ス、

此ノ如ク合著作物ニ關スル權利ノ行使ハ共同著作權者ノ合意ニ依ラサル可
 カラサルカ故ニ若シ其ノ間ニ協議整ハサルトキハ其ノ權利ヲ行使スルコト
 ヲ得ス、例ヘハ共同著作モノ一人カ其ノ著作物ノ發行又ハ興行ヲ拒ムトキハ
 他ノ著作モノ其ノ人ノ意ニ反シテ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得ス、從テ一
 人ノ異議アルカ爲メニ折角著作シタルモノヲ空シク篋底ニ埋没セシメサル
 ヲ得サルノ結果ヲ生ス、此ノ如キハ單ニ著作モノ迷感ナルノミナラス公益上
 有害ナルヲ以テ本條ハ此ル場合ニハ異議者ヲ強制シテ發行又ハ興行セシム

ルノ方法ヲ設ケタリ、本條第三項ノ規定是ナリ、
 共同著作中ニ其ノ著作物ノ發行又ハ興行ニ異議ヲ申立ツルモノアルニ當
 リ之ヲ強制シテ發行又ハ興行セシムル場合ニ二アリ、第一ハ各著作者ノ分擔
 シタル部分ノ明瞭ナラザル場合ニシテ第二ハ其ノ部分ノ明瞭ナル場合ナリ
 第一ノ場合ハ本條第一項ヲ以テ之ヲ規定シ、第二ノ場合ハ第二項ヲ以テ之ヲ
 規定ス、

抑モ共同著作者ハ其ノ著作物ニ對シテ平等ノ權利ヲ有スルヲ以テ其ノ著作
 物ノ發行又ハ興行ニ關シテハ合意ヲ以テ之レヲ定メサル可カラス、例ヘハ如
 何ナル方法ヲ以テ之ヲ發行又ハ興行スヘキヤ、如何ナル人ニ發行ヲ爲サシム
 ヘキヤ、如何ナル人ニ興行ヲ許スヘキヤ、如何ナル時日ニ發行又ハ興行スヘキ
 ヤ等凡テ共同著作者ノ共同一致ヲ以テ之ヲ定メサル可カラス、而シテ凡テノ著
 作者間ニ意思合致シタルトキハ何等ノ問題起ラサルモ若シ其ノ中ニ異議者
 アリテ發行又ハ興行ヲ肯ンセザルトキハ前述ノ理由ニヨリ結局發行又ハ興

行スルコトヲ得サルカ故ニ法律ヲ以テ之ヲ強制スルノ方法ヲ設ケサル可カ
 ラス、本條第一項ニ依レハ各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラザル場合即チ
 甲乙二人ノ著作シタル部分ヲ分別シ能ハサル場合ニ於テハ其ノ發行又ハ興
 行ヲ拒ム者ニ賠償スルトキハ其ノ人ノ部分ニ屬スル著作權ヲ取得スルコト
 ヲ得トセリ、換言スレハ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者ハ自己ノ著作權ニ對スル
 賠償ノ提供ヲ受ケタルトキハ最早其ノ發行又ハ興行ヲ拒ムコトヲ得ス、即チ
 他ノ著作者ハ異議者ニ賠償金ヲ支拂ヒテ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得ル
 ナリ、此ノ規定ハ普通財産ニ於ル公用徵收ト同一ノ主旨ニ出テタルモノニシ
 テ著作權法ニ於テハ著作物ノ發行又ハ興行ヲ公益上必要ト看做シタルナリ、
 之ヲ要スルニ其ノ發行又ハ興行ニ異議ヲ申立ツル者ハ自己ノ著作權ニ相當
 スル持分ノ賠償ヲ得ルトキハ其ノ著作物ノ發行又ハ興行ヲ拒ムコトヲ得サ
 ルナリ、從テ結局發行又ハ興行ノ拒否ハ爭點ト爲ラスシテ其ノ賠償ノ額カ爭
 點タルニ歸スルナリ、然レトモ是レ只當事者間ニ特約ナキ場合ニ於ル規定ニ

シテ特約アリタル場合ニハ其ノ契約ニ從ハサル可カラス、例ヘハ初メ合同シテ著作ヲ爲スニ際シ契約ヲ取結ビ如何ナル場合ニ於テモ共同一致ヲ得サレハ發行又ハ興行セザルコトヲ特約スルトキハ其ノ契約ニ從ハサル可カラスシテ決シテ強制シテ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得サルナリ、各著作ノ分擔シタル部分ノ明瞭ナル場合ニハ各其ノ部分ヲ分離スルコトヲ得ルヲ以テ著作ノ中ニ發行又ハ興行ヲ肯ンセザルモノアルトキハ其ノ異議者ノ部分ヲ排除キ他ノ部分ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得換言スレハ異議者ハ合著作タルコトヲ理由トシテ著作物ノ分離ヲ拒ムコトヲ得サルナリ但シ此ノ場合ニ於テモ契約ヲ以テ分離セテ發行又ハ興行セザルコトヲ約シタルトキハ其ノ契約ニ從フヘキハ勿論ナリトス、

第二項ノ場合ト第三項ノ場合トナ比較スルニ第二項ノ場合ハ法ノ規定ニ依リ著作權ノ一部移轉ノ結果ヲ生シ、第二項ノ場合ハ共同著作權消滅シテ單獨著作權タルノ結果ヲ生スルナリ、從テ第一項ノ場合ニハ其ノ著作物ニ發行又

ハ興行ヲ拒ミタル著作ノ氏名ヲ顯ハスチ當然トス、何トナレハ甲ノ著作物其ノモノチ乙ノ著作物ト爲シタルニアラスシテ唯タ甲ノ著作權チ乙ニ移シタルニ外ナラサレハナリ、然レトモ此ノ場合ハ甲ノ欲セザルコトヲ強制シテ爲スモノナレハ若シ甲ニ於テ自己ノ氏名ヲ顯ハスチ欲セザルトキハ其ノ意思ヲ達セシメサル可ラカス、故ニ本條末項ニ於テ發行又ハ興行ヲ拒ミタル者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ著作物ニ顯ハサ、ルコトヲ規定シタリ、是レ公益上ノ理由ニ因リ強制シテ著作物ヲ公ニスルノ途ヲ開クト同時ニ著作者ノ人格名譽ヲ保護シタルナリ、第三項ノ場合ニハ此ノ問題起ラス何トナレハ此ノ場合ニハ發行又ハ興行ヲ拒ムモノ、著作物ヲ發行又ハ興行スルニアラスシテ只他ノ著作者ノ分擔セタル部分ヲ分離セテ發行又ハ興行スルニ止マルモノナレハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル者ノ著作物ヲ世ニ公ニスルニアラサレハナ

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看

做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

(版第七條第四項)

本條ハ編輯者ノ權利ヲ規定シタルナリ元來著作權ナルモノハ著作者カ著作物ノ上ニ有スル權利ナルヲ以テ著作セザレハ著作權ノ生スヘキ理由ナシ而シテ著作ナルモノハ自己ノ精神的工夫ヲ加ヘタル製作物ヲ云フモノナレハ單ニ他人ノ著作セタルモノヲ蒐集編纂シタルノミニテハ之ヲ著作物ト云フコトヲ得ス從テ其ノ上ニ著作權ノ生スヘキ所以ナシ故ニ法カ特ニ明文ヲ設ケテ之ヲ一種ノ著作物ト爲シ之ニ著作權ヲ與フルニ非サル以上ハ編輯者ハ其ノ編輯物ニ對シテ何等ノ保護ヲ受ルコトヲ得ス元來編輯ナルモノハ單ニ他人ノ著作セタルモノヲ蒐集編纂スルニ止マルモノナレハ著作ヲ爲スカ如ク多ノ精神的勞力ヲ費スコトナシ然レトモ編輯ト雖必スシモ絶對的ニ勞力ヲ要セサルニアラス否ナ編輯ノ方法如何ニ依リテハ隨分精神的工夫ヲ要ス

ルコトアリ例ヘハ排置ノ順序編纂ノ體裁等ヲ工夫スルハ決シテ容易ノコトニアラス故ニ其ノ編纂ノ順序體裁等ニ付テハ一ノ著作ヲ爲シタリト云フモ不可ナキカ如シ然ルニ若シ編輯物ニ著作權ナシトスルトキハ精神的勞力ヲ費シテ編纂シタルモノモ直ニ他人ニ剽竊翻刻セラレ而シテ之ニ向テ何等救濟ヲ求ムルコト能ハサルナリ果シテ然ラニハ何人カ能ク編輯ニ力ヲ盡スモノアラシヤ是レ本條ニ於テ編輯者ヲ著作者ト同一視シ之ニ保護ヲ與ヘタル所以ナリ

然レトモ編輯者カ本條ニ依リ保護ヲ享有スルニハ適法ニ編輯シタルコトヲ要ス適法ト云フハ法律ノ許ス範圍内ニ於テトノ謂ナリ之ヲ換言スレハ不法ニ編輯シタルモノナラサルコトヲ要ストノ謂ナリ例ヘハ著作者ノ許諾ヲ經テ其ノ著作物ヲ編輯スルカ如キ法律ノ規定ニ依リテ僞作ト認メラレサル方法ヲ以テ編輯スルカ如キ是レ即チ適法ノ編輯ナリ而シテ此ル適法ノ編輯物ニ付テハ本條ニ依リ其ノ編輯者ハ著作權ノ保護ヲ享有ス之ニ反シ著作者ノ

許諾ナク又法律ノ許サ、ル方法ニ依リ編輯スルトキハ所謂不法ノ編輯ナルヲ以テ單ニ著作權ノ生セサルノミナラス場合ニヨリテハ他人ノ著作權ヲ侵害スルコト、ナル要スルニ本條ノ規定ハ單ニ編輯ノ事實ニ依リテ著作權ヲ發生セス、其ノ編輯カ適法ナルトキニ限リ著作權發生スト云フコアリ、編輯者ノ有スル著作權ハ編輯物全部ニ付テナリ、其ノ各部ノ著作權ハ其ノ著作ニ屬ス、例ヘハ大家論集ノ如キ其ノ論集全體ノ著作權ハ編輯者ニ屬スト雖各論文ノ著作權ハ其ノ論文ノ著作者ニ屬ス、故ニ他人カ大家論集全部ヲ翻刻シ若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ複製スルトキハ其ノ編輯者ハ之ニ對シ著作權侵害ノ訴訟ヲ起スコトヲ得ルト雖モ、其ノ中ノ一論文ノ翻刻ニ對シテハ、其ノ論文ノ著作者ノミ著作權侵害ノ訴訟ヲ起スコトヲ得ルナリ、但シ其ノ論文ノ著作者カ其ノ著作權ヲ編輯者ニ讓渡シタルトキハ此ノ限リニアラサルハ勿論ナリ、

何故ニ編輯者ハ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有シ各部ニ付テ著作權

ヲ有セサルヤ、抑モ編輯者ハ前述セシ如ク單ニ數多ノ著作物ヲ蒐集シタルニ止リ自ラ著作シタルニ非サルヲ以テ只其ノ編輯ニ對シ權利ヲ與フレハ足レリトス、其ノ各部分ニマテ著作權ヲ與フル必要ナシ、管ニ必要ナキノミナラス若シ之レヲ與フルニ於テハ却テ公益ヲ害スルニ至ル、何トナレハ著作者ノ死後既ニ三十年ニ垂ントスル著作物ヲ編輯シタル場合ニ於テハ將ニ著作權ノ公有ニ歸セントスルモノヲ再ヒ三十年四十年ノ期間ニ延長スルコト、爲リ結局永久之ヲ或ル一人ノ專有ニ屬セシムルニ至リ、著作權ニ期間ヲ設ケタル趣旨ヲ達スルコトヲ得サレハナリ、

本條ノ場合ハ著作權ノ公有ニ歸シタルモノヲ編輯シタル場合ニモ適用セラレ、ヤ曰ク然リ只此ノ場合ニハ其ノ編輯物全部ニ付テハ新ニ著作權ヲ發生スルモ其ノ各部ハ既ニ公有ニ歸シ居ルヲ以テ世間一般ノ人ハ隨意ニ之ヲ複製スルコトヲ得ルナリ、

第十五條 著作權者ハ著作權ノ登録ヲ受クルコトヲ得

發行又ハ興行シタル著作物ノ著作権者ハ登録ヲ受クルニ非
 サレハ僞作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 著作権ノ讓渡及質入ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以
 テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 無名又ハ變名著作物ノ著作人ハ其ノ實名ノ登録ヲ受クルコ
 トヲ得

(版、第三條寫、第三條、條約第二條第二項前段解、第一)

本條ハ著作権ノ登録ニ關スル規定ナリ、版權法ニ於テハ版權ハ登録ニ依リテ
 初メテ發生スルモノニシテ、若シ登録ヲ受ケスニテ文書圖書ヲ發行スルトキ
 ハ版權發生セサルナリ(版權法第三條、本法ニ於テハ此ノ主義ヲ改メ登録ハ著
 作權發生ノ必要條件ニ非スニテ著作ナル事實アレハ登録ナクシテ直ニ著作
 權發生スルモノトセリ、故ニ登録ヲ受ケサルモ著作権ヲ賣買讓與スルコトヲ
 得、只著作権侵害ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトハ登録ヲ受ルコトヲ要ス

ルナリ、

本條第一項ニ於テハ著作権者ハ著作権ノ登録ヲ受クルコトヲ得ル旨ヲ規定
 セリ、著作権ノ登録ト云フハ著作権ニ關スル登録ト云フ義ナリ、即チ著作権ノ
 發生ハ勿論其ノ移轉質入等總テ登録ヲ受クルコトヲ得ルナリ、而シテ此ノ規
 定ハ任意的ニシテ命令的ニアラス、版權法ニ於ル如ク登録ヲ受ケサルモ著作
 權ナキニ非ス、換言スレハ登録ハ著作権發生ノ原因ニアラスニテ單ニ證明ノ
 方法タルニ過キス、即チ登録ノ效果ハ僞作ノ場合ニ於ル訴訟ノ提起並ニ著作
 權ノ讓渡及質入ニ關シ第三項ニ對抗スル權利ヲ生スルコトアリ、
 登録ノ效果ハ第二項第三項ニ規定セリ、第一ノ效果ハ發行又ハ興行シタル著
 作物ノ著作権者ハ登録ヲ受クルニ非サレハ僞作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起
 スルコトヲ得サルコト是レナリ、即チ登録ハ民事訴訟提起ノ必要條件ニシテ
 登録ヲ受ケサレハ假令著作権ヲ侵害セラル、モ之レニ對シ損害賠償ノ訴訟
 ヲ提起スルコトヲ得ス、其ノ理由ハ單ニ登録ニ重大ナル效果ヲ生セシメント

スルニ外ナラス、抑モ登録ハ公證力アルモノニシテ之ニ依リテ世間一般ノ人ハ著作權者ノ何人タルコト並ニ發行ノ時日等ヲ知り得ルモノナレハ登録ノ有無ハ第三者ノ利益ニ至大ナル關係ヲ生スルモノナリ、故ニ登録ニ重大ナル效果ヲ與ヘ成ルヘシ著作權者ヲシテ登録ヲ爲サシメサル可カラス、是レ本條ノ規定アル所以ナリ、然レトモ本條ハ單ニ發行又ハ興行シタル著作物ノミ適用スヘキ規定ナリ、故ニ未ダ發行セサル著作物ニ關シテハ登録ヲ受ケサルモ偽作ニ對スル民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得、是レ蓋シ未發行又ハ未興行ノ著作物ニ關シテハ世間一般ノ人ハ其ノ著作權者ノ何人タルコト並ニ發行ノ時日等ヲ知ルノ必要ナキヲ以テ之ヲ登録セシムルヲ要セサルナリ、登録ハ何時之ヲ爲サハル可カラサルカ、偽作ノアリタル以前ニ之ヲ爲スヲ要スルカ、換言スレハ偽作アリタル以後ニ爲シタル登録ハ其ノ效果ヲ既往ニ及ホスコトヲ得ルカ、民法ニハ登録ノ時期ヲ明定セサルヲ以テ何時之ヲ爲ス可ナキナリ、故ニ偽作ノアリタル場合ニ直ニ登録ヲ受ルトキハ偽作ニ對スル

民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルナリ、此ノ規定ハ立法論トシテハ非難スヘキ點アリト雖、解釋論トシテハ此ク論結セサル可カラス、登録ノ第二ノ效果ハ著作權ノ讓渡及質入ノ場合ニ於テ登録ヲ受ケサレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルコト是レナリ、凡ソ權利ノ得喪移轉ハ之ヲ第三者ニ公示スル方法ナカラサル可カラス、民法ニ於テハ不動産ニ關スル物權ニ付テハ登記動産ニ關スル物權ニ付テハ引渡債權ニ付テハ債務者ヘノ告知ヲ以テ公示方法ト爲ス、民法第七十七條、第七十八條、第四百八十七條、然ルニ著作權ハ不動産ニモアラズ、動産ニモアラズ、將々又債權ニモアラザルカ故ニ民法ノ原則ヲ適用シ公示ノ方法ヲ定ムルコトヲ得ス、而シテ若シ公示ノ方法ナキトキハ第三者ハ不測ノ損害ヲ蒙ルコトアルヘキヲ以テ本法ニ於テ公示ノ規定ヲ設クルコトヲ要ス、例ヘハ甲カ乙ニ自己ノ著作權ヲ賣渡シ又直ニ之ヲ丙ニ賣渡ストキハ丙ハ其ノ著作權ヲ得ル能ハスシテ空シク詐僞ノ犠牲ト爲ルナリ、丙ハ甲ニ對シテ損害ノ賠償ヲ求ムルノ權利アルモ若シ甲ニシテ無

資力ナルトキハ丙ハ實際何等ノ賠償ヲモ得ル能ハス此ノ如キハ決シテ善意ノ第三者ヲ保護スルノ途ニアラス故ニ本條ニ於テハ著作權ヲ以テ不動産ニ關スル物權ト同一視シ其ノ讓渡及質入ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト定メタリ、

第四項ハ無名又ハ變名著作物ノ實名登錄ヲ規定セリ是レ第五條ノ結果ニシテ同條ニ依レハ無名又ハ變名著作物ノ著作權ニシテ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルトキハ其ノ著作權ノ期間ハ著作權ノ終身及三十年繼續スルコト、爲リ且著作權ノ保全ニ關シテハ自ラ之ヲ行フコトヲ得而シテ其ノ實名ヲ顯ハスト否トハ著作權ノ任意ナルヲ以テ本條ニ於テモ任意的ノ規定ヲ設ケタリ、

外國著作權モ我國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルニハ本條ニ依リ登錄ヲ受クルコトヲ要スルカ、曰ク同盟條約ニ規定セシ著作權者ハ其ノ本國法ノ要スル方式條件ヲ履行スルトキハ更ニ我國ニ於テ登錄ヲ受クルコトヲ要セス是レ同盟條約ノ明ニ規定スル所ナリ條約第二條第二項前段ニ曰ク

是等ノ權利ヲ享有スルニハ著作權ノ本國法ニ規定セル條件及方式ヲ履行スルコトヲ要ス

即チ其ノ本國法ノ要スル條件及方式ヲ履行スルトキハ他ノ同盟國ニ於テハ何等ノ條件及方式ヲ履行セスシテ當然保護ヲ享有ストノ謂ナリ(解釋的宣言書第一例)ハ佛國ノ著作權者カ佛國著作權ノ要スル方式ヲ履行シタルトキ即チ納本ヲ爲シタルトキハ我國ニ於テハ登錄ヲ受ケスシテ保護ヲ享有シ英國人カ英國著作權法ニ從ヒ登錄ヲ爲シタルトキハ最早我國ニ於テハ何等ノ手續ヲ履マヌシテ當然本法ノ保護ヲ享有スルカ如シ、

第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

版第三條第四條第六條寫第三條第五條

普通財産權ニ關スル登記ハ司法裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ常トスト雖モ著作權ニ關スル登錄ハ行政廳之ヲ行フモノトス是レ版權法ニ於テ採リタル主義

ナ製踏シタルモノコシテ從來版權ノ登録ハ内務省ニ於テ行ヒ來リシナリ、蓋シ純理ヨリ之ヲ云フトキハ著作權ノ登録モ亦司法裁判所ニ於テ之ヲ爲スナ至當トスト雖モ實際ニ於テハ行政廳ニ於テ之ヲ行フヲ便利トス、茲ニ所謂行政廳ト云フハ他日命令ヲ以テ之ヲ指定スルナランモ恐ラシ内務省ナルヘシ抑モ内務省ニ於テハ出版警察ヲ司リ出版法ニ依リ出版届ヲ受クルヲ以テ同一官廳ニ於テ同時ニ著作權ノ登録ヲ行フトキハ官民共ニ實際ニ於テ大ニ便利ヲ感スルナリ、是レ著作權ニ關スル登録ハ之ヲ司法裁判所ニ行ハシメヌメテ行政廳ヲシテ之ヲ行ハシムル所以ナリ、

登録ニ關スル手續、登録簿ノ閱覽、登録ノ抄本又ハ謄本ノ下付ニ關スル規定ノ如キ登録ニ關シテハ別ニ規定ヲ要スル事項一ニシテ足ラス、是等ハ一々法律ニ規定スル必要ナキノミナラス法律ニ規定スルハ却テ煩ニ涉ルヲ以テ別ニ勅令又ハ省令ヲ以テ之ヲ規定スルコト、シ本法ニ於テハ單ニ命令ニ讓ル旨ヲ明言セリ

第十七條

未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

著作物ノ原本及著作權モノノ財産ニシテ且讓渡シ得ヘキモノナレハ法ニ除外ノ規定ナキ以上ハ民事訴訟法ノ原則ニヨリ強制執行ノ目的ト爲リ得ヘキモノナリ、例ヘハ著作權者カ債務ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得サルトキハ債權者ハ他ノ財産ト共ニ其ノ著作物ノ原本及其ノ著作權ヲ差押ヘ之ヲ競賣ニ付シ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得ル也、然レトモ未タ世ニ公ニセサル著作物ヲ著作者ノ意ニ反シテ之ヲ差押ヘ其ノ著作權ヲ強制的ニ讓渡スハ著作者ノ權利ヲ重シセサルノ嫌アルノミナラス著作權者カ公ニスル意思ナキ著作物ヲ其ノ意ニ反シテ公ニスルハ實ニ學藝美術ノ發達ヲ謀ル途ニ非ス、抑モ著作物ハ著作者頭腦ノ生産物ニシテ著作者ノ人格ノ一部ナリ、著作物ノ良否如何ハ著作者ノ名譽ニ關スルモノナルカ故ニ之ヲ公ニスルニハ著作者ノ深思熟慮ヲ要ス、而

シテ其ノ著作物ノ公ニスヘキヤ否ヤヲ判定スルハ著作權者獨リ之ヲ能クスヘク、他人ノ得テ窺知スヘキニアラス、然ルニ債務ノ抵償トシテ著作權ヲ差押ヘ之ヲ競賣ニ付シ其ノ取得者ヲシテ之ヲ公ニスルヲ得セシムルハ實ニ著作權者ノ人格ヲ願ミサルモノト云フヘシ故ニ本條ニ於テハ未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及著作權ハ債權者ノ爲メニ差押ヲ受クルコトナシトシ以テ著作權者ノ權利ヲ保護セリ、既ニ公ニシタルモノニ付テハ著作權者ニ於テ之ヲ完成シ以テ之ヲ公ニスルノ意思ヲ發表シタルモノナレハ他人ヲシテ之ヲ繼續セシムルモ決シテ著作權者ノ人格ヲ害スルモノニアラス故ニ本條ハ單ニ未發行又ハ未興行ノ著作物ニ付テノミ規定シ其ノ既ニ公ニシタルモノニ付テハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ之ヲ差押フルコトヲ得トセリ、而シテ未タ公ニセサルモノニテモ著作權者カ差押ヲ承諾シタルトキハ差押ヲ爲シ得ルハ勿論ナリ、何トナレハ本條ノ規定ハ著作權者ノ利益ヲ保護スルヲ主トスルモノナレハ若シ著作權者ニシテ其ノ利益ヲ受グルヲ欲セサルトキハ最早之ヲ保護スル必要

ナケレハナリ故ニ例ヘハ著作權者又ハ其ノ承繼人カ著作權ヲ質入シタル場合ノ如キハ初メヨリ差押ヲ承諾シタルモノナレハ其ノ債權者ハ質契約ニ基キ其ノ著作權ヲ差押フルコトヲ得ルヤ固ヨリナリ

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作權者ノ同意ナクシテ其ノ著作權ヲ改竄スルコトヲ得ス

著作權者ノ權利ニ二面アリ、一面ハ其ノ著作物ヲ發行又タハ興行シテ利益ヲ專有スルノ權利ニシテ一面ハ自己ノ著作物ヲ改竄セラレサルノ權利ナリ佛國著作權法學者ハ前者ヲ著作權者ノ金錢上ノ權利ト云ヒ後者ヲ無形上ノ權利ト云フ、而シテ前者ハ普通ノ財産權ニシテ他ノ財産ト同様ニ讓渡シ得ヘキモノナリ後者ハ著作權者ニ專屬スル權利ニシテ人格權ノ一部ヲ爲スモノナリ從テ此ノ權利ハ讓渡シ得ヘキモノニアラスシテ著作權者以外ノ者ハ何人モ此ノ權利ヲ有スルコトヲ得ス本條ハ此ノ無形上ノ權利ヲ規定シタルナリ、

第一條ニ於テ著作作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有スト規定セルニ
 ヲリ著作權ヲ承繼シタル者ハ隨意ニ其ノ著作物ヲ改竄シ又タハ其ノ著作物
 ノ題號ヲ改メ若クハ著作作者ノ氏名略號ヲ變更スルモ敢テ差支ナキカ如ク解
 セラル、而シテ此ノ解釋ニ從ヘハ其ノ著作權ハ既ニ承繼人ニ移リ原著作作者ハ
 何等ノ權利ヲ有セサルヲ以テ其ノ改竄等ニ對シテ何等ノ異議ヲ述ルコトヲ
 得サルカ如シ然レトモ元來著作物ハ其ノ著作作者カ頭腦ヲ腦マシ苦心焦慮シ
 テ製作セシモノナレハ著作作者自身ニ非サレハ妄リニ之ヲ改竄スルトキハ遂ニ著作作者
 ナ添ユルヲ許ス可カラズ、若シ他人カ妄リニ之ヲ改竄スルトキハ遂ニ著作作者
 ノ意ヲ害シ從テ著作作者ノ名譽ヲ傷クルニ至ル、故ニ著作作者ノ同意ナクハ之
 ナ改竄スルコトヲ得スト爲スハ是レ實ニ著作作者ヲ保護スルニ於テ欠ク可カ
 ラサルコトナリ、凡ソ著作作者ノ著作ヲ爲スヤ非常ニ心神ヲ勞スルモノナレハ
 他人ハ著作作者ノ許諾ナクハ一字一句ト雖モ之ヲ改竄ス可カラズ、何トナレ
 ハ之ヲ改竄スルノ可否ハ著作作者ニテラサレハ之ヲ判斷スルコトヲ得ス若シ

他人カ妄リニ之ヲ改竄スルトキハ或ハ著作作者ノ意ニ非サルノ結果ヲ生スル
 ヤ知ル可カラサレハナリ、

本條ハ廣シ著作權ヲ承繼シタル者ニ負ハシメタル義務ナレハ著作權ノ讓受
 人ハ勿論相繼人ト雖モ其ノ先人ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス是レ一見甚
 タ究極ナル規定ナルカ如シ、人或ハ曰ク他人カ他人ノ著作物ヲ改竄スルノ非
 ナルハ夫レ或ハ然ラン然レトモ子カ親ノ著作物ヲ修正シテ發行スルハ敢テ
 差支ナシト、然レトモ著作物ノ性質タル普通財産トハ異リ著作作者ノ精神的財
 産ナリ、普通財産ニ在テハ其ノ財産ヲ取得シタル者ハ自己ノ意思ニ從ヒ隨意
 ニ之ニ修理ヲ加ヘ或ハ増減ヲ爲スモ敢テ不可ナシト雖著作物ニ在テハ之ヲ
 著作シタル者ノ意思ヲ尊重セサル可カラズ、故ニ他人ハ勿論子ト雖妄リニ先
 人ノ意思ヲ變更ス可カラズ、殊ニ哲人ノ子必スシモ哲學者ナラス法律家必ス
 シモ明法家ヲ生マス、然ルニ若シ子ハ自由ニ親ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得
 ルトスルトキハ或ハ親ノ意思ニ戾ル改竄ヲ爲シ、折角親ノ苦心シタル金玉ノ

著作ヲ瓦礫ニ爲スノ結果ヲ生セサルコトナキヲ保セス、例ハ山陽ノ外史ニ類三樹カ筆ヲ加ヘシナラハ或ハ山陽ノ名文ヲ汚シタルナラン、マコーレーノ名文ヲ其ノ子カ添削セシナラハ吾人ハ恐ラシハマコーレーノ明文ヲ讀ムヲ得サリシナラン、是レ相續人ト雖先人ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得セシメサル所以ナリ、

然レトモ原著物ニ原著者ノ名ヲ冠シ相續人又ハ讓受人カ之ヲ修補セシ旨ヲ書シテ之ヲ公ニセルハ敢テ差支ナキナリ、例ハ山陽著三樹修補トシテ發行スルハ本條ニ概觸スルモノニアラス、本條ノ精神ハ只其ノ修補シタルモノヲ恰カモ他人ノ著作物トシテ發行スルコトヲ防カントスルコアルノミ、本條ハ著作權ノ承繼人ニ對シテノミノ規定ナレトモ一般ノ人モ亦此ノ義務ヲ負フニアラサルカ、曰ク然リ然レトモ一般ノ人カ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得サルハ第一條ノ規定ノ結果ナレハ特ニ明言スルヲ要セス、若シ著作者ノ同意ナクシテ之ヲ爲ストキハ著作權ノ侵害ト爲ル

ナリ、然レトモ承繼人ハ己レ著作權者ナレハ勝手ニ其ノ著作物ヲ改竄修補スルモ敢テ差支ナキカ如ク解セラル、ヲ以テ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ假令著作權ヲ讓受ケタル者ト雖之ヲ改竄スルハ其ノ權内ニ屬セサルコトヲ明ニシタルナリ、換言スレハ著作權ノ讓渡ハ所謂金錢上ノ利益ノミニシテ無形上ノ權利ハ其ノ中ニ包含セサルコトヲ明ニシタルナリ、

第十九條 原著物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正、増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

(條約第十條解釋第三)

元來法律カ著作權ナルモノヲ認メ他人ヲシテ之ヲ侵サシメザルハ其ノ著作者カ精神の勞力ヲ費シテ一ノ新奇ナル製作物ヲ案出シタルモノヲ保護センカ爲メナリ、故ニ此ノ保護ヲ受クル著作物タルニハ自ラ精神の工夫ヲ加ヘテ

ル製作物タルコトヲ要ス單ニ他人ノ製作物ヲ摸倣シタルニ過キサルモノハ本法ニ於テ保護スヘキ限リニアラス、本條ハ此ノ主旨ヲ精確ニ言顯ハシタルモノナリ、即チ他人ノ製作物ヲ基礎トシ之ニ訓點句讀ヲ施シ又ハ少許ノ批評、註解ヲ加ヘ或ハ一二ノ圖畫附録ヲ添ヘ其ノ他同性質ノ修正増減ヲ爲スモ是レ單ニ原著作物ニ修飾ヲ加ヘタルニ過キスシテ一ノ新著作物ト認ムヘキモノニアラサルヲ以テ之カ爲メニ著作權ヲ生セサルナリ、若シ此ル著作物ヲモ一ノ新著作物ト認メ之ニ著作權ヲ生セシムルトキハ原著作者ハ非常ナル損害ヲ蒙ルナリ何トナレハ原著作物ハ訓點句讀付ノ著作物又ハ註解入りノ著作物ノ爲メニ壓倒セラレ爲メニ其ノ販路ヲ妨ケラレ恰モ偽作物ノ爲メニ其ノ利益ヲ奪ハル、ト同一ノ結果ヲ生スレハナリ、之ニ反シ訓點句讀ヲ付シタル者又ハ批評、註解ヲ施シタル者ハ僅ノ勞力ヲ以テ原著作者ノ利益ヲ奪フコトヲ得ルニ至ル、此ノ如キハ管ニ一方ニ於テ原著作者ヲ保護セサルノ嫌アルノミナラス又他方ニ於テ不當ノ利得ヲ爲ス者ヲ保護スルノ恐アリ、故ニ本條

ハ之ヲ禁制センカ爲メニ單ニ訓點句讀ヲ付シ又ハ批評、註解等ヲ施シタルノミニテハ新ニ著作權ヲ生セサル旨ヲ規定セリ、要スルニ本條ノ主旨ハ註解批評等ノ名ノ下ニ他人ノ製作物ヲ複製スルモノニ保護ヲ與ヘサルニアリ、然レトモ訓點句讀、批評、註解、圖畫、附録等ニモ夫々程度アリ、殊ニ批評、註解ニ至テハ非常ナル精神の勞力ヲ費シ新奇ノ說ヲ案出シ全ク一ノ新著作物タルコトアリ、例ヘハ論語、孟子ノ註解ノ如キ註解其ノモノカ一ノ新著作物ナリ、此ル著作物ニ對シテハ著作權ヲ生セシメ之ヲ保護セサル可カラサルハ勿論ナリ、故ニ但書ニ於テ若シ批評、註解其ノ他ノモノニシテ一ノ新著作物ト看做サルヘキモノハ著作權ノ生スルコトヲ規定セリ、而シテ一ノ著作物カ新著作物ト看做サルヘキヤ將テ註解、批評等ノ名ノ下ニ他人ノ製作物ヲ複製セルモノナリヤ否ヤハ事實問題ニシテ裁判官ノ認定ニ在テ存ス、

本條ニ於テハ翻案モ亦新ニ著作權ヲ生セサルコトヲ規定セリ、翻案トハ例ヘハ演劇脚本ヲ小説ニ書替ヘ、小説ヲ淨瑠璃本ニ書直シ、或ハ英國ニアリタル事

件ヲ日本ノ事情ニ仕組ムカ如キナ云フ是等ハ原著作者ノ工夫意匠ヲ剽竊スルモノナレハ新奇ノ著作物ト云フコトヲ得ス從テ翻案ハ新ニ著作權ヲ生セサルナリ然レトモ翻案ニテモ更ニ別ニ一ノ工夫ヲ案出シ新機軸ヲ以テ一種ノ著作物ヲ作成シタル場合ハ此ノ限ニアラサルヤ勿論ナリ、

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除ク外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セザルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

(版第十五條條約第七條追加第一條第四)

新聞紙及雜誌モ一ノ著作物ナレハ其ノ著作權ニ關シテハ他ノ著作物ト異ルコトナシト雖新聞紙及雜誌ノ記載事項ハ多クハ時事ノ記事ニ關スルモノニシテ之カ著作權者モ他ノ著作物ニ比スレハ精神的勞力ヲ費スコト少シ且其ノ記事ハ多クハ廣ク世間ニ知ラシムルヲ目的トスルモノニシテ永久ニ著作權ニノミ專屬セシムヘキモノニアラス從テ反對ノ意思表示ナケレハ著作權者ニ

於テ之ヲ他ニ轉載スルヲ許シタルモノナリト推定スルモ決シテ不當コアラズ抑モ論文若ハ其ノ他ノ記事ヲ新聞雜誌ニ投スル者又ハ新聞雜誌ノ記者カ雜誌雜報等ヲ書クハ之ヲ自己ノ著作トシテ世ニ公ニスルヨリハ寧ロ其ノ事實ヲ世間ニ知ラシメントスルニアリ從テ之ヲ一巻ノ書ト爲シテ發行スルモノニ比スレハ精神的勞力ヲ費スコト遙ニ少シトス故ニ其ノ著作權ニ關シ普通ノ著作物ト同一ノ規定ヲ爲スハ妥當ナラサルノミナラス兩者ノ性質ヲ混同スルノ譏ヲ免カレス之ヲ以テ本法ニ於テハ此ノ二種ノ著作物ノ間ニ著作權ニ關シテ反對ノ規定ヲ設ケタリ即チ普通著作物ニ在テハ著作權者カ特ニ許諾ヲ與フルニ非ラサレハ何人モ之ヲ複製スルヲ得サルヲ原則トシ新聞紙又ハ雜誌ノ記事ニ在テハ著作權者カ反對ノ意思ヲ表示シ他ニ轉載スルコトヲ禁スル旨ヲ示サ、ル以上ハ何人モ自由ニ之ヲ轉載スルコトヲ得トセリ故ニ新聞紙又ハ雜誌ノ記事ニ在テハ著作權者カ他ニ轉載セラハルコトヲ欲セザレハ其ノ旨ヲ其ノ新聞紙又ハ雜誌ニ記載スルコトヲ要ス若シ其ノ記載ナ

キトキハ其ノ轉載者ニ向テ著作權ノ侵害ヲ主張スルコトヲ得ス、換言スレハ禁轉載ノ記載ナキ記事ハ著作權ニ於テ其ノ著作權ヲ拋棄シタルモノト看做スナリ、然レトモ之レヲ轉載スルニ當リテハ轉載者ハ其ノ出所ヲ明示セサル可カラス、出所ヲ明示ストハ何新聞、何雜誌ノ第何號ヨリ轉載シタルコトヲ明記スルコトヲ云フ、出所ノ明示ヲ要スルハ原著作者ヲ保護スルノ主旨ニ出ツ蓋シ此ノ規定ナキトキハ他ノ新聞紙又ハ雜誌ヨリ轉載シタルモノナルニ係ラス、恰カモ自己ノ製作案出シタル記事ノ如ク爲シ以テ原著作者ノ勞力ヲ奪フニ至ルヲ以テナリ、

本條ニ所謂記事ナル語ハ廣義ニ使用シタルモノニシテ雜報雜錄ハ勿論論說其他新聞紙又ハ雜誌ニ登載シタル凡テノ項目ヲ含ムモノトス、唯小説ノミハ除外セラル、ナリ、蓋シ小説ナルモノハ他ノ新聞ノ記事トハ異ニシテ一回若クハ二三回ニテ終結スルモノニアラス、普通一卷ノ書ヲ成スモノト少シモ異ル所ナク其ノ精神の勞力ヲ費スノ點モ亦敢テ二者ノ間ニ差違ノ存スルコト

ナシ、唯其ノ異ル所ハ一卷ノ書ヲ成シテ發行スルト新聞紙又ハ雜誌ニ登載シテ之ヲ公ニスルトノ差アルノミ、果シテ然ラハ一卷ノ書ト爲シテ發行シタルトキハ著作權ヲ得、新聞紙又ハ雜誌ニ登載シタルトキハ著作權ヲ失フト云フハ實ニ其ノ當ヲ得ス、故ニ小説ハ特ニ本條ノ規定中ヨリ之ヲ除外スルコト、セリ從テ新聞紙又ハ雜誌ニ登載シタル小説ハ假令禁轉載ノ明記ナキモ之ヲ轉載スルコトヲ得スシテ其ノ著作權ハ普通著作物ノ著作權ト少シモ異ル所ナシ

轉載ヲ禁セサル新聞紙又ハ雜誌ノ記事ハ公有ニ屬シ著作權ナキコトハ前述セシカ如シト雖、轉載ヲ禁シタル記事ノ著作權ハ何人ニ屬シ且何年間繼續スルヤ曰ク其ノ記事ノ著作權ハ其ノ記事ノ著作權ニ屬ス、故ニ新聞紙又ハ雜誌ニ寄稿シタル論文ノ著作權ハ其ノ寄稿者ニ屬シ、新聞紙又ハ雜誌ノ記者カ自カラ書キタルモノハ其ノ記者ニ屬ス、而シテ記事ニ著作權ノ氏名ヲ顯ハシタルトキハ其ノ著作權ノ期間ハ第三條ノ規定ニ從ヒ其ノ人ノ終身及死後三十

年間繼續ス氏名ヲ顯ハサ、ルモノニ在テハ其ノ著作物ハ無名著作物ナルヲ以テ其ノ著作権ノ期間ハ第四條ノ規定ニ從ヒ其ノ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シタルトキヨリ三十年間繼續ス、

新聞紙又ハ雜誌ニ寄稿シタル者ト其ノ新聞社又ハ雜誌社トノ關係ハ如何曰ク此ノ關係ハ當事者ノ意思ニ依テ之ヲ定メサル可カラス、故ニ寄稿者ト新聞社又ハ雜誌社即チ發行者トノ間ニ著作権ニ關シ特別ノ契約アレハ其ノ契約ニ從ハサル可カラス、例ヘハ論文ノ寄稿者カ新聞社又ハ雜誌社ニ其ノ著作権ヲ讓渡スノ意思ヲ表示シタルトキハ其ノ論文ノ著作権ハ新聞社又ハ雜誌社ニ移リタルモノナリ、此ル特別ノ契約アレハ固ヨリ明瞭ニシテ紛議ノ生スヘキ事由ナシト雖、若シ此ル契約ナキトキハ如何ニ解釋スヘキヤ、此ノ問題ハ事實ノ如何ニヨリテ其ノ狀態ヲ異ニスルモノナレハ一定ノ解答ヲ爲スコトヲ得スト雖、假リニ今日實際ニ於テ行ハル、如ク單ニ甲カ乙新聞社ニ或ル論文ヲ投シ(無論禁轉載ノ場合乙新聞社ニ於テ之ヲ其ノ新聞紙ニ登載シタル事實

ナリトセハ、余ハ此ノ場合ニハ其ノ論文ノ著作権ハ甲者ニアリト信ス、何トナレハ單ニ論文投寄ノ事實ヲ以テ其ノ著作権マテモ讓渡シタルモノト推定スルコトヲ得サレハナリ、然ラハ新聞社ニ於テ原稿料ヲ支拂ヒタルトキハ如何原稿料ノ法律上ノ性質明瞭ナラス、又其ノ原稿料ノ額如何ニヨリテ解釋ヲ異ニスヘシト雖、普通原稿料ヲ支拂ヒテ其ノ原稿ヲ受ケ、著作者亦其ノ原稿料ヲ收メテ其ノ著作物ヲ新聞社ニ與ヘタルトキハ其ノ原稿料ハ著作権ノ代價ニシテ著作者ハ之ニヨリテ其ノ著作権ヲ讓渡シタルモノト解釋スルヲ適當ナリト信ス、

以上ノ解釋ハ單ニ一般普通ノ場合ヲ事實トシテ論定シタルモノナレハ其ノ他各種ノ事情、當事者ノ意思如何ニヨリテハ反對ノ決定ヲ下スコトナキヲ保セス、版權法ニ於テハ其ノ記載事項ノ何タルヲ問ハス凡テ二號以上ニ涉ル論說、記事又ハ小説ハ禁轉載ノ明記ナクモ二年間ハ之ヲ他ニ轉載スルコトヲ得ストセリ、蓋シ版權法ニ於テハ二號以上ニ涉ルモノハ普通ノ新聞事項ニアラ

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著作物ヲ翻譯スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

(版第二十條條約第六條)

元來翻譯ナルモノハ前述セシカ如ク原著作物ヲ他ノ國語ニテ言顯ハスモノニ過キサレハ嚴密ニ之ヲ論スルトキハ之ヲ新奇ノ著作物ト云フコトヲ得ス從テ特別ノ規定ナケレハ翻譯物ニ關シテハ著作權ノ發生セザルチ原則トス然レトモ翻譯ハ翻刻ノ如ク原著作物ヲ其ノ儘ニ複製スルモノニ非スシテ多少ノ精神的勞力ト工夫トヲ要スルモノナレハ適法ニ爲タル翻譯ハ之ヲ保護スルチ至當トス殊ニ完美ナル翻譯物ノ發行ヲ獎勵スルニハ之ヲ保護スルコト必要ナリ是レ本條ニ於テ適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作者ト同一視シ之

ニ著作權ノ保護ヲ與フル所以ナリ適法ト云フハ不法ニ對スル語ニテ法律ノ許ス範圍内ニ於テト云フコトナリ故ニ著作者ノ許諾ヲ得テ爲シタル翻譯ハ勿論第三十條第四十九條ノ場合ニ於ケル翻譯ハ法律ノ認メテ以テ正當ナリト爲スモノナレハ所謂適法ノ翻譯ナリ從テ是等ノ翻譯者ハ本條ノ規定ニ依リ著作者ト看做サレ著作權ヲ有スルナリ換言スレハ其ノ翻譯ニシテ適法ナルモノナレハ其ノ翻譯ヲ以テ著作ト同様ニ看做スモノトス然レトモ此ノ規定ハ翻譯ヲ爲シタル者ニ其ノ原著作物ノ翻譯權ヲ得セシムルノ主旨ニアラスシテ單ニ其ノ翻譯物ノ著作權ヲ有セシムルト云フニ過キス故ニ其ノ翻譯者ハ原著作物ノ翻譯權ノ消滅シタル後即チ原著作物發行ノトキヨリ十年ニ於テ世人カ原著作物ニ付キ翻譯ヲ爲スコトニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ス換言スレハ原著作物ニ付キ翻譯スルハ前翻譯者ノ權利ヲ侵スモノニアラス是レ本條第二項ニ規定スル所ナリ只原著作物ニ付キ翻譯シタルチ口實トシ他人ノ翻譯物ヲ複製シタルトキハ著作權侵害ノ行爲タルコ

トチ免カレナルナリ、

原著作者ハ甲ニ翻譯ノ許諾ヲ與ヘタル後更ニ乙ニ同一ノ許諾ヲ與フルコトヲ得ルヤ、詳言スレハ翻譯ノ許諾ヲ得タル甲ハ原著作者ヲシテ他人ニ同一ノ翻譯ヲ爲スコトノ許諾ヲ與ヘシメナルノ權利ヲ有スルヤ、曰ク場合ヲ分テ之ヲ論セサル可カラス、若シ原著作者カ翻譯ノ權利ヲ全然甲ニ讓渡シタル場合ニハ自ラ翻譯スルコトヲ得ナルハ勿論他人ニ對シテ更ニ同一ノ許諾ヲ與フルコトヲ得ス、若シ之ヲ爲セハ著作權侵害ト爲ルナリ、然レトモ若シ原著作者ノ意思ニシテ甲ニ翻譯ノ特權ヲ全然讓渡スニアラスシテ單ニ翻譯ノ許諾ヲ與ヘシニ過キササルナラハ更ニ自ラ翻譯スルモ將タ又他人ニ同一ノ許諾ヲ與フルモ不可ナキナリ、

第二十二條 原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

本條ハ文藝學術ノ著作物ノ翻譯ニ關スル前條ノ規定ト相對スルモノニシテ美術上ノ著作物ノ翻譯ニ該當スルモノナリ、文藝學術ノ著作物ニ在テハ翻譯ナルモノアリト雖美術上ノ著作物ニ在テハ翻譯ナルモノナシ、然レトモ文藝學術ノ著作ニ於テ同一ノ思想ヲ種々ノ言語ヲ以テ言顯ハスコトヲ得ルカ如ク、美術上ノ著作物ニ在テハ種々ノ技術ヲ以テ之ヲ言顯ハスコトヲ得例ヘハ富士山ノ景色ハ繪畫ヲ以テモ之ヲ顯ハスコトヲ得ヘシ、又彫刻模型ヲ以テモ之ヲ顯ハスコトヲ得ヘシ、故ニ恰カモ翻譯カ原著作物ニ對シテ複製タルカ如ク繪畫ヲ以テ景色ヲ顯ハシタルモノヲ彫刻模型ニ作り又ハ彫刻模型ヲ繪畫ニ爲スハ是レ亦複製ニ外ナラス、從テ本條ノ如キ規定ナキトキハ美術上ノ著作物ノ著作人ハ第一條ニ依リ如何ナル方法ヲ以テスルヲ問ハス自己ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ有スルヲ以テ畫家ハ自己ノ畫キタル畫ヲ彫刻ニ爲シ、彫刻家ハ其ノ彫刻物ヲ畫ニ直スコトノ專權ヲ有ス、從テ其ノ著作人ノ許諾ナシニテ畫ヲ彫刻物ニ作り、彫刻物ヲ畫ニ爲シタルトキハ著作權ヲ侵害スルコ

ト、爲ル、恰カモ原著作者ノ許諾ナクシテ翻譯ヲ爲シタルト同一ノ法理ナリ、故ニ適法ノ翻譯ニ著作權ヲ認メ之ニ保護ヲ與フル以上ハ同一ノ論理ニテ適法ニ異リタル技術ニテ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ニモ著作權ヲ認メサル可カラズ、是レ本條ノ規定アル所以ニシテ其ノ理由ハ前條ニ於テ説明シタル所ト少シモ異ラス、

抑モ書ヲ彫刻ニ作り、模型ヲ寫眞ニ取ルカ如キハ他人ノ意匠發明ニ係ル原本ヲ摸擬セシニ過キスト雖己レモ亦自己ノ技術ヲ施セシモノニシテ新ニ精神の勢力ト工夫トナ用ヒシモノナレハ之ニ保護ヲ與フル正當ナリ、例ヘハ猿ノ畫ヲ彫刻ニ彫リビスマルクノ石版畫ヲ模型ニ作ルカ如キハ彫刻、模型ノ基礎ト爲リシモノハ他人ノ著作物ニシテ之ヲ摸擬セシニ相違ナシト雖畫ト彫刻、石版ト模型ノ如キ全ク別種ノ技術ニシテ畫ヲ寫シ、彫刻ヲ彫刻ニテ模スルモノト大ニ性質ヲ異ニス故ニ是等ノモノチ一ノ著作ト看做シ之ニ保護ヲ與フルモ決シテ不當ニアラス、恰カモ學藝上ノ著作物ニ於テ翻刻ニハ何

等ノ保護ヲ與ヘスシテ翻譯ニ保護ヲ與フルト同一ナリ、而シテ本條ニ於テ保護ヲ享有スルニ適法ニ複製シタルコトヲ要スルハ是レ亦翻譯ノ場合ト同一ナリ、

原著物ト異ル技術ニ依リ複製スト云フハ例ヘハ原著物カ畫ナル場合ニ彫刻ヲ以テ之ヲ複製シ、原著物カ寫眞ナル場合ニ模型ヲ以テ之ヲ複製スルカ如キチ云フ、而シテ何カ異リタル技術ナリヤハ事實問題ニシテ法律ヲ以テ之ヲ一定スルヲ得ス、例ヘハ畫ト彫刻、彫刻ト模型、模型ト寫眞ノ如キハ明ニ異リタル技術ナリ、然レトモ場合ニヨリテハ異リル技術ナリヤ將タ同一技術ナリヤハ容易ニ判定シ得ラレサルコトアルヘシ、此ル場合ニハ裁判所ハ技術家ノ意見ヲ徴シ之ニ依リテ判定スルノ外ナキナリ、而シテ異リタル技術ナリヤ否ヤノ決定如何ニヨリ本條ヲ適用スヘキモノナリヤ否ヤノ差ヲ生シ從テ其ノ著作物ニ著作權アリヤ否ヤノ問題ニ歸シ、極メテ重大ナル結果ヲ生ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著物ノ著作権ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

(寫眞第六條條約議定書第一追加第二條一ノロ)

寫眞ハ美術上ノ著作物ナリヤ否ヤノ問題ハ歐米諸國ニ於テモ爭ノアル所ニシテ國ニヨリテハ之ヲ美術上ノ著作物ト看做サ、ル國アリト雖最近ノ立法例ニ於テハ多クハ皆之ヲ美術上ノ著作物ト爲スカ如シ、佛國ニ於テハ著作權法ニ明文ナキヲ以テ寫眞ハ美術上ノ著作物ナル語ノ中ニ包含セラル、ヤ否ヤノ問題ニ關シ學說並ニ裁判例區々ニ分レ一定スル所ナカリシカ、最近ノ判決例ニ於テハ之ヲ美術上ノ著作物ト認ムルコトニ決定シ他ノ美術上ノ著作

物ト同一ノ保護ヲ與フコト、爲レリ、學者ノ說モ亦此ノ判決ヲ是認スルモノ、如シ、本法ニ於テハ歐洲諸國多數ノ立法例ニ倣ヒ寫眞ヲ以テ美術上ノ著作物ト爲シ第一條ノ列記中ニ特ニ之ヲ明言シ美術上ノ著作物タルコトヲ明ニセリ、故ニ寫眞ニ關シテハ特ニ例外ノ規定アル場合ノ外ハ凡テ美術上ノ著作物ノ規定ヲ適用セラル、モノトス、但シ著作権ノ期間ニ關シテ一般著作權ノ期間ヨリ短縮シテ十年トセリ、是レ寫眞版權條例ノ規定ヲ襲踏シタルモノニシテ其ノ理由ハ寫眞ハ單ニ光線ト含密ノ作用ニ依リテ製作スルモノナレハ他ノ著作物ノ如ク多クノ勞力ヲ要スルモノニ非サレハ其ノ著作権ノ期間ヲ永クスルノ必要ナシト云フニアリ、歐洲諸國ノ立法例ニ於テモ寫眞著作權ノ期間ハ他ノ著作物ノ期間ヨリ短キヲ常トス、

十年ノ期間ノ計算方ハ第二項ニ規定アリ、其ノ方法ハ他ノ著作物ノ場合ト異ルコトナシト雖、只寫眞ニ付テハ發行セサル場合ニハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ストセルノ差アルノミ、他ノ著作物ニ在テハ發行セサル場合ニ

ハ其ノ著作權ハ永久ニ繼續スルモノナリト雖寫眞ニ在テハ此ノ主義ヲ採ラ
 スシテ發行セナル場合ニ於テモ尙ホ種板ヲ製作シタルキヨリ十年ニシテ消
 滅スルモノトセリ、蓋シ寫眞ヲ製作スルハ前述セルカ如ク單ニ光線ト含密ノ
 作用ニヨリ製作スルモノニシテ他ノ著作物ノ如ク多クノ努力ト時間トヲ要
 セサレハ未發行ノモノト雖之ヲ永久ニ繼續セシムル必要ナキヲ以テナリ、
 第三項ノ規定ハ第一項ノ例外ニシテ十年ヨリ長ク著作權ノ繼續スル場合ヲ
 規定シタルナリ、即チ著作權ノ存スル美術上ノ著作物ヲ適法ニ寫眞ニ寫シ取
 リタル場合ニハ其ノ寫眞ノ著作權ハ美術上ノ著作物ノ著作權ト同一ノ年限
 間繼續スルナリ、例ヘハ橋本雅邦氏ノ畫ハ美術上ノ著作物ニシテ其ノ著作權
 ハ橋本氏之ヲ有ス、小川一眞氏橋本氏ノ許諾ヲ得テ其ノ畫ヲ寫眞ニ寫シ取り
 タル場合ニハ小川氏ノ寫眞著作權ノ期間ハ十年ニシテ消滅セスシテ原著作
 物ノ著作權即チ橋本氏ノ有スル著作權ト同一ノ期間繼續スルナリ、即チ橋本
 氏ノ生存間及死後三十年ナリ、何故ニ此ノ場合ニ限リ其ノ期間ヲ延長セシヤ

ト云フニ、其ノ理由ハ寫眞ノ基礎ト爲リタル原著作物ヲ保護スルノ旨趣ニ出
 テタルナリ、何トナレハ若シ寫眞著作權ニシテ十年ニシテ消滅スルトキハ十
 年以後ニ於テ其ノ寫眞ハ所謂公有ニ歸スルヲ以テ何人カ之ヲ複製スルモ自
 由ナリ、而シテ之ヲ複製スルコトヲ得ル以上ハ寫眞ヨリ間接ニ原著作物ヲ複
 製シ原著作物ノ利益ヲ害スルコト、爲レハナリ、故ニ尙モ原著作物ヲ保護セ
 ントスルニハ寫眞著作權ノ期間ヲ原著作權ノ期間ト同一ニシ、其ノ期間内ハ
 何人モ之ヲ複製スルコトヲ得サラシメサル可カラス、是レ本項規定ノ必要ア
 ル所以ナリ、然レトモ原著作物ノ著作權ト寫眞師トノ間ニ別段ノ契約アルト
 キハ其ノ契約ニ從フヘキハ勿論ナリ、例ヘハ前述ノ例ニ於テ橋本氏カ小川氏
 ニ特ニ二十年間丈ク著作權ヲ專有セシムルノ契約ヲ取結フトキハ小川氏ハ
 其ノ契約ニ從ヒ單ニ二十年間著作權ヲ有スルニ止ル、蓋シ本項ノ規定ハ寫眞
 著作物ヨリハ寧ロ美術上ノ著作物ノ著作權ヲ保護スルヲ目的トスルモノナ
 レハ其ノ著作權ニシテ自ラ其ノ利益ヲ拋棄スルトキハ法律ハ特ニ期間ヲ延

長スルノ必要ナケレハナリ
 千八百八十六年ノ同盟條約議定書第一ニ依レハ寫眞著作物ニ美術的著作物ノ性質ヲ拒否セサル同盟諸國ハ其ノ内國法ノ許與スル範圍内ニ於テ寫眞著作物ニモ亦本條約ノ利益ヲ附與スヘキコトヲ約定セリ故ニ寫眞ニ關シ同盟諸國ノ著作權ヲ保護スルハ其ノ國ニ於テ寫眞ニ美術的性質ヲ拒否セサル場合ニ限レリ從テ同盟國ノ寫眞ヲ保護スルト否トハ其ノ國カ寫眞ニ美術的性質ヲ認ムルト否トノ標準ニヨリテ之ヲ決セサル可カラス然ルニ前述セシ如ク歐洲諸國ノ著作權法ニ於テモ寫眞ヲ美術的著作物ト見ルヤ否ヤハ疑義ノ存スル所ニテ常ニ爭ノ原因ト爲ルヲ以テ千八百九十六年ノ巴里會議ニ於テハ議定書ノ本項ヲ修正シ寫眞著作物及之ト類似ノ方法ヲ以テ作製シタル著作物ハ各國法ノ許ス範圍内ニ於テ其ノ國法カ同種ノ内國製作物ニ附與スル保護ト同一ノ程度ニ於テ此ノ條約ノ利益ヲ享有スト規定セリ故ニ追加規程ニ依レハ寫眞ニ美術的著作物ノ性質ヲ與フルト否トニ係ラス苟モ其ノ國

ニ於テ寫眞ニ保護ヲ附與スル以上ハ同盟國ノ寫眞モ亦之ヲ保護セサル可カラズ只其ノ保護ノ方法及範圍ハ條約ニヨリテ拘束セザレス内國法ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルナリ我國ニ於テハ從來寫眞ニ美術的著作物ノ性質ヲ附與セシヤ否ヤ分明ナラスト雖寫眞版權條例ニ依リ一種ノ保護ヲ與ヘタルカ故ニ同盟國ノ寫眞ニモ同一ノ保護ヲ與ヘサル可カラス本法ハ其ノ保護ノ方法並ニ年限等ニ關シテ凡テ寫眞版權條例ノ規定ヲ襲踏シタルモノニシテ只之ヲ美術的著作物ト爲シタル點ニ付テノミ新主義ヲ採用シタルニ過キス

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特

ニ其ノ著作物ノ爲メニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

(版第十二條第二項)

本條ノ規定ハ版權法第十二條第二項ト同一ノ主旨ニ出テタルモノニシテ只其ノ文字ヲ改メ意義ヲ精確ニシタルニ過キス、文藝學術ノ著作物ノ著作權ノ期間ハ其ノ著作ノ生存間及死後三十年間繼續スルニ反シ寫眞ノ著作權ハ其ノ發行ノ日ヨリ十年ニシテ消滅スルヲ以テ普通ノ文書ノ中ニ挿入シタル寫眞ハ文書其レ自身ノ著作權ノ尙ホ存スルニ係ラス十年ニシテ消滅スルノ結果ヲ生ス、從テ十年以後ニ於テハ其ノ寫眞ハ自由ニ他人ニ複寫セラレ爲メニ其ノ文書ノ價格ヲ損スルニ至ル、是レ畢竟文書ノ著作權ト寫眞ノ著作權トノ期間同一ナラサルニ歸因ス、例ヲ以テ之ヲ説明センニ例ハ余カ函嶺案内記ヲ作り特ニ函嶺風景ノ最モ佳ナル場所ノ寫眞ヲ撮リ之ヲ其ノ案内記中ニ挿入シタリトセンニ、若シ本條ノ如キ規定ナケレハ其ノ寫眞ノ著作權ハ發行ノトキヨリ十年ニシテ消滅スルヲ以テ十年以後ニ於テハ折角余カ函嶺案内記ヲ作ルカ爲メニ攝寫シタル寫眞モ他人ノ爲メニ自由ニ複寫セラル、而シテ其ノ案内記ノ骨髓タル風景ノ寫眞ニシテ廣ク世間ニ販賣セラル、トキハ案内記

ノ販路ヲ妨ケラレ爲メニ余ハ大ニ損失ヲ受クルナリ、故ニ特ニ文藝學術ノ著作物ニ挿入スルノ目的ヲ以テ攝寫シタル寫眞ハ其ノ著作物ノ一部ト看做シ其ノ著作權ハ原著作物ト同一ノ期間内繼續スト爲スノ規定ヲ設クルハ實ニ必要ナリ、本條ノ規定ハ此ノ必要ニ基キタルモノナリ即チ此ノ規定ハ前條第一項ノ例外ニシテ寫眞著作權ノ期間ヲ延長シタルナリ而シテ其ノ延長シタルハ寫眞著作ヲ保護スルヨリハ寧ロ文藝學術ノ著作ヲ保護スルニアリ、

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

(寫第二條)

抑モ著作權ハ著作ヲ屬スルヲ本則トスルカ故ニ寫眞ノ著作權モ之ヲ著作シタル者即チ寫眞師ニ屬スルヲ普通ノ狀態トス、故ニ特別ノ規定ナキ以上ハ吾々カ寫眞師ヲシテ撮寫セシメタル人物ノ寫眞モ其ノ著作權ハ眞眞師ニ屬ス從テ寫眞師ハ吾々ノ許諾ナシテ隨意ニ之ヲ複寫シ發賣頒布スルコトヲ得然

レトモ人物ノ寫眞ヲ其ノ人ノ許諾ナシ店頭ニ羅列シ公衆ニ發賣スルハ實ニ吾人ノ人身權ヲ侵スモノナリ之ヲ放任スルハ法律上決シテ正當ニアラス故ニ本條ハ著作權ハ著作權ニ屬ストノ原則ニ例外ヲ設ケ他人ノ囑托ニ係ル肖像ノ寫眞ニ限リ其ノ著作權ハ寫眞師ニ屬セスシテ囑托者ニ屬ストセリ從テ寫眞師ニ撮寫セシメタル人物ノ眞眞ハ之ヲ撮寫セシメタル人カ之ヲ復寫シ又ハ發賣スルノ權利ヲ有シ寫眞師ハ此ノ權利ヲ有セサルナリ此ノ規定ハ寫眞版權條例第二條第一項ニモアル所ニシテ實ニ至當ナル規定ナリ彼ノ王侯將相等ノ寫眞ヲ其ノ本人ノ許諾ヲモ受ケス公然之ヲ店頭ニ掲ケ之ヲ販賣スルハ著作權ヲ侵害スルモノナリ

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

(追加第二條一ノロ)

光線ト合密ノ作用ニ依リ製作スルモノハ獨リ寫眞ニ限ラス其ノ他種々ノモ

ノアルコトハ化學家寫眞師等ノ皆認ムル所ナリ本法ニハ一々其ノ名稱ヲ掲ケ其ノ性質ヲ説明スルコトヲ得サルヲ以テ本條ヲ以テ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ關シテハ凡テ寫眞ト同一ニ取扱フ旨ヲ規定シタリ

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未ダ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

(版第十四條)

未ダ發行又ハ興行セサル著作物ノ著作權ハ永久無限ニ繼續スルヲ以テ其ノ間ニハ著作權者ノ不明ニ歸スルコト往々之アリ殊ニ我國ノ古文書類ニ在テハ多クハ未ダ發行セサルモノニシテ且數十年乃至數百年前ニ著作セルモノ多シ而シテ未發行ノ著作物ハ版權法ニ於テモ又本法ニ於テモ其ノ著作權ハ永久ニ繼續スルヲ以テ其ノ著作權者又ハ承繼人ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ

發行スルコトヲ得ス、而シテ今日其ノ著作又ハ承繼人ノ何人ナルヤヲ追求シ其ノ許諾ヲ得ルハ實ニ困難ニシテ殆ント不可行ノコトニ屬ス、從テ假令其ノ古文書中歴史學社會學等ニ必要ナルモノアリテ之ヲ公ニスルハ學術ノ研究上欠ク可カラサルモノト雖之ヲ公ニスルコトヲ得スシテ空シク筐底ニ埋沒セシメサルコトヲ得サルカ如キ狀況アリ、何トナレハ若シ其ノ著作又ハ承繼人ノ許諾ナク之ヲ公ニスルトキハ萬一著作ノ相續人コシテ今日ニ生存スルモノアルトキハ著作權侵害ノ訴訟ヲ提起セラル、ノ恐アレハナリ、爲メニ學問上有益ナル文書モ世ニ顯ハレスシテ止ム至ル、此ノ如キハ學術ノ研究上實ニ措ク可カラス著作權者ノ明瞭ナル場合ニハ一々其ノ人ニ就キ許諾ヲ求ムルノ途アルモ其ノ不明ナル場合ニハ此ノ途ナキヲ以テ本條ニ於テハ命令ニ定ムル方法ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得トセリ、命令ニ於テハ如何ナル方法手續ヲ定ムルヤ明ナラスト雖恐クハ新聞ニ廣告スルトカ主務官廳ノ許可ヲ受クルトカノコトナルヘシ、此ル手續ヲ盡シ著作

權者ヲ搜索スルノ凡テノ手段ヲ施シ而シテ尙ホ知レサルニ於テハ之ヲ發行セシムルモ決シテ著作權者ヲ害スルト云フコトヲ得ス、抑モ著作權法ノ精神ハ前述セシカ如ク學問美術ノ發達ヲ獎勵スルニアレハ一方ニ於テハ著作權者ヲ保護スルト同時ニ又他方ニ於テハ社會一般ノ利益ヲモ考ヘサル可カラス、本條ノ如キ或ハ著作權者ヲ保護スルコト薄キノ感ナキニ非サルモ社會ノ公益ヨリ之ヲ見レハ亦止ムヲ得サルナリ、況ンヤ著作權者ヲ搜索スルニ出來得ル限リノ手段ヲ盡シ尙ホ知レサルニ於テチヤ、又況ンヤ本條ノ規定ハ單ニ其ノ著作權者ヲ發行又ハ興行セシムルニ止リ著作權者ヲ取得セシムルニ非サルニ於テオヤ、

本條ノ規定ハ未タ發行又ハ興行セサル著作權者ニ關シテノミナリ、故ニ既ニ發行又ハ興行シタル著作權者ニ關シテハ假令其ノ著作權者ノ不明ナル場合ト雖本條ヲ適用スルコトヲ得ス、是レ蓋シ既ニ發行又ハ興行シタル著作權者ハ其ノ著作權ニ期間アリテ其ノ期間ヲ經過スルトキハ著作權消滅スルカ故ニ本條ノ

如キ規定ヲ設クル必要ナキヲ以テナリ、未刊ノ著作物ニ在テハ其ノ著作權ハ永久ニ繼續スルヲ以テ著作權消滅ノ期ナク從テ特別ノ規定ナクシテハ永久ニ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得サルナリ、是レ未刊ノ著作物ニ關シテハ特別ニ本條ノ規定ヲ設クル必要アル所以ナリ、

又本條ハ單ニ世間一般ノ人ニ發行又ハ興行ノ自由ヲ認メタルニ過キスシテ著作權者ノ權利ヲ消滅セシムルニアラス、又其ノ發行者又ハ興行者ニ著作權ヲ與フルニアラス、換言スレハ本條ノ規定ハ著作權ノ存スル他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スルモ著作權ノ侵害ト爲ラスト云フニ過キス故ニ假令著作權者出テ來ルモ自己ニ著作權アリトノ理由ヲ以テ其ノ發行又ハ興行ヲ差止ムルコトヲ得サルナリ、

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行

シタル者ニ限り本法ノ保護ヲ享有ス

(條約第二條第三條追加第一條第一、第二)

本條ハ外國人ノ著作權ヲ規定シタルモノニシテ外國人ノ著作權ニ關シテハ同盟條約等ニ別段ノ規定アル場合ニハ其ノ規定ニ依リ規定ナキ場合ニハ本法ニ依ルチ本則トス、

本條ヲ説明スルニ當リテ先ツ第一ニ本法ノ規定同盟條約トノ關係トヲ説明スヘシ、同盟條約第二條ニ依レハ「同盟國ノ一ニ屬スル著作人又ハ其ノ承繼人ハ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシタル著作物若シハ未タ公ニセサル著作物ニ關シ他國ニ於テ其ノ國法カ内國人民ニ現今附與シ若ハ將來附與スヘキ權利ヲ享有ス」トアリ故ニ同盟國ノ著作人又ハ其ノ承繼人ニ對シテハ我國臣民ト同一ノ保護ヲ與ヘサル可カラス、換言スレハ著作權保護ニ關シテハ内外國人平等主義ヲ採ルコトヲ要ス、而シテ外國著作人ノ保護ニ關シ本法ニ規定ナクシテ同盟條約ニ特別ノ規定アル場合ニハ其ノ條約ノ規定ニ依ラサル

可カラス、今條約ニ於ル別段ノ規定ヲ左ニ説明スヘシ、

(一) 條件及方式ノ履行、同盟國ノ著作者又ハ其ノ承繼人カ他國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルニハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル國ノ著作權法ニ規定セル條件及方式ヲ履行スルコトヲ要ス(同盟條約第二條第二項前段)而シテ一タヒ其ノ國法ノ規定スル條件及方式ヲ履行スルトキハ最早他國ニ於テハ何等ノ方式及條件ヲ履行セスシテ當然著作權ノ保護ヲ受クルコトヲ得(解釋的宣言書第一例)ヘハ我著作權法ニ於テハ著作權侵害ニ對スル民事訴訟ヲ提起スルニハ著作權ノ登錄ヲ受クルコトヲ要スルモ同盟國ノ著作者ハ其ノ自國ノ著作權法ニ從テ方式ヲ履行シタルトキハ最早我國ニ於テハ登錄ヲ受ケスシテ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルナリ、故ニ佛人ハ佛國著作權法ノ規定ニ從ヒ納本ヲ爲シ英國人ハ英國著作權法ニ依リ「ステイ」ヨリ「ナース、ホール」ニ於テ登錄ヲ爲シタルトキハ我國ニ於テハ何等ノ手續ヲ爲サスシテ直ニ著作權ノ保護ヲ享有スルコトヲ得ルカ如ク、換言スレ

ハ本法第十五條第二項ノ規定ハ同盟條約ニ於テ保障セル外國著作者ニ對シテハ適用ナキナリ、是レ即チ條約ニ別段ノ規定アル場合ニシテ此ノ場合ニハ本法ヲ適法セスシテ條約ヲ適用スルナリ、

(二) 著作權ノ期間 同盟條約第二條第二項後段ニ曰ク

「他國ニ於ル著作權ノ享有ハ其ノ本國ニ於テ附與スル保護ノ期間ヲ超過スルコトヲ得ス」

例ヘハ我著作權法ニ從ヘハ著作權ノ期間ハ著作者ノ終身及死後三十年ナレトモ英國法ニ於ル著作權ノ期間ハ著作者ノ終身及死後七年ナルヲ以テ英國人ハ英國ニ於テ發行シタル著作物ニ關シテハ死後七年ヲ經過スルトキハ最早我國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルコトヲ得ザルカ如ク即チ著作權ノ期間ニ關スル本法第三條以下ノ規定ハ英國人ニ適用セラレスシテ條約ノ規定ニ依リ英國法ニ從フコト、爲ルナリ、是レ亦條約ニ於ル別段ノ規定ナリ、

以上ハ條約ニ別段ノ規定アル場合ナルヲ以テ外國人ノ著作權ニ關シテハ是等ノ規定ヲ適用シ其ノ以外ノ事項即チ條約ニ何等ノ規定ナキ事項ニ付テハ凡テ本法ノ規定ヲ適用スルナリ、

同盟國ニ屬スル著作者ハ同盟條約ニ依リテ本法ノ保護ヲ享有スルハ明ナレトモ、同盟國以外ノ著作者ハ如何、曰ク同盟國以外ノ著作者ト雖其ノ著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシ又ハ公ニセシメタル場合ニ於テハ本法ノ保護ヲ享有ス、是レ同盟條約ノ明ニ規定スル所ナリ(同盟條約追加規程第二)即チ此ノ場合ニハ同盟國以外ノ著作者モ同盟國ノ著作者ト同一ノ地位ニ立ツモノトス例ヘハ米國人、埃國人、清國人(同盟國ニ屬セサル國民)カ英佛獨(同盟國)ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタルトキハ我國ニ於テモ之ヲ保護セサル可カラズ、而シテ同盟國以外ノ著作者カ本法ノ保護ヲ享有スル必要條件ハ其ノ著作物ヲ同盟國ニ於テ始メテ發行シタルコト是ナリ、故ニ同盟國以外ニ於テ始メテ發行シタル場合ニハ條約ニ於テ何等規定スル所ナキヲ以テ之ヲ保護ス

ルト否トハ各國內國法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ、例ヘハ支那人カ支那ニ於テ其ノ著作物ヲ發行シ又ハ米國人カ魯國ニ於テ其ノ著作物ヲ發行シタルカ如キ場合ニハ之ヲ保護スルト否トハ條約ニ依リテ拘束セラレズ、我國內國法ニ於テ隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルナリ、而シテ本法ハ同盟國以外ノ著作者ハ我國ニ於テ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタルトキニ限り本法ノ保護ヲ享有スルノ主義ヲ採リタリ、抑モ我國ハ文藝學術ノ點ニ於テハ今日駭々乎トシテ進ミツ、アルモ尙ホ未ダ完美ノ域ニ達セズ外國ノ文物ヲ輸入シ我文化ヲ助クルハ實ニ今日ニ於テ欠ク可カラサルコトナリ、故ニ條約ニ依リテ拘束セラル、場合ハ止ムヲ得サルモ別ニ拘束セラレサル場合ニハ成ルヘク我學術ヲ發達セシムルニ便宜ナル方法ヲ採ラサル可カラズ、是レ本條ニ於テ外國人ハ條約ニ規定ナキ場合ニ於テハ我帝國内ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタルトキニ限り本法ノ保護ヲ享有スト爲シタル所以ナリ、故ニ例ヘハ清國人、米國人、魯國人ノ如キ同盟國ニ屬セサル著作者カ其ノ著作物ヲ同盟國以外ニ於テ

發行シタル場合ニハ我著作權法ハ之ニ保護ヲ與ヘス只是等ノ國民カ我國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル場合ニ限リ本法ノ規定ニ從ヒ保護ヲ與フルナリ、

抑モ著作權ノ一ノ財産權シテ私權タルコトハ第一條ノ說明ニ於テ之ヲ詳述シタリ、故ニ本條ノ如キ規定ナキニ於テハ民法第二條ノ原則ニ從ヒ凡テノ外國人ハ著作權ノ保護ヲ享有スルヤ明ナリ、從テ同盟國ニ屬スル著作權者タルト同盟國以外ノ著作權者タルトヲ問ハス又其ノ著作物發行地ノ同盟國內タルト將テ其ノ以外タルトヲ論セス、凡テ著作權ノ保護ヲ享有セサル可カラス、恰カモ吾々カ世界至ル所ニ於テ所有權其ノ他ノ私權ノ保護ヲ享有スルカ如シ、元來私權ハ所謂國民的權利ニアラスシテ人類の權利ナルヲ以テ之カ享有ニ內國臣民ト外國人トヲ區別スル理由ナク苟モ人類ノ生存スル所ニハ之ヲ認メサル可カラス、私權ハ人類の權利ナリトノ原則ハ彼ノ排外主義、賤外主義ノ其ノ跡ヲ絶テタル今日ニ於テハ何レノ國法ニ於テモ皆之ヲ認ム、我民法第二條

ニ於テモ此ノ主義ヲ採用シ外國人ハ條約又ハ法令ニ禁止アル場合ヲ除ク外ハ私權ヲ享有スル旨ヲ明言セリ、果シテ然ラハ私權ノ一種タル著作權モ亦之ヲ外國人ニ享有セシムルハ法理上國際上至當ニアラサルカ、之ヲ外國人ニ拒ムハ彼ノ排外主義ノ餘習ニアラサルカ、曰ク夫レ或ハ然ラン、余ハ理論トシテハ著作權ニ關シテモ民法ノ例ニ從ヒ内外國人平等主義ヲ採リ外國著作權者ニ對シ凡テ內國臣民ト同一ノ保護ヲ與フルコトノ正當ナルコトヲ信スルモノナリ、然レトモ著作權ノ如キハ其ノ國ノ文化ノ程度如何ニヨリテ其ノ保護ノ輕重厚薄ヲ定メサル可カラス、若シ我國ニシテ文化最高ノ域ニ達シ歐米ト相對比スルノ現況ナルニ於テハ内外國人平等主義或ハ可ナラント雖我國現時ノ狀態ニ於テハ未ダ歐米ト相對比スルノ域ニ進ミタリト云ノコトヲ得ス、否ナ寧ロ彼ノ文物ヲ輸入シ其ノ長ヲ採リ我カ短ヲ補フヲ要スルノ時代ナリト云ハサル可カラス、然ラハ著作權ニ關シテニ平等主義ヲ採ラス此ノ折衷主義ヲ採リタルハ實際上止ムヲ得サルコトニシテ必スモ非難スヘキニアラス、況ンヤ文

化ノ進步セル獨、英、米、瑞、西等ノ諸國ニ於テモ尙ホ此ノ主義ヲ採ルニ於テハ
ヤ、佛國及白耳義ノ著作權法ハ非常ニ進步セル主義ヲ採リ内外國人ノ區別ヲ
爲ナス又其ノ發行地ノ如何ヲ問ハス凡テ著作權ノ保護ヲ與フルコト、セリ、絶
對ニ此ノ平等主義ヲ採ル國ハ此ノ二國ニシテ其ノ他ノ國ニ於テハ或ハ相互
主義ヲ採リ或ハ本法ノ如キ折衷主義ヲ採ル尙ホ此點ニ關シテハ國家學會雜
誌ニ於ル余ノ論文ヲ參照セラレシコトヲ望ム明治三十二年四月發行同雜誌

第二章 僞作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定
シタルモノ、外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ
生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

(版第一條第十六條第十八條第十九條第二十二條第二十三條、脚、第四條、寫

第八條第十條

本條ハ第一ニ僞作ノ何モノタルヲ示シ、第二ニ僞作者ハ損害賠償ノ責任アル

コトヲ規定シタリ、著作權侵害トハ如何ナル行爲ヲ指スヤハ本條ニ於テハ之
ヲ明言セス其ノ解釋ハ學者ノ研究ニ任セタリ是レ恰カモ民法ニ於テ不法行
爲ノ定義ヲ下ナス單ニ不法行爲ヲ爲シタルモノハ損害ヲ賠償スルノ責任ヲ
負フトノ原則ヲ規定シタルト同一ナリ、抑モ著作權トハ前述セシカ如ク著作
者ノ權利ナリ而シテ著作權ノ權利ハ第一條ニ於テ規定シ著作權ハ其ノ著作
物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ストセリ、故ニ著作物ヲ複製スルノ專權ヲ侵シタ
ル者カ著作權ヲ侵害シタル者ニシテ即チ僞作者ナリ、例ヘハ著作權ノ許諾ナ
クシテ其ノ文書圖書ヲ翻刻シ若ハ其ノ彫刻物模型ヲ複製シ之ヲ發賣頒布ス
ルカ如キ凡テ著作權ノ複製ノ專權ヲ侵スモノナレハ是等ノ行爲ヲ爲ス者ハ
僞作者ナリ、又文藝學術ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ脚本樂譜ノ著作權ハ與行
權ヲ包含スルニヨリ著作權ノ許諾ナシテ其ノ著作物ヲ翻譯シ又ハ脚本樂
譜ヲ與行シタルトキハ是レ亦著作權ノ侵害ナリ、元來著作權ナルモノハ著作
者カ其ノ著作物ヲ複製シ翻譯シ與行シ之ニヨリテ利益ヲ專有スルノ權利ナ

レハ此ノ著作専有ノ權利ヲ侵害スルモノハ凡テ僞作者ナリ、恰カモ所有權ハ所有者カ自己ノ所有物ヲ使用收益處分スルノ專權ナレハ此ノ專權ヲ侵スモノハ凡テ所有權侵害者タルカ如シ。

前述ノ如キ所爲ニ依リ他人ノ著作權ヲ侵害シ之ニ因リテ損害ヲ生セシメタルトキハ其ノ損害ヲ賠償セサル可カラズ、抑モ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノハ民法ニ所謂不法行爲ニシテ之ニ因リテ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償セサル可カラサルコトハ民法ノ規定ニヨリテ明ナリ、而シテ著作權モ亦一ノ財產權ナレハ之ヲ侵害シタルモノハ當然民法ノ不法行爲ノ規定ニヨリ其ノ損害ヲ賠償セサル可カラサルコトハ勿論ニシテ特ニ本條ノ如キ別段ノ規定ヲ設クルヲ要セサルカ如シ、本條ノ規定ハ單ニ著作權ノ侵害ハ民法ノ所謂不法行爲タルコトヲ明ニシタルニ過キスシテ學理上精確ニ之ヲ論スレハ或ハ不必要ノ規定ナラン、只疑義ノ生センコトヲ恐レ之ヲ明瞭ニシタル立法者ノ老婆心タルニ過キスト云フノ外ナキナリ、

第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ僞作ト看做サス

- 第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト
- 第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト
- 第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト
- 第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト
- 第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作

ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第一條ニ依リ著作家ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有スルヲ以テ著作
 者ノ許諾ヲシテ其ノ著作物ヲ複製シタルトキハ著作權ノ侵害トナリ之ニ
 因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ生ス若シ此ノ原則ヲ絶對ニ適用ス
 ルトキハ著作家以外ノ者ハ他人ノ著作物ノ一句一字ヲモ複製スルコトヲ得
 サルコト、爲リ學生ハ教師ノ講義ヲ筆記スルコト能ハス新聞記者ハ他ノ新
 聞記者ノ論說ヲ駁撃スルニ其ノ論說ヲ引用スルコト能ハス畫家ハ彫刻物ヲ
 描寫スルコトヲ得ス彫刻師ハ畫ヲ複製スルコトヲ得サルノ結果ヲ生シ實ニ
 不便少カラサルノミナラス却テ學藝美術ノ進歩ヲ阻害スルニ至ル故ニ本條
 ニ於テハ場合ヲ限リ無許諾複製ヲ許シ此ノ數個ノ場合ニ於ル複製ハ僞作ト
 爲ラサルコトヲ規定セリ

本條ニ依レハ僞作ト看做サレサル複製ニ六アリ、

- 第一、發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スル
 コト、例ヘハ娛樂ノ爲メ又ハ練習ノ爲メニ他人ノ書畫彫刻ヲ描寫複製スル
 カ如キ又ハ學生カ教師ノ講義ヲ筆記スルカ如キ是レナリ、此ノ場合ニ該當
 スルニハ二ノ條件アルヲ要ス
- (一) 發行スルノ意思ナキコト、故ニ展覽ニ供スルノ目的ヲ以テ他人ノ書
 畫彫刻ヲ模寫シ又ハ出版スルノ意思ニテ他人ノ演說ヲ筆記シタルトキハ
 未ダ發行セサルモ其ノ意思ニシテ證明セラレタルトキハ僞作ト爲ルナリ、
 是レ蓋シ既ニ發行ノ意思アレハ他人ノ著作權ヲ侵害スルモノト推定シ得
 ラルレハナリ、
- (二) 器械的又ハ化學的方法ニ依ラサルコト、單ニ手寫即チ筆寫刀作ノ如
 キナラハ差支ナキモ之ヲ印刷シ又ハ寫眞ニ撮ルカ如キ器械的又ハ化學的
 方法ニ依リテ複製シタルトキハ僞作ト爲ルナリ、蓋シ手寫ナラハ實際多數

ヲ複製スルコト困難ナルヲ以テ著作権ヲ侵害スルコト希ナルヘキモ印刷
寫真ノ如キ器械的又ハ化學的ノ方法ニ依リテ複製スルトキハ容易ニ多數
ノ複製物ヲ現出スルヲ以テ著作権ヲ侵スノ虞アルヲ以テナリ、
以上ノ二條件ヲ具備スルトキハ實際著作ノ利益ヲ害スルコトナキヲ以
テ此ノ場合ニ於ケル複製ハ僞作ト看做サ、ルナリ、

第二、自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト 例ハハ參
照ノ爲メニ他人ノ說ヲ引用シ又ハ他人ノ說ヲ駁撃スルカ爲メニ其人ノ
文章ヲ節録スルカ如キ是レナリ、是レ亦他人ノ著作物ヲ複製スルニハ相違
ナキモ此ノ場合ニハ一々其ノ著作物ノ許諾ヲ受クルコトモ出來ス、又此ル
場合ニ於ル複製ハ決シテ著作物ノ利益ヲ害スルモノニ非サレハ之ヲ僞作
ト看做スノ必要ナキナリ、然レトモ其ノ節録引用ハ正當ノ範圍内ニ於テ爲
スヲ要ス、正當ノ範圍ト云フハ自己ノ說ヲ確カメ又ハ他人ノ說ヲ駁スルニ
必要ナル程度ニ於テト云フコトナリ、自己ノ說ヲ確カムルヲ口實トシ全ク

無關係ノ個所マテ又ハ不必要ニ長ク引用スルカ如キハ是レ正當ノ範圍ヲ
踰越シタルモノナレハ僞作タルヲ免カレサルナリ、然レトモ其ノ節録引用
カ正當ノ範圍内ナルヤ否ヤハ事實問題ナレハ各場合ニ依リテ之ヲ決定セ
サル可カラス即チ全ク裁判官ノ認定ニ在テ存ス、或國ノ著作権法ニ於テハ
法律ヲ以テ其ノ範圍ヲ一定シ幾頁以上ノ節録ハ僞作ナリト定メタル立法
例モアレトモ是レ或ハ實際ノ事實ニ適セサルコトアルヘキヲ以テ其ノ決
定ハ各場合ニ應シテ事實問題ト爲スノ優レルニ若カス

第三、普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ
拔萃蒐輯スルコト 例ハハ小學校中學校等ニテ用ユル修身書ニ聖哲名家
ノ嘉言ヲ蒐輯シ又ハ讀本ニ學者ノ名文ヲ拔萃スルカ如キ是レナリ、此ノ場
合ニ於ル複製ニシテ僞作タラサルニハ三ノ條件ヲ要ス

(一) 修身書又ハ讀本ノ目的ニ供スルコト、故ニ此ノ他ノ目的ニ供スル爲
ニ拔萃蒐輯スルハ僞作ナリ、例ハハ大家論集トカハ大家文集トカノ如キハ

修身書又ハ讀本以外ノ著作物ナレハ著作者ノ許諾ナクシテ拔萃蒐輯シタルトキハ僞作ト爲ルナリ、修身書トハ今日普通小學校等ニテ使用スル修身科ノ用書ノ如キモノニシテ孔子孟子ノ言、華聖頓ノ說其ノ他聖賢ノ格言等ヲ拔萃蒐輯シタルモノナリ、又讀本トハ例ヘハ「ナシヨナル、リ、ダー」獨逸語讀本ノ如キ多クハ語學修習ノ用ニ供スルモノニシテ是等ハ歐米人ノ名文ヲ拔萃シテ編輯スルナリ、是等ノモノハ單ニ原著物ノ一節若ハ一句ヲ拔萃蒐輯スルニ過キサレハ原著作者ノ利益ヲ害スルコト少シ、故ニ特ニ之ヲ僞作ト看做サ、ルナリ、

(二) 普通教育上ノモノタルコトヲ要ス、修身書及讀本ト云ヘハ多クハ普通教育上ノモノタルハ勿論ナレトモ場合ニヨリテハ高等教育上ノモノナキコトヲ保セス、故ニ特ニ普通教育上云々ノ文字ヲ加ヘタルナリ、普通教育ト云ヘハ高等教育ニ對スルモノニシテ小學校ハ勿論尋常中學校師範學校等ヲ云フ、是等學校ノ教科書ニ用ユル修身書又ハ讀本ヲ作ルニハ拔萃蒐輯

ヲ許スナリ、

(三) 正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト、修身書又ハ讀本ニ必要ナル範圍内ニ於テ拔萃スルヲ要ストノ謂ナリ而シテ其ノ必要ノ範圍ハ前述セシ如ク事實問題ニシテ裁判官ノ認定如何ニ在テ存ス、

本號ノ場合ニ於ル複製ヲ僞作ト看做サ、ル理由ハ全ク教育普及ノ趣旨ニ出テタルモノニシテ修身書又ハ讀本ヲ編輯スルニハ成ルヘク多クノ著作物ヨリ之ヲ拔萃セサル可カラス、然ルニ一々其ノ著作者ノ許諾ヲ得ナル可カラサルニ於テハ頗難ニ堪ヘス從テ完全ナル教科書ヲ得ル能ハス、又一方ニ於テハ修身書又ハ讀本ノ如キ普通教育ノ教科書ニ著作者ハ一句一言ヲ拔萃スルモ原著作者ノ利益ヲ害スルコトナキナリ、歐洲諸國ノ著作權法ニ於テモ教育用ノ書物ニハ拔萃ノ權能ヲ認メタル例多シ、又同盟條約ニ於テモ教育ノ目的ニ供スル著作物ニ拔萃ヲ爲スコトノ適法不適法ヲ定ムルハ條約ヲ以テ之ヲ規定セス凡テ内國法ニ讓ルヘキコトヲ規定セリ、

第四、文藝學術ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト 例ヘハ詩ノ一句歌ノ一節ヲ演劇脚本ノ文句中ニ入レ又ハ他人ノ歌ヲ樂譜ニ充ツルカ如キ是ナリ更ラニ適切ノ實例ヲ以テ之ヲ説明センニ日本外史ノ文句ヲ演劇脚本ノ文句中ニ入レ君ケ代ノ樂譜ヲ作りテ其ノ歌ヲ樂譜ニ充用スルカ如シ此ノ場合モ他人ノ著作物ノ複製ニ相違ナシト雖モ斯ル複製ハ原著者ノ利益ヲ害セスシテ脚本又ハ樂譜ノ著作者ニハ非常ナル便益ヲ與フルヲ以テ特ニ之ヲ僞作ト看做サ、ルナリ、

第五、文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト、例ヘハ日光紀勝ノ著者カ其ノ説明ノ爲メニ日光ノ寫眞ヲ其ノ著作物中ニ挿入シ又ハ楠公父子訣別ノ畫ニ之ヲ説明センカ爲メニ日本外史ノ文句ヲ挿入スルカ如キ是ナリ此ル場合ニハ他人ノ著作物ヲ複製スルハ其ノ一小部分ニ過キスシテ實際著作者ノ利益ヲ害セサルノミナラス文藝

學術ノ著作物ト美術上ノ著作物ト相待テ一ノ完全ナル著作物ヲ爲スモノナレハ此ル複製ヲ適法ト看做スハ實ニ必要ノコトナリトス然レトモ本號ノ適用ヲ受クルニハ前者ノ場合ニハ文藝學術ノ著作物ガ主ニシテ美術上ノ著作物カ從タルコト後者ノ場合ニハ美術上ノ著作物カ主ニシテ文藝學術ノ著作物カ從タルコトヲ要ス故ニ例ヘハ日光紀勝ニ於テ日光ノ記事ハ僅カニ一頁ニシテ他ハ凡テ他人ノ美術上ノ著作物ヲ挿入スルカ如キ又冒頭ニ楠公訣別ノ畫ヲ掲ケ以テ日本外史中ノ楠氏ニ關スル記事ヲ凡テ複製スルカ如キハ本號ニ依ルノ限りニアラス而シテ是等ハ凡テ事實問題ニ屬スルヲ以テ一定ノ標準ヲ定ムルコト能ハスト雖モ他人ノ著作物ヲ自己ノ著作物中ニ挿入スルノ適法ナルト否トハ之ヲ説明スルノ材料ニ必要ナルヤ否ヤニコリ之ヲ判定セサル可カラズ、

第六、圖書ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖書ニ作ルコト 圖書ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖書ニ作ルハ複製ニ外ナラサルヲ以テ

若シ本號ノ如キ規定ナケレハ彫刻ヲ圖書ト爲シ又ハ圖書ヲ彫刻ニ彫ル場
合ニハ一々其ノ原著作者ノ許諾ヲ受ケサル可カラス然ルニ圖書ト彫刻又
ハ模型トハ全ク別種ノ技術ニ屬スルノミナラス從來我國ニ於テ此ル場合
ニハ一々畫家又ハ彫刻家ノ許諾ヲ經ルノ慣習ナキヲ以テ此ル場合ニハ之
ヲ僞作ト看做ササルコトトセリ然レトモ圖書彫刻模型等ヲ寫眞ニ擬寫ス
ルカ如キハ本號ノ範圍外ナレハ此ノ場合ニハ著作作者ノ許諾ヲ受ケルコト
ヲ要ス

以上列舉シタル六ノ場合ニ於ル複製ニハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス
例ヘハ日本外史ヨリ拔萃シタルコト又ハ瀧和亭ノ畫ヨリ複製セシコト或
ハ大熊氏廣ノ模型ヨリ描寫シタルコトヲ明記スルカ如シ若シ此ノ明記ヲ
怠ルトキハ第三十九條ニ依リ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラルルナリ、
第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ
輸入スル者ハ僞作者ト看做ス

(版第二十四條條約第十二條追加第一條第五)

僞作物ヲ輸入スルハ僞作ヲ爲シタルニアラスト雖著作作者ノ利益ヲ害スルノ
點ニ至テハ僞作ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ本條ニ於テハ僞作物ノ輸入者
ヲ以テ僞作者ト看做ス旨ヲ規定シタリ從テ輸入者ハ僞作ニ對スル民事刑事
ノ制裁ヲ受ケルモノトス

本條ニ依リ輸入者カ僞作者タルコトハ二ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス

(第一) 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ輸入スルコト、故ニ發賣頒布
ノ目的ナクシテ輸入スルハ僞作ヲ以テ論スルノ限リニアラス例ヘハ余カ單
ニ自己ノ研究ノ用ニ供スルカ爲メニリヨンカンノ著作權法ヲ佛國書籍商ヨ
リ購買シ之ヲ我國ニ輸入スルカ如キハ僞作ト爲ラス之ヲ發賣頒布スルノ目
的ヲ以テ此ル所爲ヲ爲シタルトキニ限リ本條ノ適用ヲ受ケルナリ而シテ此
目的ノ有無ハ固ヨリ事實問題ナリト雖書籍商カ數百部ノ外國書籍ヲ輸入ス
ルカ如キハ發賣ノ目的ヲ以テ輸入セルモノト推定シ得ラル、ナリ發賣頒布

ノ目的ノ有無ヲ以テ僞作ノ標準ト爲ス理由ハ發賣頒布セサレハ著作權者ノ利益ヲ害スルコトナキヲ以テ其ノ輸入者ヲ僞作者ト看做スノ必要ナケレハナリ、

(第二) 僞作者タルコト、本條ニ依リ輸入者ノ僞作者タルニハ其ノ輸入シタル著作物カ我著作權法ニ從ヒ僞作物タルコトヲ要ス、蓋シ著作權ノ保護ハ僞作ノ禁止ニアルヲ以テ假令我國ニ於テ僞作シタルコトナキモ他國ニ於テ僞作シタルモノヲ我國ニ輸入シ之ヲ發賣頒布スルノ事實アレハ等シク之ヲ禁ゼサル可カラス、若シ之ヲ禁ゼサレハ我國ニ於ル著作權者ノ權利ヲ保護スルコトヲ得サルニ至ル、而シテ其ノ僞作物ナリヤ否ヤハ我カ國法ニ依リ之ヲ判定セサル可カラス、故ニ外國ニ於テハ僞作物タルモ我國法ニ於テ之ヲ僞作物ト認メサルモノハ其ノ輸入ヲ禁スルノ限リニアラス、例ハ佛國著作權法ニ於テハ著作權ノ期間ハ著作權者ノ終身及死後五十年ナルモ我著作權法ニ於テハ死後三十年ナルヲ以テ佛國ニ於テ尙ホ著作權ノ存スル著作物モ我國ニ於テハ既

ニ著作權ノ消滅スルコトアリ、從テ佛國ニ於テハ僞作ト爲ルモ我國ニ於テハ僞作ト爲ラサルナリ、此ル場合ニハ我國法ニ於テハ僞作ト認メサルカ故ニ假令佛國ニ於テ僞作物ナルモ我國ニ之ヲ輸入スルコトヲ禁スル理由存セサルカ故ニ本條ヲ適用スルノ限リニアラス、

我著作權法ハ內國人ハ勿論同盟條約ニ規定セル外國著作權者モ亦之ヲ保護スルカ故ニ是等著作權者ノ著作物ヲ僞作シタルモノヲ輸入スル者モ亦僞作者ト爲ルナリ、例ハ英人ホルランド氏ノ法理論ヲ米國ニテ翻刻シ其ノ翻刻物ヲ我國ニ輸入スル者ハ僞作者タルカ如シ之ト同一ノ理由ニテ獨佛、白耳義等ノ著作權者ノ僞作物ヲ輸入スル者亦僞作者ト爲ルナリ、從來米國ハ同盟ニ加入セザリシヲ以テ英國ノ著作物ヲ米國ニテ翻刻シ我國ハ其ノ翻刻物ヲ廉價ニ輸入シ來リシモ將來ハ此ノ如キコトヲ爲スコトヲ得ス、從テ吾々ハ米國出版ノ廉價ノ書籍ヲ購讀スルコトヲ得サルニ至ルナリ、

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行ス

ル者ハ僞作者ト看做ス

本條ハ問題ノ解答書ヲ發行スルノ權利ヲ其ノ問題ノ著作者ニ與ヘタルナリ、從來學校等ニテ使用スル教科書殊ニ數學ノ教科書ニ練習用ノ爲メニ掲ケタル問題ニ付キ其ノ著作者ノ許諾ナクシテ解答書ヲ作り之ヲ發行シ來リシカ是レ實ニ著作者ノ利益ヲ害スルモノナリ、著作者カ折角練習用ニ供スルカ爲メニ著作シタル問題ヲ他人カ自由ニ解答書ヲ作り之ヲ發行スルトキハ練習ノ目的ヲ違スルコト能ハサルノミナラス其ノ解答ハ或ハ著作者ノ意ヲ誤マシルノ解答タルコトモアルヘク爲メニ著作者ニ有形無形ノ損害ヲ與フルニ至ル、恰カモ不完全ナル翻譯書ノ爲メニ著作者ノ意ヲ害シ其ノ名譽ヲ傷ケルト同一ナリ、既ニ翻譯權ヲ著作權ノ一部ト爲シ翻譯ノ特權ヲ著作者ニ與ヘタル以上ハ問題ノ解答書ヲ作ルノ特權モ亦之ヲ其ノ著作者ニ與フルモ決シテ不當ニアラス、若シ本條ノ規定ナキニ於テハ解答書ヲ作ルハ著作權ノ侵害ニ非サルヲ以テ問題ヲ作りタル者ノ許諾ナクシテ隨意ニ解答書ヲ作り之ヲ發行

スルニ至ル是レ特ニ本條ヲ設ケテ之ヲ禁止シタル所以ナリ、

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其ノ利益ソ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スルノ義務ヲ負フ

僞作ト云ヘハ多クハ故意又ハ過失ニ出ツルヲ常トスト雖場合ニヨリテハ故意ナク又過失ニ出テスシテ僞作ヲ爲スコトアリ、例ヘハ父カ他人ノ著作物ヲ剽竊シ一ノ著作物ヲ爲シ之ヲ恰カモ自己ノ著作物ノ如ク保存シ置キテ死亡シタル後其ノ子ハ父ノ真正ノ著作物ナリト信シ且他人ノ著作物ヲ剽竊シタルコトナキヤ否ヤ等ノ點ニ關シ十分ノ注意ヲ盡シタル後父ノ遺稿トシテ發行シタル場合ノ如キ子ノ側ヨリ之ヲ見ルトキハ是レ善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シタルモノナリ、而シテ此ノ場合ニハ故意モナク又過失モナキヲ以テ民法不法行爲ノ原則ヲ適用スルコトヲ得ス、故ニ本條ニ於テ特ニ明文ヲ設ケ不當利得ノ主義ニ基キ其ノ僞作物ノ爲メニ利益ヲ受ケ他人ニ損失ヲ及ホシ

タルトキハ受益者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スルノ義務ヲ負
フトセリ、蓋シ此ノ場合ニハ僞作者ニ故意過失ノ責ムヘキモノナキヲ以テ普
通ノ損害賠償ノ義務ヲ負ハシムルハ酷ナルヲ以テ著作權者ニ損失ヲ及ホシ
タル場合ニ只利益ノ存スル丈ヲ返還セシムルコト、セリ、是レ全ク民法第七
百三條ト同一ノ主旨ニ出テタルナリ、

本條ノ場合ニ僞作ナル名稱ヲ付スルハ妥當ナラサルカ如シ然レトモ著作權
者ノ側ヨリ之ヲ見レハ等シク著作權ヲ侵害セラレタルナリ、而シテ著作權ヲ
侵害シタル行爲ハ第三十九條ニ依リ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス凡テ僞
作タルヲ以テ本條ノ場合モ亦之ヲ僞作ト稱シタルナリ、要スルニ僞作ナル語
ハ法定的ノ語ニシテ汎ク著作權侵害ノ結果ヲ生スル行爲ヲ指稱スルナリ、只
本條ノ場合ニハ僞作者ハ刑事ノ制裁ヲ受クルコトナキナリ、何トナレハ刑事
ノ制裁ニ必要ナル故意ノ要素ヲ欠クヲ以テナリ、

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ

對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分
ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應シテ前條
ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

合著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬スルヲ以テ法ニ特別ノ規定ナキ以
上ハ其ノ權利ヲ行使スルニハ各著作者ノ合意ヲ以テスルヲ要ス、從テ著作
者間ニ意思ノ合致ヲ得ル能ハサルトキハ之ヲ行使スルコト能ハサルニ至ル、本
條ハ即チ特別ノ規定ニシテ僞作ニ對スル訴訟ヲ起スニハ共同一致ヲ以テス
ルヲ要セス各自隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ明ニセリ、即チ刑事ノ申告ヲ
爲スニハ他ノ著作者ノ同意ヲ要セス一人ニテモ之ヲ爲スコトヲ得又損害賠
償並ニ前條ノ場合ニ於ル利益返還ニ關シテハ自己ノ持分ニ應シテ民事ノ訴
訟ヲ起スコトヲ得ルナリ、蓋シ此ノ如キ規定ヲ設ケサレハ凡テ共同シテ權利
ヲ行使セサル可カラサルヲ以テ一人ノ不同意者アルカ爲メニ遂ニ自己ノ權
利ヲ行フコト能ハサルニ至ルヲ以テナリ、

第三十五條 僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス
 無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス
 未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス
 著作者ノ氏名ヲ顯ハサ、ルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

(條約第十一條)

本條ハ民事訴訟ニ於ル舉證ノ責任ニ關スル規定ニシテ訴訟手續ニ屬スルモノナリ、抑モ證據法ノ原則トシテ訴訟ニ於テ一ノ事實ヲ主張スルモノハ之ヲ證明スルノ責任アリ、故ニ僞作ノ訴訟ニ於テモ先ツ僞作ノアリタルコト並ニ

僞作ノ問題ト爲レル原著作物ノ著作者ノ何人タルコトヲ證明セサル可カラス然ルニ僞作ノアリタルコトヲ證明スルハ容易ナルモ其ノ原著作物ハ自己ノ著作タルコトヲ證明スルハ極メテ難シトス、恰カモ所有權ノ争ニ於テ所有者タルコトヲ證明スルノ困難ナルト同一ナリ、故ニ本條ニ於テハ所有權ノ争ニ於テ反對ノ證據ナキ限りハ所有者ヲ以テ占有者ト推定スルト同一ノ法理ニヨリ著作者ニ關スル法律上ノ推定ヲ設ケタリ、
 第一項ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其著作物ニ著作者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定スト規定セリ、例ヘハ水野鍊太郎著作權法要義トアレハ反對ノ證據ナキ限りハ水野ヲ以テ本書ノ著作者ト推定スルカ如シ、故ニ余カ本書ニ對スル僞作ノ訴訟ヲ起スニ當リ自ラ本書ノ著作者タルコトヲ證明スルヲ要セス、若シ被告ニ於テ余カ本書ノ著作者ニ非サルコトヲ主張スルナラハ被告ニ於テ其ノ事實ヲ證明セサル可カラズ、換言スレハ本書ノ著作者ノ何人ナルカノ點ニ關スル舉證ノ責任ハ被告コアルナリ、

第二項ニ於テハ無名又ハ變名著作物ニ於ル推定ヲ規定セリ、無名又ハ變名著作物ニ於テハ著作者自ラ訴訟ヲ起スコトナクシテ發行者カ著作者ニ屬スル權利ヲ保全スルヲ以テ第十二條發行者カ訴訟ヲ起スモノトス、從テ發行者ニ關スル推定ヲ設クルノ必要アリ、故ニ無名又ハ變名著作物ニ於テハ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ストセリ、例ヘハ本書ニ發行者有斐閣トアレハ法律ハ有斐閣ヲ以テ發行者タリト推定スルヲ以テ反對ノ證據ナキ限りハ有斐閣ハ自ラ發行者タルコトヲ證明スルヲ要セサルナリ、以上ハ發行シタル著作物ニ關スル推定ナリ、發行セサル著作物ニ關シテハ此ノ推定ナキヲ以テ普通證據法ノ原理ニ依リ之ヲ決定セサル可カラス、而シテ發行セサル著作物ニテモ脚本又ハ樂譜ノ如キハ之ヲ興行ナルコトアルヲ以テ興行シタル脚本及樂譜ニ關シテハ特別ノ推定ヲ設クルノ必要アリ、故ニ本條第三項第四項ニ於テハ興行シタル脚本樂譜ニ關スル推定ヲ規定セリ、第三項ニ於テハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯ハシタルモノヲ以テ其ノ

著作者ト推定ストセリ、例ヘハ未ダ發行セサル演劇脚本ヲ歌舞伎座ニテ興行シ其ノ興行ノ看板ニ福地源一郎著忠臣藏トアレハ其ノ忠臣藏ハ福地氏ノ著タルコトヲ公ニ示スモノナレハ福地氏ヲ以テ其ノ脚本ノ著作者ト推定スルカ如シ、故ニ福地氏ハ若シ其ノ興行權ヲ侵サレタル場合ニハ自ラ著作者タルコトヲ證明セスシテ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルナリ、樂譜ニ付テモ亦同様ナリトス、然レトモ場合ニヨリテハ其ノ興行ニ著作者ノ氏名ヲ顯ハサルコトアリ、今日普通ニ見ル所ノ演劇又ハ音樂ノ興行ニ其ノ脚本又ハ樂譜ノ著作者ノ何人ナルヤヲ示サハル場合往々アリ、此ル場合ニハ本條第四項ニ依リ其ノ興行者ヲ以テ著作者ト推定ス、例ヘハ著作者ノ氏名ヲ顯ハサスシテ或ル演劇脚本ヲ歌舞伎座ニテ興行スルトキハ其興行者何某ヲ以テ其脚本ノ著作者ト推定スルカ如シ、從テ其ノ興行權侵害ノ場合ニハ興行者何某カ著作者トシテ僞作ノ訴訟ヲ起スコトヲ得ルナリ、

本條ノ規定ハ單ニ舉證ノ問題ニ關スルモノニ過キサレハ之ヲ以テ當事者ノ權利義務ヲ定メタルモノト論定スルコトヲ得ス從テ著作權者ト發行者又ハ興行者トノ關係ハ別ニ契約等ニヨリテ定マルナリ、

本條ノ推定ハ單ニ民事訴訟ニ關シテノミナリ刑事ニ關シテハ此ノ推定ナシ、從テ刑事ノ場合ニハ普通證據法ノ原則ニヨリ偽作者ノ何人タルヤヲ定メサル可カラス

同盟條約第十一條ニハ訴訟ノ場合ニ於ル證據方法ヲ規定シ同盟國ノ裁判所ニ於テ偽作ニ對シテ訴追ヲ爲スコトヲ許容セラル、カ爲メニハ自己ノ氏名ヲ普通ノ方法ニ依リ其ノ著作物ノ上ニ記載スルヲ以テ足レリトストセリ、即チ其ノ著作物ニ著作權者何某ト記載シアレハ其ノ者ハ反對ノ證據ナキ限りハ真正ノ著作權者ト看做サレ其ノ名ヲ以テ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルナリ、同條第二項ニハ無名又ハ變名著作物ニ關スル場合ヲ規定シ無名又ハ變名著作物ニ關シテハ其ノ著作物ニ記名シタル發行者ハ……其ノ他ノ證明ヲ要

セスシテ無名又ハ變名著作者ノ承繼人ト看做サルヘシトアリ即チ著作物ニ發行者トシテ名ヲ掲ケタル文ニテ別ニ他ノ證明ヲ要セスシテ著作權者ノ承繼人ト看做サルトノ謂ニシテ其ノ主旨ハ本條第二項ニ同シ、
本條ハ著作權者ノ利益ノ爲メニ設ケタル推定ナリ、故ニ著作權者ノ不利益ノ點ニ關シテハ反對當事者ハ此ノ推定ヲ援用スルコトヲ得ス、換言スレ著作權者カ偽作ニ對シ訴訟ヲ起ス場合ニ於テノミ此ノ推定ノ利益ヲ受クルナリ、故ニ偽作ノ訴訟ヲ受ケタル場合ニ於テ被告ト爲ル者ニ對シテハ此ノ推定ヲ下スコトヲ得ス、又此ノ推定ハ一應ノ推定タルニ過キサルカ故ニ反對ノ證據アル場合ニハ之ヲ翻ヘスコトヲ得ルハ勿論ナリ、

第三十六條

偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ス

(版第十七條)

本條ハ偽作物ノ發賣頒布ノ差押又ハ興行ノ差止ニ關スル規定ナリ此ノ規定ハ民事訴訟法ノ假差押假執行ノ規定ト同一ニシテ著作權者ノ權利ヲ保護スルニ於テ欠ク可カラサルコトナリ而シテ此ノ差押又ハ差止ヲ爲スニハ原告又ハ告訴人ノ申請アルヲ要ス是レ偽作ニ關スル罪ヲ申告罪ト爲シタルト同一ノ主旨ニ出テタルナリ(第四十四條)

第三章 罰則

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(版第二十七條第一項第十條第一項)

偽作ヲ爲シタル者トハ著作權ヲ侵害シタル者ニシテ即チ著作權者ノ許諾ナクシテ其ノ著作物ヲ複製シタル者及第三十一條ノ輸入者並ニ第三十二條ノ發行者ヲ云フ是等ノ者ハ偽作ノ本人ナレハ處罰ヲ受クヘキハ勿論ナレトモ其ノ偽作タルコトヲ知リテ之ヲ發賣又ハ頒布シタル者モ亦同様ノ罰ヲ受クルナリ蓋シ偽作者アリト雖之カ發賣頒布ヲ爲ス者ナキトキハ偽作ノ所爲ヲ全フスルコト能ハサルモノナレハ發賣頒布者ノ如キハ偽作者ト同一ニ罰スルノ必要アリ是レ此ノ二者ヲ偽作ニ關スル主タル犯罪者ト爲シタル所以ナリ版權法ニ於テハ情ヲ知ルノ印刷者ヲ主タル犯罪者トシ偽作者ト同一ノ處罰ヲ受クシメタリ然レトモ印刷者ハ偽作者並ニ發賣頒布者ニ比スレハ其ノ罪輕カルヘキヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ主タル犯罪トセス只偽作ノ所爲ヲ幫助シタル事實アルトキハ刑法ノ原則ニ從ヒ從犯ト爲ルナリ

第三十八條 第三十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者竝第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ二條ハ別ニ説明ヲ要セス

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ所爲ハ僞作ニアラスト雖著作者ノ氏名ヲ詐稱スルモノナレハ殆ント僞作ニ等シキモノナリ蓋シ自己ノ名ヲ以テ其ノ著作物ヲ發行スルトキハ世ノ信用ヲ博スルコトヲ得ス從テ廣ク販賣セ得ラレナルヲ以テ有名ナル學者ノ名ヲ附シテ發行スルカ如キ本條ノ場合ニ該當ス例ハ民法ノ註釋書ニ民法起草委員タル穗積富井梅等ノ諸博士ノ著ト稱シテ之ヲ公ニスルトキハ其ノ發賣高ヲ増シ利益ヲ受クルコトヲ得ルヲ以テ自己ノ價值ナキ著作ヲ諸博士ノ著述ト稱シテ發行スルカ如キ或ハ頼山陽ノ實際著作シタルモノニ非サ

ル著作物ニ山陽ノ名ヲ附シテ發行スルカ如キ是レナリ是レ詐僞ノ行爲タルノミナラス學者ノ名ヲ濫用スルモノナレハ著作權ヲ侵害シタルト同一ニ罰スルノ必要アリ是レ特ニ本條ニ於テ之カ罰則ヲ設ケ且其ノ罰モ殆ント僞作ノ場合ト同一ニ爲シタル所以ナリ

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(版第二十八條)

本條ハ著作權ノ消滅シタル著作物ヲ改竄スル場合ヲ規定シタルナリ著作權ノ消滅シタル著作物ハ所謂公有ニ屬シ何人モ隨意ニ之ヲ複製スルコトヲ得ルヲ以テ本條ノ如キ規定ナケレハ之ヲ改竄スルモ又ハ其ノ著作者ノ氏名ヲ變更スルモ何等ノ制裁ナキナリ何トナレハ其ノ著作物ニ關シテハ最早權利

者ナキヲ以テ此ル所爲ヲ爲シタルモノニ對シテ何人モ異議ヲ申立ツルコトヲ得サレハナリ然レトモ假令著作權ノ消滅シタルモノト雖之ヲ改竄シテ著作ノ意ヲ害シ又ハ著作ノ氏名ヲ變更匿スルカ如キハ公益上決シテ放任スヘキモノニアラス須ク相當ノ取締ヲ設ケ一方ニ於テハ詐僞ヲ防キ一方ニ於テハ著作ノ名譽ヲ保護セサル可カラズ若シ之ヲ不問ニ附スルトキハ著作ノ利益ト名譽トヲ害スルコト決シテ尠少ニアラス例ハ山陽ノ日本外史ヲ改竄シテ山陽ノ意ニ非サルカ如キ修正ヲ爲シテ之ヲ公ニスルトキハ山陽ノ名譽ヲ傷クルハ勿論世人ハ山陽ノ言論文章ノ果シテ此ノ如クナルヤチ信シテ大ニ誤解ヲ來スヘシ故ニ假令著作權ノ消滅シタル著作物ト雖尙ホ或ル程度マテハ之ヲ保護ズルノ必要アリ本條ノ規定ハ全ク此ノ主旨ニ出テタルナリ即チ著作權ノ尙ホ存スル著作物ニ在テハ第一條第二十條ニ依リ一字一句ト雖之ヲ改竄スルコトヲ得スト雖著作權ノ消滅シタルモノニ在テハ是等ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルヲ以テ本條ニ於テ此ノ場合ニ關スル

規定ヲ設ケタリ、

著作ノ主旨ヲ害スルカ如キ改竄ハ之ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論著作物ノ題號モ亦重要ナルモノナレハ之ヲ改ムルコトヲ得ス蓋シ題號ハ著作物ノ徵證ナレハ之ヲ改ムルハ恰カモ著作物全體ヲ改竄シタルト同シ例ハ日本外史ノ題號ヲ改メテ日本正史ト爲ストキハ世間一般ノ人ハ其ノ全ク別物タルコトヲ信シ從テ日本外史ノ聲價ハ之ニ伴ハサルコト、爲ルヘシ、

著作ノ氏名稱號ハ亦著作ノ人格ヲ顯ハスモノナレハ最モ之ニ重キヲ置カサル可カラズ然ルニ其ノ名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ名ヲ附スルカ如キハ全ク原著者ノ著作ヲ奪去ルニ等シケレハ此ノ如キ所爲ヲ爲ス者ハ亦之ヲ罰セサル可カラズ是レ本條ニ於テハ以上ノ事實アルトキハ假令著作權ノ消滅シタル場合ト雖之ヲ罰スル所以ナリ、

第四十二條 虛僞ノ登錄ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録ハ民事訴訟ヲ提起スルノ必要條件ナルノミナラス著作權ノ質入讓渡ニ在テハ其ノ登録ハ第三者ニ對スル有效條件ナリ又登録ニヨリテ世人ハ著作ノ何人タルコト並ニ其ノ著作物發行ノ時日ヲ知リ得ルモノナレハ登録ニハ真正ノ事實ヲ記載スルコトヲ要ス虚偽ノ登録ハ世人ヲ欺クノ結果ヲ生スルモノナルカ故ニ本條ニ於テ虚偽ノ登録ヲ受クルモノヲ罰シ以テ真正ノ登録ヲ爲サシメンコトナ期ス、

第四十三條 偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者印刷者發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之沒收ス

(版第二十七條第二項)

偽作者並ニ偽作物ヲ發賣頒布シタル者ハ第三十七條ニ依リ處罰セラルト雖若シ其ノ偽作物ニシテ依然世ニ公行スルニ於テハ著作ヲ保護スルノ目的ヲ達スルコト能ハサルノミナラス世人モ偽作物ノ爲メニ欺カル、ニ至ル

故ニ偽作者ヲ罰スルト同時ニ偽作物並ニ偽作物ヲ複製スルカ爲メニ使用シタル器械器具ヲ沒收スルコト必要ナリ本條ニ於テハ沒收ニ關スル規定ヲ設ケ偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ之ヲ沒收ストセリ蓋シ單ニ偽作物ヲ沒收スルモ之ヲ複製シタル器械器具ニシテ尙ホ其ノ儘ニ存スルトキハ何時其ノ器械器具ヲ使用シ更ニ偽作物ヲ複製スルヤ測ラレサルヲ以テ此ル器械器具モ亦之ヲ沒收セル可カラス偽作ノ用ニ供シタル器械器具トハ例ヘバ印刷器械刻版石版銅版寫真種板ノ如キモノヲ云フ而シテ是等ノ機械ハ凡テ沒收スルニ非ラスシテ其中專ラ偽作ノ用ニ供シタルモノノミヲ沒收スルナリ故ニ印刷用ノ活字ノ如キハ此ノ中ニ包含セラレサルナリ何トナレハ印刷用ノ活字ハ特ニ其ノ偽作物ノ用ニ供スルモノニアラスシテ廣ク凡テ印刷物ニ用ヒラル、モノナレバ專ラ偽作ノ用ニ供シタリト云フコトヲ得サレハナリ之ニ反シ木版鉛版寫真種板ノ如キハ特定ノ著作物ノ爲メニノミ製作シ使用セラレタルモノナレハ本條ニ所謂專ラ偽作ノ用ニ供シタルモノ

ナリ故ニ是ノ器械器具ハ偽作物ト共ニ沒收セララル、モノトス、
 又偽作物及専ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者印刷者發賣者及頒布
 者ノ所有ニアル場合ニ限リ沒收セララル、ナリ故ニ既ニ其ノ以外ノ人ノ手ニ
 移リタル場合ニハ最早沒收スルコトヲ得ス、版權法ニ於テハ其ノ何人ノ手ニ
 在ルチ間ハス之ヲ沒收スルコトヲ得トセルモ是レ實コ不當ナル規定ナリ、何
 トナレハ此ノ規定ニ依レハ假令善意ノ第三者ノ手ニアルモ尙ホ之ヲ沒收ス
 ルコトヲ得レハナリ、例ヘハ吾々カ少シモ偽作ノ事實ヲ知ラス書肆ノ店頭ニ
 陳列シアル書籍ヲ購買シ之ヲ所持セルニ後日偽作物タルコトノ確定セラレ
 、トキハ之ヲ沒收セララル、ナリ、是レ決シテ善意ノ第三者ヲ保護スルノ途ニ
 アラス本條ニ於テハ此ノ不都合ヲ避ケンカ爲メニ單ニ偽作者印刷者並ニ發
 賣者頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收スルコト、セリ、蓋シ是等ノ人
 々ノ手ニアル間ハ世間ニ頒布セララル、虞アルチ以テ早ク之ヲ沒收シ未ダ頒
 布セザルニ先チ之ヲ豫防スルノ必要アルチヲナリ

第四十四條

本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ
 罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作作者ノ死亡シタル
 トキ竝第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔版第二十七條第一項第二十八條〕

偽作ニ關スル罪ハ版權法ニ於テモ歐米諸國ノ著作権法ニ於テモ申告罪タル
 ナ常トス、蓋シ著作権ハ財産權タルト同時ニ人格權タリ、從テ著作権侵害ハ財
 産權ノ侵害タルト同時ニ名譽權ノ侵害タリ、而シテ場合ニヨリテハ著作物ノ
 發行ハ其ノ著作作者ニ於テ利益ヲ主トセスシテ自己ノ說ヲ世ニ公ニスルコト
 ナ主トスルコトアリ、此ル場合ニハ其ノ著作物ヲ翻刻若ハ翻譯セララル、コト
 ハ毫モ意ニ介セザルノミナラス却テ著作作者ノ希望スル所ナルヘシ、故ニ偽作
 ニ對シ刑事ノ訴追ヲ爲スト否トハ著作權者ノ意思ニ放任スルコト公益上正
 當ナリ、恰カモ刑法ニ於テ誹毀ノ罪ヲ申告罪ト爲シタルト同一理由ニ基クナ
 リ、是レ各國ニ於テ偽作ニ關スル罪ヲ申告罪ト爲シタル所以ニシテ本法ニ於

テモ亦此ノ主義ヲ採用シタル所以ナリ、人格權ノ側ヨリ之ヲ見レハ此ノ説一應ノ理由ナキニアラスト雖財產權ノ側ヨリ之ヲ論スルトキハ其ノ理由ノ根據ヲ見出スコト能ハス、

本條但書ニ於テ申告罪ノ除外例ヲ設ケタルハ之ヲ申告罪ト爲スノ當ヲ得サルニ依ル、左ニ之ヲ説明セシ、

第三十八條ノ場合ニ於テ著作作者ノ死亡シタルトキ、第三十八條ノ場合ハ著作權ヲ承繼シタル者カ著作作者ノ同意ナクシテ其ノ著作物ヲ改竄シタル場合ニ於ル罰則ナリ、著作作者ノ生存間ハ著作作者ハ被害者タルカ故ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖著作作者ノ死亡後ニ於テハ被害者トシテ告訴ヲ爲ス者ナキヲ以テ此ノ場合ニハ之ヲ申告罪ト爲スコトヲ得ス、若シ此ノ場合ニモ尙ホ申告罪ト爲ストキハ結局犯罪者ヲ罰セスシテ止ムニ至ル是レ第三十八條ノ場合ヲ於テ著作作者ノ死亡シタルトキヲ除外シタル所以ナリ、
第四十條乃至第四十二條ノ場合、此ノ場合ハ全ク詐僞ニ等シキモノナレハ普

通犯罪ト同一ニ處スルヲ至當トス、之ヲ申告罪ト爲スノ理由ナシ、殊ニ第四十條及第四十一條ノ場合ノ如キハ現ニ生存セサル人ニ關スルコトアルヘキヲ以テ申告スル者ナキ場合モ生スヘシ、是レ是等ノ場合ヲ除外シタル所以ナリ
第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

(版第三十一條寫第十一條)

僞作ニ關スル犯罪ノ公訴ノ時効ヲ普通刑事ノ公訴ノ時効ヨリ短縮シタル理由ハ僞作ニ關スル犯罪ハ證據ノ湮滅シ易キニ因ル、歐米諸國ノ著作權法ニ於テ本條ノ如キ特別ノ規定ヲ設ケスシテ普通刑事ノ時効ト同一ニ爲スノ國モアレトモ獨乙匈牙利ノ如キハ本法ト同シク短縮主義ヲ採ル、我現行版權法ニ於テモ此ノ主義ヲ採用シテ本法ニ於テモ亦之ニ倣ヒタリ、

第四章 附則

第四十六條 本法施則ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ

本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法

施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

本條ハ新舊法ノ經過ノ規定ナリ、本法施行ノ日マテニ版權法ニ依リ未タ著作權(版權)ノ消滅セサルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ニ依リ保護ヲ享有スルモノトス、版權法ト著作權法トニ於テ第一ニ規定ノ異ルモノハ著作權保護ノ期間ナリ、版權法ニ於テハ版權ノ年限ハ著作權ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノ又ハ版權登録ノ月ヨリ三十五年ナリ、然ルニ著作權法ニ於テハ著作權ノ終身ニ三十年ヲ加ヘタルモノ或ハ著作物發行ノトキヨリ三十年ナリ、故ニ其ノ期間ハ概シテ版權法ノ期間ヨリ長シ而シテ其ノ期間ハ本法施行後ニ於テハ凡テ本法ニ依リ之ヲ計算スルモノトス、例ヘハ舊法ニ於テ著作權ノ死後既

ニ三年ヲ經過シ二年ヲ殘ス場合ニモ本法施行ノ日ヨリハ本法ノ適用ヲ受ケルヲ以テ更テニ延長シテ二十八年繼續スルコト、爲ル之ニ反シ著作權ノ死後ニ發行スル著作物並ニ官廳學校會社協會等ニ於テ發行スル著作物ハ舊法ニ於テハ版權登録ノ月ヨリ起算シ三十五年ナルモ新法ニ於テハ發行ノトキヨリ起算シ三十年ナルヲ以テ發行ノトキヨリ本法施行ノ日マテニ既ニ二十年ヲ經過セルモノハ本法施行後ニ於テハ十年ヲ殘スコト、ナルナリ、翻譯ニ關シテハ舊法ニ於テハ翻譯權ノ期間ハ版權保護ノ期間ト同一ナルヲ以テ版權ノ存セル間ハ何人モ其ノ著作物ヲ翻譯スルコトヲ得ザリシカ新法ニ於テハ翻譯權ノ期間ハ原著作物發行ノトキヨリ十年ナルヲ以テ舊法ニ依リ版權ヲ得タル著作物ト雖其ノ發行ノトキヨリ既ニ十年ヲ經過セルモノハ本法施行後ニ於テハ其ノ翻譯權ハ消滅シ何人モ自由ニ之ヲ翻譯スルコトヲ得ルニ至ル換言スレハ從來翻譯權ノ存シタル文書ニテモ本法施行後ニハ之ヲ失フコトノ結果ヲ生スルナリ、

演劇脚本及樂譜ノ著作者ハ本法施行ノ日ヨリ當然興行權ヲ取得ス、舊法ニ於テハ興行權ヲ得ントスルニハ特ニ其ノ登錄ヲ受ケ且其ノ脚本若ハ樂譜ニ興行權所有ノ文字ヲ記載スルコトヲ要セシモ新法ニ於テハ此ル方式ヲ要セスシテ當然興行權ヲ得ラル、ナリ、

本條ニ依リ本法ノ保護ヲ享有スルニハ本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物タルコトヲ要ス、故ニ本法施行ノ日マテニ版權ノ年限ヲ經過シタルモノハ勿論舊法ニ依リ版權ノ登錄ヲ受ケスシテ出版シタルモノハ既ニ版權消滅シタルヲ以テ本法ニ依リ保護ヲ享有スルコトヲ得サルナリ、未刊ノ著作物ハ舊法ニ依リ版權ノ未タ消滅セサルモノナルヲ以テ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス、

出版シタル圖書ハ舊法ニ依リ版權ノ保護ヲ受ケタルモ其ノ他ノ美術上ノ著作物例ヘハ彫刻模型等ハ舊法ニ依リ保護ヲ受ケス、換言スレハ版權法ニ於テ認めナル著作物ナリシモ新法ニ於テハ其ノ著作權ヲ認ムルニ至リシヲ以テ本

法施行ノ日ヨリハ本法ノ保護ヲ受クルナリ、故ニ從來ノ如ク著作者ノ許諾ナクシテ他人ノ繪畫彫刻模型等ヲ模作シタルトキハ僞作ト爲ルナリ、是等ノ著作物ニ關スル保護ハ本條ノ適用ニ非スシテ第一條ノ結果ナリ、本條ハ只舊法ニ於テ著作權ノ消滅セザルモノヲ規定スルニ過キサレハ舊法ニ於テ著作權ノナキモノハ著作權ノ消滅セザルモノト云フ中ニ包含セラレス、故ニ是等ノ著作物ハ本條ノ適用ヲ受ケスシテ本法第一條ニ依リ當然保護ヲ享有ス、而シテ其ノ著作物ハ本法施行前ニ著作シタルモノナルト否トナ問ハザルナリ、

第四十八條 本法施行前僞作ト認めラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ着手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

(條約第十四條議定書第四追加第二條ノ二)

本條並ニ次ノ二條ハ本法ノ溯及効ヲ制限シタルモノナリ、從來我國ノ版權法ハ外國人ノ版權ヲ認メサルノミナラス又其ノ版權保護ノ範圍モ狹小ニシテ只僅カニ文書圖書ノ版權ヲ認ムルニ過キスシテ彫刻模型等ノ如キ美術上ノ著作物ハ版權保護ノ目的物タラザリシナリ、從テ外國人ノ著作物ハ翻刻翻譯スルモ版權侵害ト爲ラス、又美術上ノ著作物ヲ複製スルコトモ敢テ差支ナカリシナリ、即チ外國書ノ翻刻翻譯並ニ繪畫、彫刻模型等ノ複製ハ所謂僞作ト認メラレザリシナリ、然ルニ新法ニ於テハ外國人ノ著作權ヲ認メ又美術上ノ著作物ノ著作權ヲ保護スルニ至リシヲ以テ將來ニ於テハ之ヲ複製シ及既ニ複製シタルモノヲ發賣頒布スルコトハ僞作ト爲ルナリ、加之同盟條約ニ於テハ特別條約若ハ內國法ニ別段ノ規定ナキ以上ハ我國カ同盟ニ加入スルノ際ニ於テ其ノ著作物ノ本國ニ於テ未ダ著作權ノ消滅セサル凡テノ著作物ニ條約ノ規定ヲ適用スルコトヲ明言セルカ故ニ條約第十四條、本法ニ溯及効ヲ制限スルノ規定ナキトキハ同盟國ニ於テ未ダ著作權ノ消滅セサル著作物ハ我國ニ

於テ之ヲ保護セサル可カラス、從テ從來ノ翻刻物並ニ翻譯物ハ僞作タルノ結果ヲ生シ同盟加入ノ日ヨリ即本年七月以降ニ於テハ最早其ノ翻刻書翻譯書ヲ發賣頒布スルコトヲ得サルニ至ル、此クテハ從來翻刻書翻譯書ノ出版ニ從事シタル者並ニ翻譯ヲ爲シタル者ノ不利益少カラサルヲ以テ本條ニ於テ溯及効ニ對スル制限ヲ設ケ是等ノ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノハ本法施行後ト雖之ヲ發賣頒布スルコトヲ得トセリ、又現ニ複製ニ着手セルモノハ半途ニシテ之ヲ止メシムルハ酷ナルヲ以テ之ヲ完成セテ發賣頒布スルコトヲ得ルトセリ、

以上ハ外國人ノ著作物ニ付テ之ヲ説明セシモ彫刻模型ノ如キ美術上ノ著作物ニ關シテモ亦同一ナリトス

本條ハ從來僞作ト認メラレサル行爲ヲ爲シタル者ヲ保護スルノ主旨ニ出テタルモノニシテ條約ニ於テモ內國法ヲ以テ此ノ制限ヲ規定スルノ自由ヲ認メザリ、條約議定書第四(然レトモ是レ唯溯及効ノ一時ノ制限タルニ過キス)

テ之ヲ以テ全然溯及効ノ例外ト爲シ永久ニ此ノ權利ヲ認ムルハ同盟條約ニ違反スルノミナラス新法ニ於テ廣ク著作者ヲ保護セントスルノ精神ト矛盾スルヲ以テ本條ノ規定ハ單ニ新法實施ノ際新舊法經過ニ關スル規定ト見テ可カラズ故ニ外國書ノ翻刻書翻譯書並ニ美術上ノ模製物ハ無制限ニ再版三版等ヲ以テ之ヲ發賣頒布スルコトヲ得ルニアラス本法實施ノ際現ニ存在スル翻刻書翻譯書ハ永久ニ之ヲ發賣頒布スルコトヲ得ルモ其ノ第一版ノ盡キタル後更ラニ之ヲ再版三版シテ發賣頒布スルハ本法施行後五年内タルコトヲ要ス是レ本條第二項ニ於テ明言スル所ナリ第二項ニ依レハ翻刻書翻譯書等ヲ複製シタル器械器具即チ鉛版石版等ノ現ニ存スルモノアルトキハ其ノ器械器具ハ本法施行後五年間之ヲ使用スルコトヲ得換言スレハ五年間ハ其ノ鉛版刻版等ヲ用ヒテ更ニ出版スルコト得ルナリ然レトモ其ノ器械器具ハ本法施行ノ際現ニ存スルモノタルコトヲ要ス既ニ廢棄シタルモノヲ新ニ製造シテ之ヲ使用スルハ本項ノ規定以外ニ屬ス故ニ例ヘハ印刷機械ノ取崩

シタルモノヲ更ラニ組直シ之ヲ使用スルカ如キハ本法ノ禁スル所ナリ從テ此ル方法ニ依リ出版シタルトキハ僞作タルヲ免カレサルナリ

本法施行ノ際現存スル複製物並ニ第二項ニ依リ現存スル器械器具ヲ用ヒテ再版三版シタルモノヲ發賣頒布スルハ永久ニ之ヲ爲シ得ルト雖本法施行五年ヲ經過シタルトキハ更ラニ之ヲ出版スルコトヲ得サルヲ以テ其ノ以後ニ於テ其ノ複製物ヲ賣リ盡シタルトキハ最早之ヲ出版シ發賣頒布スルコトヲ得サルモノトス

複製ニ着手シタルモノヲ完成スルノ期限ハ別ニ定メナキヲ以テ何時マテモ完成スルモ差支ナキカ如シト雖其ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ヲ使用スルハ五年内ニ限ルヲ以テ少シモ五年前ニ之ヲ完成發行スルヲ要ス是レ次條ノ翻譯ノ場合ト異ル所ナリ

本條ノ規定ハ白耳義及獨乙ノ著作權法ノ施行法ニ於テモ見ル所ニシテ只其ノ年限ニ長短ノ差アルノミ白耳義ニ於テハ器械器具ヲ使用スル期間ハ二ケ

年ナリ獨乙ニ於テハ四年ナリ、我國ニ於テハ特別ノ必要アルヲ以テ之ヲ五年ト爲シタリ、

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ着手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレザリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

本條ハ特ニ翻譯ニ關スル特別ノ經過ヲ規定シタルモノニシテ其ノ主旨ハ全ク前條ニ同シ只前條ト本條トニ於テ異ル所ハ左ノ二點ニ在テ存ス、

(一) 前條ノ場合ニハ複製ニ着手シタルモノハ少クモ五年前ニ之ヲ完成シテ發行スルコトヲ要スルモ翻譯物ニ在テハ其ノ期限ハ七年ナリ、此ノ如ク前條ニ比シ二ヶ年之ヲ延長セタルハ翻譯ハ翻刻トハ異リテ多クノ時日ヲ要スルモノニテシテ殊ニ大ナル著作物ノ翻譯ハ五年内ニ完成スルハ實ニ困

難ナルヲ以テナリ

(二) 前條ノ場合ニハ其ノ複製物ヲ再版又ハ三版ニ付スルニハ其ノ器械器具ノ現存スル場合ニ限ル、其ノ器械器具ニシテ既ニ廢棄シタルトキハ新ニ之ヲ製造シ以テ再版又ハ三版ニ付スルコトヲ得ス、然ルニ本條ノ場合ニハ此ル制限ナシ器械器具ノ存スルト否トニ係ラス五年前ハ之ヲ複製スルコトヲ得ルナリ、又五年ノ起算點ハ前條ノ場合ニハ本條施行ノ日ヨリナルモノ本條ノ場合ニハ翻譯物發行ノ日ヨリ起算ス、蓋シ翻譯ハ翻刻ニ比スレハ多クノ勞力ト費用トヲ要スルモノナレハ特ニ之ヲ厚ク保護スルコト必要ナレハナリ、

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ着手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレザリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

本條ハ演劇脚本並ニ樂譜ノ興行權ニ關スル經過規定ナリ、從來興行權ヲ有セ

ナル脚本、樂譜、殊ニ外國ノ脚本、樂譜ニシテ本法施行前ニ興行シタルモノ又ハ既ニ興行セントシテ之ニ着手シタルモノハ本法施行後五年間ハ仍之ヲ興行スルコトヲ得ルナリ、蓋シ本法施行前ニ是等ノ脚本、樂譜ヲ興行シタルハ僞作ト爲ラサル行爲ニシテ其ノ當時ニ於テハ適法タリシナリ然ルニ新法ニ於テハ外國人ノ著作シタル脚本、樂譜ニモ興行權ヲ與ヘ之ヲ保護スルヲ以テ本條規定ナキトキハ本法施行後ハ最早其ノ脚本、樂譜ヲ興行スルコトヲ得サルニ至ル、然レトモ從來適法ノ行爲トシテ興行シタルモノ若ハ興行ニ着手シタルモノニ本法施行後直ニ興行權ヲ失ハシムルハ酷ニ失スルヲ以テ從來適法ニ興行シタルモノニ限り本法施行後五年間ハ特ニ興行權ヲ繼續セシメタルナリ。

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

前三條ノ場合ニ於テ本法施行後ニ於テ複製、翻譯、興行ノ權ヲ有スルコトハ其ノ複製、翻譯、興行カ本法施行前ニ於テ爲サレタルコト若ハ之ニ着手サレタルコト並ニ其ノ當時ニ於テ僞作ト認メラレナリシコトヲ要ス、從テ是等ノ事項ヲ證明スルコト必要ナリ、

本條ハ此ノ證明ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定メ、其ノ手續ヲ履行スルコト非サレハ發賣頒布又ハ興行スルコトヲ得サルコトヲ規定シタルナリ、而シテ其ノ手續ハ如何ニ定メラル、ヤハ命令ノ發布セラレタル後ニ非サレハ之ヲ知ルコトヲ得スト雖之ヲ外國ノ例ニ徵スルニ著作又ハ發行者ハ其ノ複製物、翻譯物等ノ本法施行前ニ複製又ハ翻譯シタルコト又ハ之ニ着手シタルコト並ニ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スル事實ヲ證明スルトキハ行政官廳ハ其ノ複製物若ハ翻譯物ニ檢印ヲ爲シ其ノ檢印アルモノニ限り之ヲ發賣頒布セシメ、又ハ其ノ檢印ヲ經タル器械器具ニ限り使用セシムルノ規定アリ、此ノ如キ手續ナキトキハ適法ノ複製物又ハ翻譯物ナリヤ否ヤヲ證スルコト

ト能ハスシテ爲メニ著作者ノ權利ヲ保護セントスルノ目的ヲ達スルコトヲ得ナルニ至レハナリ、我國ニ於テモ命令ヲ以テ定ムヘキ手續ハ必ラス之ト類似ノモノナルヘシト信ス、

第五十二條 本法ハ建築物ニ適用セス

廣ク著作物ト云ヘハ其中ニ建築物ヲ包含スルヤ勿論ナリ、從テ特別ノ規定ナキ以上ハ美術上ノ著作物中ニ美術的建築物(例ヘハ京都ノ大極殿ノ如キ日光ノ建物ノ如キ是ナリ)ヲ包含スルナリ、歐洲ノ著作權法ニ於テハ明文ヲ以テ美術上ノ建築物ヲ保護スル國アリ、例ヘハルクセムブルグノ如キ是レナリ、或ハ美術上ノ著作物中ニ解釋上之ヲ包含セシムルモノアリ、例ヘハ白耳義、佛國、西班牙ノ如キ是レナリ、或ハ建築ニ關スル圖書模型ノミヲ保護シ建築物自身ニハ保護ヲ與ヘサルモノアリ、例ヘハ獨乙、英國ノ如キ是レナリ、此ノ如ク歐洲諸國ノ法制ハ區々ニシテ一定セス、同盟條約ニ於テハ建築ニ關スル圖書模型ハ之ヲ保護スヘキ著作物中ニ列舉スト雖建築物自身ハ之ヲ明言セス追加規

程第二條ニ於テ内國法ニ於テ建築物ニ保護ヲ與フル國ハ同盟國ノ建築物ニモ同一ノ保護ヲ與フヘキ旨ヲ規定セリ、故ニ建築物自身ニ對シテハ必ラスシテ條約ニヨリテ之ヲ保護スルコトヲ強要セラレサルナリ、我國ニ於テハ從來建築物ヲ保護セル慣習ナキノミナラス建築物ヲ模擬シテ建築家ノ利益ヲ害シタルノ實例ナク又今日ニ於テ之ヲ保護セサル可カラサル必要ナク却テ外國ノ建築物ヲ利用スルノ必要アルヲ以テ本法ハ建築物ニ適用セザルコト、セリ、然レトモ建築物ノ圖書模型ニシテ美術上ノ圖書模型ト看做サルヘキモノハ第一條ノ範圍ニ屬スルヤ勿論ナリ、

著作權法要義終

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖畫彫刻模型寫真其他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登録ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公術學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セザルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セザルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

一 法律命令及官公文書

二 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事

三 公開セル裁判所議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ノ登録ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作ノ共有ニ屬ス

各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ
興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スル
コトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行
ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發
行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作者ノ意ニ反シテ其ノ
氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全
部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十五條 著作權者ハ著作權ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權者ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ僞作ニ對ス

ル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

著作權ノ讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗ス
ルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ
差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在
ラス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作者ノ氏名稱
號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

第十九條 原著作物ニ訓點傍訓句讀批評註解附錄圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正
増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト

看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

六

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著物ヲ翻譯スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

第二十二條 原著物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著物ノ著作權ト同

一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始

メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

八

第二章 偽作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ僞作ト看做サス
第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ抜

萃蒐輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ

充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又

ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ輸入スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損害ヲ及ホシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス。無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス。

未ダ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス。

著作者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス。

第三十六條 僞作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ僞作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得。

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス。

第三章 罰則

第三十七條 僞作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ僞作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第四十二條 虛偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及専ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者印刷者發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四章 附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行コ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條 本法ハ建築物ニ適用セス

著作權保護ニ關スル列國同盟條約 千八百八十六年九月九日

第一條 締盟諸國ハ文學的及美術的著作物ニ關シ著作權ノ權利ヲ保護セシカ爲
メ同盟ヲ組織ス

第二條 同盟國ノ一ニ屬スル著作權者又ハ其ノ承繼人ハ同盟國ノ一ニ於テ公ニシ
タル著作物若ハ未ダ公ニセサル著作物ニ關シ他國ニ於テ其ノ國法カ内國人民
ニ現今附與シ若ハ將來附與スヘキ權利ヲ享有ス
是等ノ權利ヲ享有スルニハ著作物ノ本國法ニ規定セル條件及方式ヲ履行スル
コトヲ要ス、他國ニ於ル是等ノ權利ノ享有ハ其ノ本國ニ於テ附與スル保護ノ期
間ヲ超過スルコトヲ得ス
著作物ヲ始メテ公ニシタル國ヲ以テ其ノ著作物ノ本國トス若シ數個ノ同盟國
ニ於テ同時ニ公ニシタルトキハ是等ノ國法ノ附與スル保護ノ期間最モ短キ國
ヲ以テ本國ト看做ス
未ダ公ニセサル著作物ニ關シテハ其ノ著作權ノ屬スル國ヲ以テ其ノ著作物ノ

本國ト看做ス

第三條 本條約ノ規定ハ同盟國ノ一ニ屬セサル著作家ノ文學的又ハ美術的著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ發行シタル場合ニ於テ其ノ發行者ニ對シ之ヲ適用ス

第四條 文學的及美術的著作物ナル語ハ書籍小冊子其ノ他各種ノ文書演劇脚本樂入演劇脚本文句入り又ハ文句ナシノ樂譜各種ノ圖書彫刻石版圖解地圖圖形及地理地文風土記建築其ノ他一般學術ニ關スル圖書模型等苟モ印刷又ハ複製ノ方法ヲ以テ公ニスルコトヲ得ヘキ文學科學若ハ美術ノ範圍ニ屬スル一切ノ製作物ヲ包含ス

第五條 同盟國ノ一ニ屬スル著作家及其ノ承繼人ハ同盟國ノ一ニ於テ原著作物ヲ公ニシタル時ヨリ十ヶ年間他國ニ於テ其ノ著作物ヲ翻譯シ又ハ其ノ翻譯ヲ許與スル特權ヲ享有ス
一部分ツ、ヲ漸次ニ公ニスル著作物ニ關シテハ十ヶ年ノ期間ハ原著作物ノ最終部分ヲ公ニシタル日ヨリ起算ス

二

數度ニ公ニスル數卷ヨリ成ル著作物並ニ文學又ハ學術ノ協會若ハ一人ノ公ニスル報告書類又ハ小冊子ニ關シテハ十ヶ年ノ期間計算上各卷各冊子各自特別ノ著作物ト看做ス

本條ニ規定セル各場合ニ於テ保護ノ期間ヲ計算スルニハ著作物ヲ公ニシタル年ノ十二月三十一日ヲ以テ其ノ發行ノ日ト看做ス

第六條 適法ノ翻譯ハ新著作物トシテ保護セラルヘシ故ニ同盟國ニ於テ其ノ許諾ナキ複製ニ關シ第二條及第三條ニ規定セル保護ヲ享有ス

翻譯ノ權利既ニ公有ニ屬シタル著作物ニ關シテハ翻譯者ハ他人カ原著作物ヲ翻譯スルコトヲ妨シルヲ得サルモノトス

第七條 同盟國ノ一ニ於テ公ニシタル新聞紙又ハ定期刊行物ノ記事ハ著作家若ハ發行者カ明カニ之ヲ禁止スルニ非サレハ他國ニ於テ原文ノ儘若ハ之ヲ翻譯シテ複製スルコトヲ得ヘシ但定期刊行物ニ關シテハ每號ノ始メニ於テ一般ニ禁止スルヲ以テ足レリトス

附 錄

三

此ノ禁止ハ如何ナル場合ニ於テモ政事上ノ論說若ハ時事ノ記事及雜報ノ複製ニ之ヲ適用スルコトヲ得ス

第八條 教科ノ用ニ供シ又ハ科學的ノ性質ヲ有スル著作物發行ノ爲メ若ハ節用編輯ノ爲メ文學的若ハ美術的著作物ヲ適法ニ採萃スルノ權能ニ關シテハ同盟國ノ各國法及各國間ニ現存シ又ハ將來締結スルキ特別約定ニ從フヘシ

第九條 第二條ノ規定ハ公ニセルト否トヲ問ハス演劇脚本又ハ樂入演劇脚本ノ興行ニ之ヲ適用ス

演劇脚本又ハ樂入演劇脚本ノ著作若ハ其ノ承繼人ハ其ノ翻譯特權ノ繼續スル期間内其ノ翻譯物ノ許諾ナキ興行ニ對シテモ同一ニ保護セラル、モノトス
第二條ノ規定ハ未ダ公ニセサル樂譜又ハ其ノ表紙若ハ冒頭ニ於テ其ノ演奏ヲ禁止スル旨ヲ明示シテ公ニセタル樂譜ノ演奏ニモ亦之ヲ適用ス

第十條 翻案變曲等ノ如キ種々ノ名稱ヲ以テスル文學的若ハ美術的著作物ノ許諾ナキ間接ノ剽竊ハ同一ノ形體若ハ其ノ他ノ形體ニ於テ單ニ主要ナラナル變

更増補又ハ節約ヲ加ヘタル複製ニ過キヌシテ特ニ新著作物タル性質ヲ具備セナル場合ニ於テハ本條約ヲ適用スヘキ不法複製ノ中ニ包含セラルヘキモノトス

本條ノ適用ニ關シ同盟國ノ裁判所ハ各其ノ國法ノ規定ヲ參酌シテ之ニ從フヘシ

第十一條 本條約ニ依リテ保護セラレタル著作若ハ反對ノ證據ナキ限りハ真正ノ著作若ト看做サレ從テ同盟國ノ裁判所ニ於テ僞作ニ對シテ訴追ヲ爲スコトヲ許容セラル、カ爲メニハ自己ノ氏名ヲ普通ノ方法ニ依リ其ノ著作物ノ上ニ記載スルヲ以テ足レリトス

無名又ハ變名著作物ニ關シテハ其ノ著作物ニ記名シタル發行者ハ著作若ト屬スル權利ヲ保全スルノ權能ヲ有ス、發行者ハ其ノ他ノ證明ヲ要セスシテ無名又ハ變名著作若ト承繼人ト看做ナルヘキモノトス

然レトモ裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ第二條ノ意義ニ於テ著作物ノ本國法

ニ規定セル方式ヲ履行シタルコトヲ證明セシカ爲メニ所轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十二條 總テノ僞作物ハ原著作物カ法律上ノ保護ヲ享有スル同盟國內ニ輸入セラレタルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

差押ハ各國内國法ニ從テ之ヲ行フモノトス

第十三條 本條約ノ規定ハ同盟各國ノ政府カ法律ノ規定又ハ警察處分ニ依リ所轄官廳ヲシテ執行セシムル著作物ノ發賣頒布與行、公示ヲ許可シ監督シ禁止スルノ權利ニ何等ノ影響ヲモ及ホサハルモノトス

第十四條 本條約ハ共同一致ヲ以テ別ニ定ムヘキ制限及條件ノ外本條約實施ノ當時其ノ本國ニ於テ未ダ公有ニ屬セサル一切ノ著作物ニ適用ス

第十五條 同盟國ノ政府ハ同盟ノ許與セル權利ヨリ廣大ナル權利ヲ著作家又ハ其ノ承繼人ニ附與スルカ若ハ本條約ノ規定ニ牴觸セサル以上ハ各國相互間ニ特別條約ヲ締結スルノ權ヲ留保スルモノトス

第十六條 國際事務所ハ文學的及美術的著作物保護國際同盟局ノ名稱ヲ以テ之ヲ設立ス

同盟各國ノ政府ニテ其ノ費用ヲ分擔スヘキ該本局ハ瑞西聯邦最高政府ノ下ニ設置シ其ノ監督ノ下ニ事務ヲ行フモノトス其ノ職制ハ同盟國ノ共同一致ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 本條約ハ同盟制度ヲ益完成スヘキ性質ノ變更ヲ加フルカ爲メ修正ニ附スルコトアルヘシ

此ノ種ノ問題並ニ其ノ他同盟ノ發達ヲ益スヘキ問題ハ同盟國ニ於テ順次開設スヘキ各國委員ノ會議ニテ之ヲ審議ス

本條約ハ同盟ヲ組成スル列國一致ノ合意ヲ以テスルニ非スンハ同盟ニ對シテ其ノ効ナキモノトス

第十八條 本條約ニ調印セスト雖モ其ノ内國法ヲ以テ本條約ノ目的トセル權利ノ保護ヲ擔保スル國ハ其ノ請求ニ依リ本條約ニ加入スルコトヲ許容セラルヘ

此ノ加入ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ通知スヘシ瑞西聯邦政府ハ之ヲ他ノ同盟諸國ニ通知スヘシ

此ノ加入ハ當然本條約ニ規定セル一切ノ條款ヲ承認シ且一切ノ利益ヲ取得スルモノトス

第十九條 本條約ニ加入シタル諸國ハ何時ニテモ其ノ殖民地又ハ屬領地ノ爲メ之ニ加入スヘキ權利ヲ有ス

右殖民地ノ加入ハ總殖民地又ハ屬領地ヲ加入セシムヘキ一般ノ宣言ニ依リ又ハ特ニ加入スヘキ部分ヲ列擧シ若ハ單ニ其ノ加入セサル部分ヲ指摘シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二十條 本條約ハ批准ノ交換後三ヶ月ヲ經テ實施ス其ノ實施ノ期間ハ無期限ニシテ脱盟ノ通知後一ケ年ヲ經過スルニ依テ終了ス

右脱盟ハ加盟ノ請求ヲ受ツル職責アル政府ニ宛テ之ヲ通知スヘシ此ノ脱盟ハ

之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ其ノ効チ有シ其ノ他ノ同盟國ニ對シテハ本條約ハ猶其ノ効力ヲ存續ス

第二十一條 本條約ハ遲クトモ一ケ年以内ニ之ヲ批准シ且其ノ批准ハベルヌ府ニ於テ之ヲ交換スヘシ

追加條款

本日ノ日附ヲ以テ締結シタル條約ハ同盟ニ依リテ附與セル權利ヨリ廣大ナル權利ヲ著作又ハ其ノ承繼人ニ附與スルカ若ハ本條約ノ規定ニ抵觸セサル以上ハ同盟各國相互間ニ現存スル諸條約ノ繼續ニ何等ノ妨チ及サ、ルモノトス

終局議定書

第一 第四條ニ付

寫眞的著作物ニ美術的著作物ノ性質ヲ拒否セサル同盟諸國ハ本日ノ日附ヲ以テ締結シタル條約ノ實施期日ヨリ寫眞的著作物ニモ亦本條約ノ利益ヲ附與スヘキコトヲ約定ス然レトモ是等ノ諸國ハ相互間ニ現存シ又ハ將來締結スヘキ

國際約定ニ依ルノ外ハ唯其ノ內國法ノ許與スル範圍内ニ於テノミ是等ノ著作物ノ著作者ヲ保護ス可キモノトス
保護セラレタル美術的著作物ヲ許可ヲ得テ複製シタル寫眞ハ同盟國ニ於テ權利者間ノ契約ノ制限ニ從ヒ原著物ノ主タル複製權ト同一ノ期間内本條約ノ意義ニ於ケル法律上ノ保護ヲ享有ス

第二 第九條ニ付

樂入演劇脚本中ニ舞譜ヲ包含セシムル同盟國ハ此ノ著作物ニ對シ本日ノ日附ヲ以テ締結シタル條約ノ規定セル利益ヲ許與ス可キコトヲ明ニ約定ス

其ノ他前記ノ適用ニ關シ生ス可キ爭議ハ各國裁判所ノ決定ニ讓ル

第三 私有ニ屬スル樂曲ノ調子ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル器具ノ製作及販賣ハ僞作ノ事實ヲ構成スルモノニ非ス

第四 條約第十四條ニ豫見セル共同一致ハ左ノ如ク決定ス

條約實施ノ當時未ダ公有ニ屬セサル著作物ニ對スル本條約ノ適用ハ各國相互

間ニ現存シ若ハ將來締結ス可キ特別條約ノ條款ニ從ヒ決ス可キモノトス

同盟國間ニ此ル條約存在セサル時ハ各場合ニ從ヒ各自ノ內國法ヲ以テ第十四條ノ原則ノ適用ニ關スル體様ヲ定ム可シ

第五 條約第十六條ニ豫見セル國際同盟局ノ組織ハ瑞西聯邦政府ノ制定スル規則ニ從ヒ之ヲ定ム可キモノトス

國際同盟局ノ公務上ノ國語ハ佛蘭西語タル可シ

國際同盟局ハ文學的及美術的著作物ノ著作權保護ニ關スル各種ノ材料ヲ蒐集編纂シテ之ヲ發行ス可キモノトス、國際同盟局ハ同盟國ノ共通利益ヲ講究シ各國政府ノ寄送セル書類ヲ參考トシテ同盟ノ目的ニ關スル事項ニ付キ佛語ヲ以テスル定期雜誌ヲ發行ス可キモノトス、同盟國政府ハ經驗上必要ト認ムル場合ニ於テ各國一致ノ合意ヲ以テ國際同盟局ヲシテ數個ノ國語ヲ以テ書籍ヲ發行セシムルノ權利ヲ留保ス

國際同盟局ハ常ニ其ノ請求ニ應ジ文學的及美術的著作物ノ保護ニ關シ同盟國

ノ必要ナリトスル事項ニ付キ指示ヲ與フ可キモノトス
各國委員ノ會議ヲ開設ス可キ同盟國ノ政府ハ國際同盟局ト共ニ該委員會ノ事
務ヲ準備ス可シ

國際同盟局長ハ委員會ニ出席シ議事ニ參與ス可シ但採決ノ數ニ加ハラス、國際
同盟局長ハ管理ニ屬スル事項ノ年報ヲ作製シ同盟各國ニ通報ス可シ

國際同盟局ノ費用ハ各締盟國ノ共同シテ負擔ス可キモノトス、新ナル議決アル
迄ハ年額六萬フランヲ超過スルコトヲ得ス、此ノ年額ハ必要ナル場合ニ於テハ
第十七條ニ豫見セル委員會ノ單純決議ニ依リ増額セラル、モノトス

此ノ費用ノ總額ニ對スル各國負擔部分ヲ定メンカ爲メニ締盟國及其ノ後同盟
ニ加入スル國ヲ六級ニ區別シ單位數ノ割合ニ應シ之ヲ負擔スヘキモノトス即
チ

- 第一級 二十五單位
- 第二級 二十單位

第三級 十五單位

第四級 十單位

第五級 五單位

第六級 三單位

各級ニ屬スル國數ヲ以テ是等ノ係數ニ乘シ其ノ積ヲ總計シタルモノヲ以テ總
費用額ヲ除シ其ノ商ヲ以テ費用ノ單位額トス

各國ハ加入ト同時ニ前記階級中ノ何レニ屬ス可キヤヲ告知ス可シ

瑞西政府ハ同盟局ノ豫算ヲ調製シ費用ヲ監督シ必要ナル前金ヲ徵收シ決算年
報ヲ作製シ他ノ凡テノ政府ニ通告ス

第六 次回ノ同盟委員會ハ本條約實施ノ日ヨリ四年乃至六年ノ期間内ニ於テ(巴
里ニ於テ之ヲ開設ス可キモノトス

佛蘭西政府ハ同盟局ノ意見ヲ聞キタル後此ノ期間内ニ於テ開設ノ日ヲ定ム可

第七 第二十一條ニ豫見シタル批准ノ交換ニ關シ各締盟國ハ他ノ締盟國ノ提出セル書類ト共ニ瑞西聯邦政府ノ發行スル公報中ニ掲載ス可キ書類一通ヲ提出ス可キモノトス

各締盟國ハ之ニ對シ本條約ニ關與シタル全權委員ノ署名シタル批准交換覺書ノ謄本ヲ得ルモノトス

本日ノ日附ヲ以テ締結シタル條約ト共ニ批准セラル可キ本條約議定書ハ該條約ノ一部ヲ組成スルモノトシ該條約ト同一ノ効力効果及期間ヲ有ス

文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル列國同盟條約 追加規程

第一條

千八百八十六年九月九日付列國條約左ノ如ク修正ス

第一 第二條第一項左ノ通り改正ス

同盟國ノ一ニ屬スル著作人又ハ其ノ承繼人ハ未ダ公ニセサル著作物若ハ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシタル著作物ニ關シ他國ニ於テ其ノ國法カ内國人民ニ現今附與シ若ハ將來附與ス可キ權利ヲ享有ス

此ノ他第五項ヲ加フ

著作人ノ死後公ニシタル著作物モ亦保護セサル可キ著作物ニ屬ス

第二 第三條左ノ通り改正ス

同盟國ノ一ニ屬セサル著作人ニシテ其ノ文學的又ハ美術的著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシ若ハ公ニセシメタル場合ニ於テハ其ノ著作物ハ一ベ

ル又條約並ニ本追加規程ノ附與スル保護ヲ享有ス

第三 第五條第一項左ノ通り改正ス

同盟國ノ一ニ屬スル著作家又ハ其ノ承繼人ハ他國ニ於テ原著作物ニ關スル權利ノ繼續期間中其ノ著作作物ヲ翻譯シ若ハ其ノ翻譯ヲ許與スル特權ヲ享有ス然レトモ原著作物第一發行ノ日ヨリ起算シ十箇年內ニ同盟國ノ一ニ於テ其ノ保護ヲ請求セントスル國語ノ翻譯ヲ公ニシ若ハ公ニセシメテ其ノ權利ヲ使用セサルトキハ翻譯ノ特權ハ消滅スルモノトス

第四 第七條左ノ通り改正ス

同盟國ノ一ニ於ル新聞紙又ハ定期刊行物ニ於テ公ニシタル「ローマンス、フヒー、ト」(小説ヲ含ム)ハ著作家又ハ其ノ承繼人ノ許諾ナクシテ他國ニ於テ原文ノ儘若ハ翻譯シテ複製スルコトヲ得ス
其ノ他ノ記事ニ付テハ著作家又ハ發行者カ新聞紙又ハ定期刊行物中見易キ場所ニ於テ複製ヲ禁スル旨ヲ明記シタルトキ亦同シ定期刊行物ノ場合ニ於テ

ハ每號ノ始メニ於テ一般ニ禁止スルヲ以テ足レリトス

複製ヲ禁セサル記事ハ其ノ出所ヲ明記シテ複製スルコトヲ得

此ノ禁止ハ如何ナル場合ニ於テモ政事上ノ論說時事ノ記事雜報ニ之ヲ適用スルコトヲ得ス

第五 第十二條左ノ通り改正ス

總テ偽作物ハ原著作物カ法律上ノ保護ヲ享有スル同盟國所轄官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

差押ハ各國內國法ニ從テ之ヲ行フモノトス

第六 第二十條第二項左ノ通り改正ス

右脱盟ハ瑞西聯邦政府ニ宛テ之ヲ通知ス可シ此ノ脱盟ハ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效ヲ有シ其ノ他ノ同盟國ニ對シテハ本條約ハ猶其ノ效力ヲ存續ス

第二條

千八百八十六年九月九日付條約ニ附加セル終局議定書左ノ通り修正ス

四

一 第一本號左ノ通り改正ス

條約第四條ノ條項ニ付キ左ノ如ク約定ス

(イ) 建築意匠ノミナラス建築物自身ニ對シ保護ヲ與フル同盟國ニ於テハ是等ノ著作物ハベルヌ條約並ニ本追加規程ノ附與スル利益ヲ享有ス
(ロ) 寫眞的著作物及之ト類似ノ方法ヲ以テ製作シタル著作物ハ各國法ノ許ス範圍内ニ於テ其ノ國法カ同種ノ内國製作物ニ附與スル保護ト同一ノ程度ニ於テ此ノ條約ノ利益ヲ享有ス

保護セラレタル美術的著作物ヲ許可テ得テ複製シタル寫眞ハ同盟國ニ於テ權利者間ノ契約ノ制限ニ從ヒ原著物ノ主タル複製權ト同一ノ期間内ベルヌ條約及本追加規程ノ意義ニ於ル法律上ノ保護ヲ享有ス

二 第四本號左ノ通り改正ス

條約第十四條ニ豫見セル共同一致ハ左ノ如ク決定ス

此ノ條約實施ノ當時其ノ本國ニ於テ未ダ公有ニ屬セサル著作物ニ對スル「ベルヌ」條約及本追加規程ノ適用ハ各國相互間ニ現存シ若ハ將來締結ス可キ特別條約ノ約款ニ從テ決ス可キモノトス
同盟國間ニ此ル條約存在セサル時ハ各場合ニ從ヒ各自ノ内國法ヲ以テ第十四條ノ原則ノ適用ニ關スル體様ヲ定ムヘシ「ベルヌ」條約第十四條及終局議定書本號ノ規定ハ本追加規程ニ依リ承認セラレタル翻譯權ニモ亦等シ之ヲ適用ス

前記經過規定ハ新ニ同盟ニ加入セル國アル場合ニモ猶之ヲ適用ス

第三條

同盟國ニシテ本追加規程ニ關與セサル諸國ハ何時ニテモ請求ニ依リ加入スルコトヲ得千八百八十六年九月九日付條約ニ其ノ後加入セントスル國ニ對シテモ亦同シ本追加規程ニ加入セント欲スルモノハ瑞西聯邦政府ニ宛テ書面ヲ以テ告知スルヲ以テ足レリトス然ルトキハ該政府ハ其ノ加入ノ旨ヲ他

附錄

五

ノ政府ニ告知ス可シ

第四條

本追加規程ハ千八百八十六年九月九日付條約ト同一ノ效力及期間ヲ有ス
批准ハ此ノ條約ノ採用シタル形式ニ從ヒ巴里ニ於テ交換ス可シ批准ハ可成
速ニ之ヲ爲シ遲クモ一年以内ニ於テ之ヲ爲ス可シ
本條約ハ批准交換後三ヶ月ニシテ批准セル各國間ニ其ノ效ヲ生ス

千八百八十六年九月九日ベルヌ條約及千八百九十六
年五月四日巴里ニ於テ調印シタル追加規程ニ關スル
解釋的宣言書

第一條約第二條第二項ニ付キ

本條約ノ附與スル保護ハ著作物ノ本國法ノ規定セル條件及方式ヲ履行スルノ
ミニテ享有ス修正終局議定書口號第一項ニ規定セル寫眞的著作物ノ保護ニ關
シテモ亦同シ

第二條ニシタル著作物ニ付キ

公ニシタル著作物トハ同盟國ノ一ニ於テ發行シタル著作物ヲ意味ス故ニ演劇
脚本又ハ樂入演劇脚本ノ興行、音樂的著作物ノ演奏、美術的著作物ノ展覽ハ該條
約ノ意義ニ於ル公ニスルモノニ非サルモノトス
第三 小説ヲ演劇脚本ニ若ハ演劇脚本ヲ小説ニ變形スルハ第十條ノ約款中ニ含
マル、モノトス

同盟國ニシテ本宣言書ニ關與セサル諸國ハ何時ニテモ請求ニ依リ加入スルコト
ヲ得、千八百八十六年九月九日付條約若ハ該條約及千八百九十六年五月四日付追
加規程ニ新ニ加入セントスル國ニ對シテモ亦同シ、本宣言書ニ加入スルノ效力ヲ
生セシメンカ爲メニハ瑞西聯邦政府ニ宛テ書面ヲ以テ告知ス可シ然ルトキハ該
政府ハ新ニ加入セル旨ヲ他ノ政府ニ告知ス可シ、本宣言書ハ其ノ關係スル條約ト
同一ノ效力及期間ヲ有ス

二

朕著作權法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十二年六月二十七日

內務大臣 侯爵西郷從道

勅令第三百十三號

著作權法ハ明治三十二年七月十五日ヨリ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ著作權法施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十二年六月二十七日

内務大臣 侯爵西郷從道

勅令第三百十四號

著作權法施行法

- 第一條 著作權法第四十八條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者及同
條第二項ニ依リ其ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ヲ使用セントスル者ハ其ノ
複製物及器械器具ニ明治三十二年九月三十日迄ニ檢印ヲ申請スヘシ
複製ニ著手シタル場合ニハ著手ノ事實ヲ前項期間内ニ届出テ複製物發行前其
ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ
前項複製物ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ハ同時ニ檢印ヲ申請スヘシ
第二條 著作權法第四十九條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者ハ同
法施行前ニ翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シタルコトヲ明治三十二年九月三十日迄ニ
届出ツヘシ
前項ノ複製物ヲ著作權法第四十九條第二項ノ期間滿了後ニ發賣頒布セントス
ル者ハ其ノ期間滿了後二箇月以内ニ其ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ
第三條 著作權法第五十條ニ依リ興行ヲ爲サントスル者ハ同法施行前既ニ興行

著作權法施行法

シ又ハ興行ニ著手シタルコトヲ明治三十二年九月三十日迄ニ届出ツヘシ

第四條 検印ヲ受ケタル器械器具ヲ用キテ複製シタル複製物ヲ著作権法第四十八條第二項ノ期間満了後ニ發賣頒布セントスル者ハ其ノ期間満了後二箇月以

内ニ其ノ複製物ニ検印ヲ申請スヘシ

第五條 他ニ移轉シ難キ器械器具ニ検印ヲ申請スルトキハ検印ヲ受ケル爲費用

ヲ前納シテ官吏ノ出張ヲ請求スルコトヲ得

第六條 検印ノ申請及届出ハ管轄地方廳ニ之ヲ爲スヘシ

第七條 地方廳ハ検印ヲ爲シ又ハ届出ヲ受ケ其ノ目錄簿ヲ備置シヘシ

第八條 器械器具ニシテ検印ヲ爲シ難キモノナルトキハ検印ニ代フルノ方法ヲ

用サルコトヲ得此ノ方法ニ關シテハ總テ本令中検印ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ虚偽ニ依リ検印ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以

下ノ罰金ニ處ス

虚偽ノ届出又ハ虚偽ニ依リテ受ケタル検印ハ届出又ハ検印ノ初ニ遡リテ效力

ヲ失フ

第十條 地方廳ハ届出ヲ受ケ若ハ検印ヲ爲シタルトキ又ハ届出若ハ検印ノ無効

トナリタルトキハ官報ヲ以テ告示スヘシ

內務省令第二十六號

明治三十二年勅令第三百十四號檢印申請及届出等ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

明治三十二年六月二十八日

內務大臣 侯爵西鄉從道

六

第一條 明治三十二年勅令第三百十四號第一條ニ依リ檢印ノ申請又ハ届出ヲ爲サントスル者ハ第一書式ニ依リ同令第二條ニ依リ檢印ノ申請又ハ届出ヲ爲サントスル者ハ第二書式ニ依リ同令第三條ニ依リ届出ヲ爲サントスル者ハ第三書式ニ依リ同令第四條ニ依リ檢印ノ申請ヲ爲サントスル者ハ第四書式ニ依ル

第二條 同令第七條ノ目錄簿ハ第一雛形ニ依リ檢印ハ第二雛形ニ依ルヘシ

第三條 地方廳ニ於テ同令第七條ノ手續ヲ爲シタルトキハ十日毎ニ內務省ニ報

告スヘシ

但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督府ヲ經由スヘシ

第四條 同令第五條ニ依リ申請者ノ負擔スヘキ官吏出張ノ費用ハ明治三十年勅

令第三百三十三號內國旅費規則ニ依ル

但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督府旅費規則ニ依ル

第五條 何人ト雖モ目錄簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲナス者ハ手数料金參拾錢ヲ納ムヘシ

第一書式

(甲) 檢印願

一 複製物ノ題號 部(箇)數

一 著作物發行ノ土地並ニ其ノ年月日

一 著作者ノ氏名稱號

一 複製物發行者ノ氏名住所

一 同發行ノ年月日(發行シタルモノハ)

右ハ年月日複製シ(複製著手届出)タルモノニ付明治三十二年勅令第三百十四號第一條ニ依リ檢印相受度此段申請候也

年月日

發賣頒布者 住所 氏 名 印

著作權法施行法

七

警視總監
 北海道廳長官
 府縣(東京府ヲ除ク)知事
 廳長

(乙) 複製著手届

一複製物ノ題號
 一著作物發行ノ土地並ニ其ノ年月日
 一著作者ノ氏名稱號
 右ハ年月日複製ニ著手シタルモノニ付明治三十二年勅令第三百十四號第一條ニ依リ此段御届申上候也

年月日

住所 發行者 氏名 印

警視總監
 北海道廳長官
 府縣(東京府ヲ除ク)知事
 廳長

(丙) 檢印願

一複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ名稱
 右ハ何年何月地名(複製物發行ノ土地)ニ於テ發行シタル何誰(著作者ノ氏名稱號)著何題號(複製物)複製ノ用ニ供シタルモノニ付明治三十二年勅令第三百十四號第一條ニ依リ檢印相受度此段申請候也

箇數

年月日

住所 使用者 氏名 印

警視總監
 北海道廳長官
 府縣(東京府ヲ除ク)知事
 廳長

第二書式

(甲) 翻譯物檢印願

一 翻譯物ノ題號 部數

一 原著作者ノ氏名稱號

一 原書ノ題號

一 原書發行ノ年月日

一 原書發行ノ土地

一 翻譯物發行ノ年月日

右ハ年月日翻譯(翻譯著手)届出タルモノニ付明治三十二年勅令第三百十四號第二條ニ依リ檢印相受度此段申請候也

年月日

翻譯(發賣頒布)者 住所 氏 名 印

警視總監

北海道廳長官宛

府縣(東京府)知事

廳長

(乙) 翻譯届

一 翻譯物ノ題號

一 原著作者ノ氏名稱號

一 原書ノ題號

一 原書發行ノ年月日

一 原書發行ノ土地

右ハ年月日翻譯(翻譯ニ著手)シタルモノニ付明治三十二年勅令第三百十四號第二條ニ依リ此段御届申上候也

年月日

翻譯者 住所 氏 名 印

警視總監

北海道廳長官宛

府縣(東京府)知事

廳長

著作權法施行法

第三書式

興行届

一 著作者ノ氏名稱號
一 脚本又ハ樂譜ノ名稱及其發行ノ土地並ニ其ノ年月日
一 興行(興行ニ著手)シタル場所
右ハ年月日興行(興行ニ著手)シタルモノニ付明治三十二年勅令第三百十四號第三條ニ依リ此段、御届申上候也

年月日

興行者 住所 氏 名 印

警視總監
北海道廳長官宛
府縣(東京府ヲ除ク)知事
廳長

第四書式

檢印願

(著作者ノ氏名稱號)著
一 複製物ノ題號
右ハ年月日何廳府縣檢印ノ器械器具ニヨリ複製シタル複製物ニ付明治三十二年勅令第三百十四號第四項ニ依リ檢印相受度此段申請候也

年月日

發行者 住所 氏 名 印

警視總監
北海道廳長官宛
府縣(東京府ヲ除ク)知事
廳長

著作權法施行法

第一雛形

(甲) 檢印申請及届出目録簿

(複製物ノ部)

翻譯物ノ部
之ニ準ス

番檢印	日檢印	題製物ノ部	著作者ノ氏名	發行者ノ氏名	住申所氏名ノ住	年届出ノ月日	年申請ノ月日

(乙) 檢印申請及届出目録簿

(器械器具ノ部)

番檢印	日檢印	器械器具ノ名稱	箇數	著作者ノ氏名	製題物ノ住申所氏名ノ	年届出ノ月日	年申請ノ月日

(丙) 興行届出目録簿

脚本又ハ樂譜ノ名稱	著作者ノ氏名稱號	興行者ノ住所氏名	届出ノ年月日

第二雛形



內務省令第二十七號

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

明治三十二年六月二十八日

內務大臣 侯爵西郷從道

著作權法第二十七條ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ其ノ由著作物ノ題號及著作者ノ氏名稱號等ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ著作者ノ氏名住所明ナル場合ハ其ノ居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告スヘシ
前項期日ノ最終日ヨリ六箇月以丙ニ著作權者ノ出テサルトキハ之ヲ發行又ハ興

著作權法施行法

行スルコトヲ得

一六

内務省令第二十八號

著作權登錄ニ關スル規定左ノ通之ヲ定ム

明治三十二年六月二十八日

内務大臣 侯爵西鄉從道

- 第一條 著作權法第十五條ニ依リ登錄ヲ受ケントスル者ハ内務省ニ願出ヘシ
- 第二條 登錄願ハ著作權法第十五條第一項ノ場合ニ在リテハ第一書式第四項ノ場合ニ在リテハ第二書式ニ依リ且ツ著作物ノ明細書ヲ添付スヘシ
- 明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス
- 一 著作物ノ題號
- 二 著作者ノ氏名稱號(無名著作物ニ在リテハ之ヲ要セス)
- 三 著作及發行若クハ興行ノ年月日

四 著作物ノ體樣著作物ノ體樣ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル場合ハ其圖
面

五 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄ニシテ前登錄ヲ受ケタル場合ニ
在リテハ前登錄ノ年月日

第三條 著作權ニ關スル登錄簿ハ内務省ニ備置キ内務大臣ハ第一條ノ願出アル
毎ニ之ヲ登錄シテ官報ニ公告ス

第四條 何人ト雖モ登錄簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下附ヲ請求スルコト
ヲ得

前項ノ請求ヲナス者ハ著作權登錄ノ年月日若クハ登錄番號ヲ記シ願書ヲ差出
シ且ツ手数料金參拾錢ヲ納ムヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ヰルモノトス

第五條 登錄簿ノ閱覽ハ内務大臣定ムル所ノ期日ニ從ヒ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ
爲スヘシ

第一書式

(甲) 著作權登錄願

一著作物ノ題號 冊(箇)數

此登錄税金何圓也

印紙入

右著作權登錄相成度此段相願候也

年月日

著作權者(又ハ發行者)

住所及原籍

氏

名印

內務大臣宛

(乙)

著作權讓渡(質入)登錄願

一著作物ノ題號

冊(箇)數

此登錄税金何圓也

印紙入

右著作物ハ今般誰ヨリ誰ニ讓渡(質入)候間登錄相成度雙方連署ヲ以テ此段相願候也

年月日

讓渡(質入)人

住所及原籍

氏

名印

住所及原籍

讓受(質入)人

氏

名印

內務大臣宛

著作權法施行法

2214
3

第二書式

實名登錄願

一著作物ノ題號

冊(箇)數

此登錄税金何圓也

印紙入

11906

右著作物ハ疑ニ何(稱號)著作トシテ(無名ニテ)發行者誰(氏名)ノ名義ヲ以テ發行候處今般左記
ノ通實名ノ登錄相受度發行者連署ヲ以テ此段相願候也

年月日

著作者 氏

住所及原籍 名印

發行者 氏 名印

內務大臣 宛

明治三十二年五月二日印刷
明治三十二年五月五日發行

著作者

發行者

發行者

印刷者

印刷所 (電話本局) 三六九番

東京市神田區 六番町十七番地

明法堂

有斐閣書房

東京市神田區 裏神保町七番地 (電話本局) 一四三六番
東京市神田區 一ツ橋通町七番地 (電話本局) 三二二三番

發行所



水野 鍊 太郎

東京市本郷區西片町十番地

鈴木 敬 親

東京市神田區裏神保町七番地

江草 斧 太郎

東京市神田區一ツ橋通町七番地

松澤 玳 三

東京市神田區下六番町十七番地

同 勞 舍

東京市麴町區 六番町十七番地

大 賣 捌 所

東京市日本橋區通三丁目

林平次郎

同 日本橋區通一丁目

大倉書店

同 京橋區館屋町 東海
信文

合資會社

同 京橋區弓町

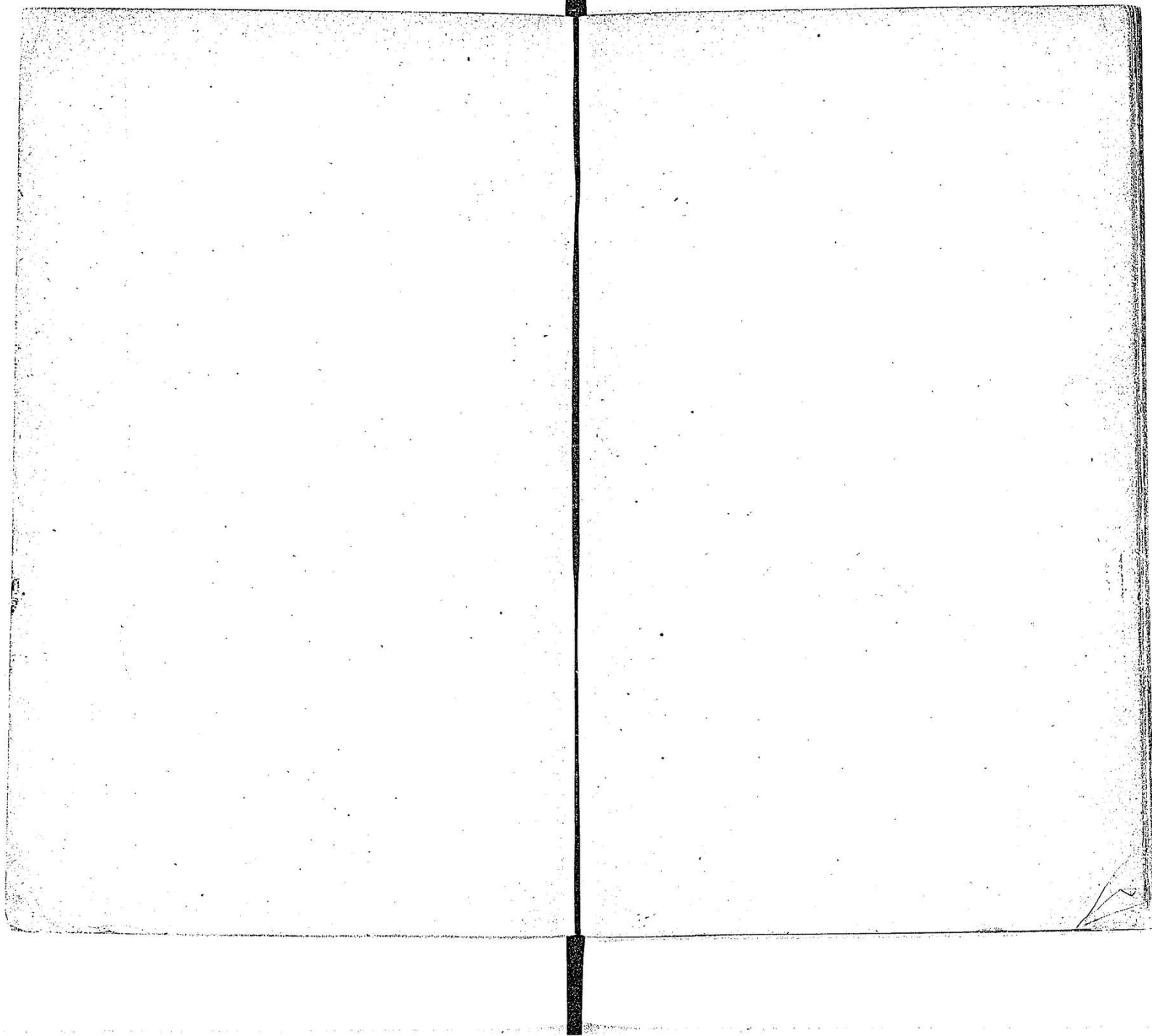
三松堂

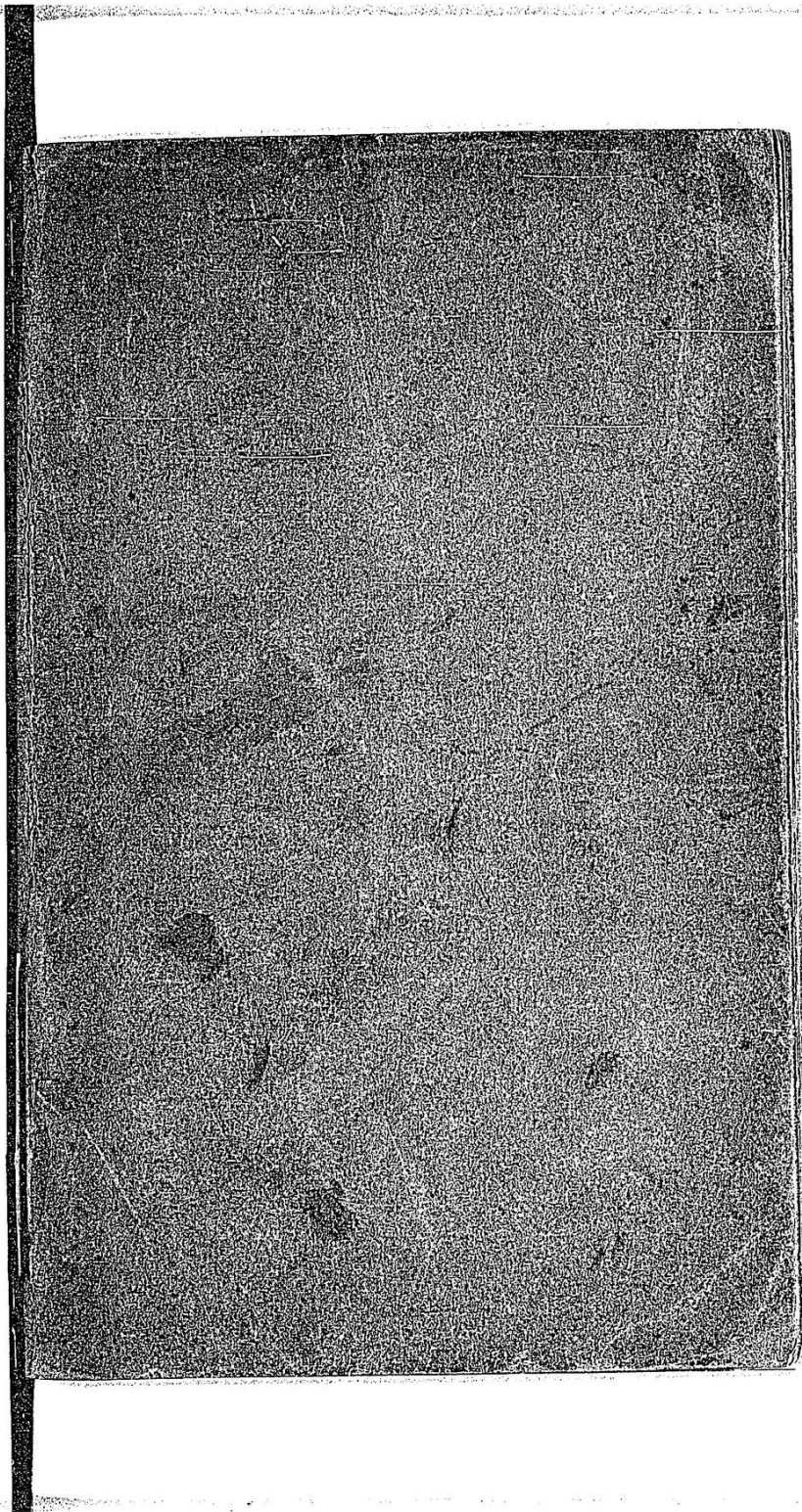
同 神田區鍛冶町

朝香屋

大阪東區備後町

吉岡平助





86

12/x

著作權法要義

全

有斐閣
法學士 水野鍊太郎先生著

東京

有斐閣書房
明法堂

037948-000-7

86-121

著作權法要義

水野 鍊太郎 / 著

M32

B BX-0049

